

61

139

6 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 cm

始



中 7,823

衛生叢書

第七輯

61-139

衛生叢書 第七輯

目次

- 一 英國醫師登記法令
- 一 米國看護人登記法
- 一 佛國衛生文書彙纂抄譯
- 一 佛國「リヨン」市結核施療院記事譯文
- 一 マサチユセツト洲フオール、リバー結核施療院規則
- 一 藥局方治療血清ニ關スル規則及命令(獨逸、佛國、露國、諾國、伊國、瑞西、北米合衆國)
- 一 紐育市牛乳ノ標準ニ關スル委員會第三回報告
- 一 市俄古市ノ公衆衛生行政
- 一 便所、下肥溜ノ場所、建設、保存、掃除ト下水トノ連絡ニ關

至自 至自 至自 至自 至自 至自 至自 至自 至自
 四一 一一 一
 二五 五〇 〇五 五五 四三 二一 一一 一
 五八 七一 〇五 四〇 九〇 九八 七三 二一頁

大正
 7 5. 9
 寄贈

寄贈本

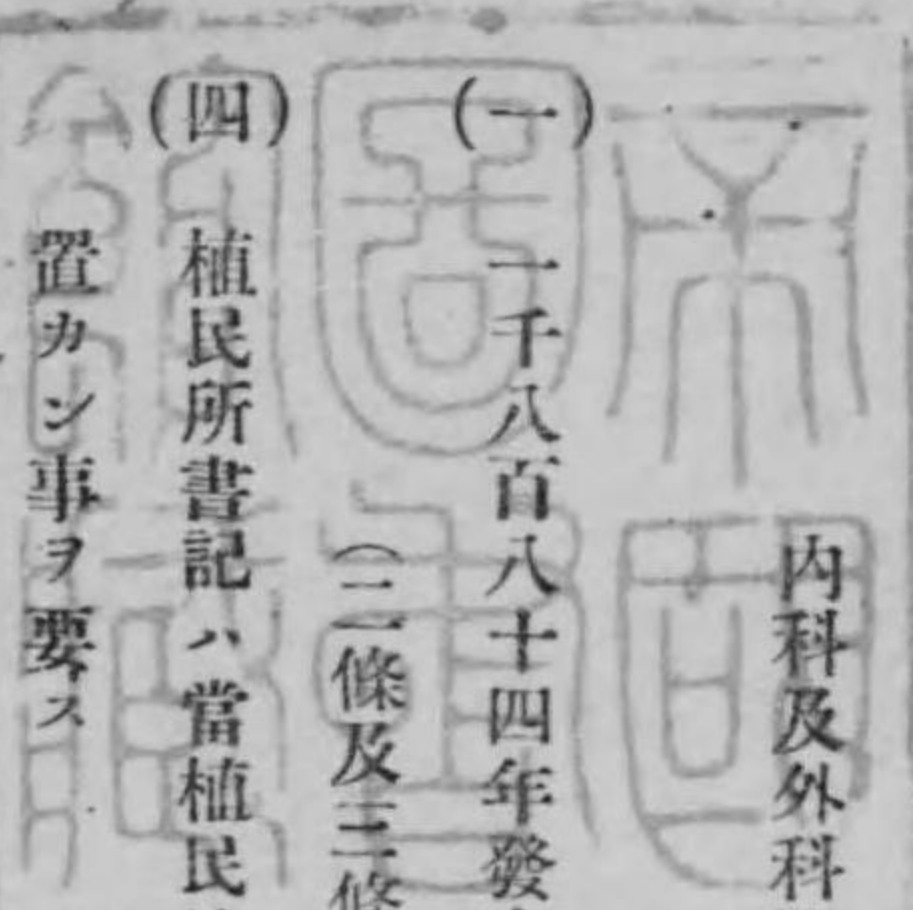
衛生叢書 第七輯

○英國醫師登記法令

一千八百八十四年法律第一號

内科及外科開業醫登記資格等ニ關スル法令

(一千八百八十四年四月五日)



- (一) 一千八百八十四年發布醫師登記ニ關スル法令
- (二) 條及三條ハ改正)
- (四) 植民所書記ハ當植民地ニ於テ内科及外科ノ醫術ヲ營ムヘキ資格ヲ有スル開業醫ニ關スル登記簿ヲ備ヘ置カシム事ヲ要ス
- (五) 植民所書記ハ毎年五月三日後ニ發行セラルタル初メテノ官報中ニ登記簿ノ内容ヲ發表センコトヲ要ス而シテ此登記簿中ニ姓名ノ記載セラレサルモノハ無論登記セラレサルモノトス
- (六) (一) 植民所書記ハ登記簿中ニ記載セラレタル者ノ住所若クハ資格ニ變動ヲ生シタランニハ、其都度々々之ヲ變更センコトヲ要ス、又タ登記ヲ經タル者ニシテ死亡スルカ若クハ其資格ヲ失フタランニ

ハ其氏名ヲ取り消サン事ヲ要ス

(二) 植民所書記ハ登記ヲ經タル或ル者ニ對シテ登記簿中ニ記載サレタル住所ヲ肩書ニシテ、其住所ニ變更アリヤナキヤヲ問合シタル場合アラニ、夫ヨリ六ヶ月以内ニ何タル返答之レナシトセンカ、斯ル場合ニ於テハ登記簿中ヨリ其氏名ヲ除カンコトヲ要ス

(七) 苟クモ登記ヲ經タランモノハ何人ト雖モ當植民地ニ於テ内科及外科ノ醫術ヲ行フヘキ權能ヲ有スルモノトス、又タ内科若クハ外科ノ術ヲ施コシタルニ就テ相當ノ報酬ヲ要求シ場合ニ依リテハ訴訟ヲ起スコトヲ得ヘク、又タ斯ル醫術ニ要シタル費用ヲモ受クヘキモノトス

(八) 登記ヲ經サル醫師ニシテ内科若クハ外科ノ醫術ヲ施コシタルカヲテ、之カ報酬ヲ受クヘキ訴訟ヲ提起スルコト能ハス、是レ三條ノ規定スル所タリ

(九) 内科醫、外科醫若クハ藥劑師ニシテ或ル證書ヲ認メタル場合ニ於テ、國會ノ議決若クハ他ノ法令ニ從ツテ之ニ調印シタリトスルモ、若シ此等ノ醫師ニシテ尙ホ未タ登記ヲ經サルモノナランカ、斯ル證書ハ全ク無効ナルモノトス

(十) (一) 所謂「醫務局」ナル一局ヲ設立センコトヲ要ス、而シテ此醫務局ハ左記ト數者ヨリ組織セラル、モノトス、曰ク市ノ重モナル醫官、海軍々醫及陸軍々醫ノ古參、二名ノ登記ヲ經タル開業醫、其他知事ヨリ任命セラルヘキ適當ナル志望者三名是レナリ

(二) 尙ホ知事ヨリ令一名ヲ任命スヘキモノトス、其任期ハ三ケ年ト定メラレタルモ知事ノ意見ニ從ツテ再任セシムルコトモ免職スルコトモ妨ケナキモノトス

(十一) 局員三名ヲ以テ事ヲ處決スルノ定數トナス
今マ茲ニ一人アリ、一千八百五十八年、及一千八百八十六年發布ノ醫師取締條例、若クハ此醫師取締條例ヲ改正スル所ノ條例ノ規定スル所ニ從ツテ、登記願書ヲ差シ出サント欲スル場合ニハ必ス左記ノ如キ手續ニ從ハンコトヲ要ス、曰ク此出願者カ治安裁判所ニ於テ宣言シタルモノニ五弗ノ收入印紙ヲ貼付シテ植民所書記ノ許ヘ差シ出サンコトヲ要ス、但シ此出願者ノ氏名ハ一千八百五十八年發布ノ醫師取締條例ノ規定スル所ニ從ツテ最近ニ發表シタル醫師登記簿中ニ在ランコトヲ要ス

(十二條ハ改正)

(十二) 前條ノ規定スル所ニ從ツテ登記出願ヲ爲サント欲スル者ハ、醫務局ノ參考ニ供センカ爲メニ其資格等ニ關スル事實ヲ證明センコトヲ要ス

(十三) 醫務局ニシテ右等ノ證明カ事實ニ相違ナシト認メタランニハ、附録ノ三號書式ニ從ツテ調製シタル證明書ヲ授與センコトヲ要ス

(十四) 右ノ證明書ニ貳拾五弗ノ收入印紙ヲ貼付シテ植民所書記ニ差シ出シ、植民所書記ハ斯ル人ヲ開業醫トシテ登記セシメンコトヲ要ス

(四)若シ醫務局ニ於テ右ノ如キ出願者ノ差シ出シタル憑據書類、其資格ノ適當若クハ其出願書類ノ中不完全ナル所アリト認メタル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其不完全ナリト思惟スル顛末ヲ委シク書面ニ認メテ、醫事委員會ノ一員タル知事ノ許へ回送センコトヲ要ス、知事ハ醫務局ノ意見カ果シテ正當ナルヤ否ヤヲ裁決スヘク、其裁決ハ最終ノモノニシテ復タ動カスヘカラサルモノトス

(五)或ル開業醫ニシテ一旦登記ヲ經タルモノト雖モ場合ニ依リテハ其登記ヲ取り消サル、コトアルヘシ、即チ或ル開業醫ニシテ何等カ犯罪ノ廉アルカ若クハ其行狀善カラスシテ醫務局ノ取調ノ結果、其職業柄面目ヲ害スヘキ行動ナリト思惟シタランニハ、醫務局ヨリ植民所書記ノ許へ其狀ヲ具中スヘク、植民所書記其具申ヲ至當ナリト認メタランニハ其醫師ノ登記ヲ取り消サンコトヲ要ス

(六)治安裁判所ニ於テ故意ニ詐僞ノ宣言ヲナシナカラ法令ニ從ツテ成規ノ宣言ヲ爲シタリト粧フモノハ、何人ト雖モ偽證罪トシテ處罰セラル、モノトス

(七)己レ自カラ登記セラレントスルカ若クハ他人ヲシテ登記セシメントスルノ際、口頭若クハ書面ニテ詐僞ノ申立或ハ詐僞ノ宣言ヲ爲シ或ハ爲サシメ及之カ幫助ヲ與ヘタリトセンカ、何人ニ限ラス犯罪行爲トシテ二ケ年ヲ超ヘサル期間ノ禁錮ニ處セラルヘキモノトス

左記ノ如キ行爲アルモノハ何人ニ限ラス一百弗ニ超ヘサル罰金ニ處セラルヘキモノトス

(一)元來内科及外科ノ醫術ヲ施コスヘキ資格ナキ者カ故意ニ醫學士ナトト詐稱スル事

(二)曾テ醫師ノ登記ヲ經タルコト之レナキ者カ、利益ヲ貪ランカ爲メニ内科及外科ノ醫術ヲ行ヒ或ハ行フヘキ旨廣告シ、或ハ斯ル醫術ヲ行フテ報酬ヲ受ケタル者

(六) (一)登記セラルヘキ人ノ權能、登記方法、登記簿ヨリ或ル人ノ氏名ヲ除去スル事、登記簿ノ或ル變更等ニ關シテ問題起リテ之ヲ處分スルニ就テ議論區々タラン場合ニハ、醫務局ノ裁決ヲ仰カンコトヲ要ス、但シ此裁決ニ對シテ不服ナランニハ醫務會ノ一員タル知事へ上告スルコトヲ得ヘシ

(二)若シ斯ル上告之レナシトセンカ、斯ル場合ニ於テハ醫務局ノ裁決若クハ命令等ハ最終ノモノニシテ復タ動カスヘカラサルモノトス

(三)若シ斯ル上告之レアリトヤンカ、斯ル場合ニ於テハ右ノ知事ノ裁決ヲ最終ノモノトシテ復タ動カスヘカラサルモノトス

(七)凡ソ市ノ醫官タルモノ、海軍及陸軍ノ醫官ニシテ當植民地ニ奉職シテ充分ノ俸給ヲ受ケ居ルモノハ、皆ナ登記ヲ經タル開業醫ト見做サル、モノトス

附 錄

第一號書式

醫師登記ノ事

内科及外科ノ醫術ヲ行フヘキ資格ヲ有スル者

六

氏 名 住 所 資 格 ノ 性 質 資 格 ヲ 得 タ ル 年 月 日

第二號書式

宣 言 書

、、、ニ住居スル所ノ予(何某)ハ茲ニ左ノ如キ事ヲ宣言ス、曰ク予ハ(此所ニハ何々學校、何々學部若クハ何々學會等ヲ示スヘシ)ノ一員ニシテ、斯ル(同上)ヨリ、年、月、日、内科及外科ノ醫術ヲ行フヘキ資格ヲ授與セラレタリ、而シテ今マ予ハ何某ノ名義ヲ以テ帝國議會ノ決議ヲ經タル一千八百五十八年及一千八百八十六年發布ノ醫師取締條例ノ規定スル所ニ從ツテ内科及外科ノ醫術ヲ行フヘキ資格アル醫師トシテ登錄セラルヘキモノナリ

何 某 (調印)

右予ノ面前ニ於テ宣言セシ事ヲ證明ス

、、、年、月、日

治安裁判所裁判官何某(調印)

一千九百十四年第三十一號

一千八百八十四年發布ノ醫師登記法令ヲ改正スヘキ法令

予ハ此法令ヲ裁可ス

調印

知事 エフ、エッチ、メー

〔一千九百十四年十二月四日〕

香港知事ハ立法會議ノ助言及協贊ヲ得テ左記ノ如キ法令ヲ制定ス

略 名

第一條 此法令ヲ名ケテ一千九百十四年發布醫師登記法改正法令ト云フ、而シテ此法令ハ一千八百八十四年發布醫師登記法令(以後之ヲ原法令ト名ク)中ノ一部分ト解釋スヘク、復タ此原法令ト今回發布ノ法令トヲ併セテ以テ一千八百八十四年及一千九百十四年發布醫師登記法令ト稱スヘキモノトス
一千八百八十四年發布第一號法令ノ第二條ヲ廢止シ之ニ代フルニ新法令第二條ヲ以テス

第二條 原法令ノ第二條ハ之ヲ廢シ之ニ代フルニ新法令第二條ヲ以テス、即チ新法令第二條ニ規定スル所ハ左ノ如シ

(一) 『登記ヲ經タル人』ノ意義ハ此法令ノ規定スル所ニ從ツテ登記サレタル人ノ謂ナリ

(二) 『實行』ノ意義ハ或ル疾病ヲ診斷シ、其診斷シタル疾病ハ内科的ニ治療スヘキカ、若クハ外科的ニ

七

治療スヘキカ等ヲ定ムルノ謂ナリ、但シ助手タランモノハ登記ヲ經タル醫師ノ監督指揮ノ下ニ行
動スヘク、此等ノ行動モ亦タ是レ實行ノ意義ナリト知ルヘシ

(イ)(三)

當法令中其他ノ規定スル所ニ據レハ左ニ記載スル人ハ登記セララルヘキ資格ヲ有スルモノトス

(イ)

我國王陛下ノ統治シ玉フ他ノ所領地ニ於テ内科及外科ノ開業醫トシテ、法律上適當ニ登記セララル

ヘキ者、及此等ノ所領地ニ於テ内科、外科及産科ノ醫術ヲ開クヘキ資格アル者ハ登記セララルヘキ

資格アルモノトス、但シ此等ノ資格ハ我聯合王國ノ中央醫育及登記會ノ承認ヲ經ンコトヲ要ス

(ハ)(ロ)

香港大學ヨリ一ノ學位ヲ授與セラレタル者

歐羅巴、亞米利加合衆國及日本帝國ノ或ル醫學校ヨリ學位若クハ卒業證書ヲ受ケタル者、但シ其

學位若クハ卒業證書ナルモノハ中央醫育及登記會ニ於テ不都合ナル點ナシト承認シタルモノナラ

ン事ヲ要ス、尙ホ右ノ如キ人ハ自カラ品行ノ善良ナルコトヲ證明シテ、醫務局カ其證明ノ確實ナ

ルコトヲ認定センコトヲ要ス

第六條 原法令第十九條ノ末尾ニ左記ノ如キ條項ヲ追加スヘキモノトス、即チ新條例ニ依リテ舊條例ヲ改

正シタルモノ是レナリ

『第廿項 何人ニ限ラス此法令第十二條ノ規定ニ該當セサルモノハ登記セララル、コトヲ得ス、但シ一千九

百十四年發布ノ醫師登記法改正法令ノ實施當時ニ於テ既ニ登記セラレ居タリシモノハ、此法令ノ第六條、

第十四條、第十五條、第十六條、第十七條及第十八條ノ規定スル所如何ニ拘ラス當ニ登記セララルヘキモ
ノトス』

第七條 原法令ノ附録第三號書式ハ最早廢止セラレ、從ツテ左記ノ書式ヲ用ヒンコトヲ要ス

第三號書式 (第十三條)

登記資格ノ證明

二十五弗
ノ收入印
紙貼用。

本書ハ左記ノ事實ノ全ク相違ナキ事ヲ證明スル者ナリ、曰ク何某トハ、、、地方ニ於ル開業醫ト
シテ適ニ法律ニ從ツテ登記セララルヘキモノナリ、又内科、外科及産科ノ醫業ヲ開クヘキ資格ヲ有シ、
聯合王國ノ中央醫育及登記會ニ依リテ登記セララルヘキ資格ヲ有スル事、(若クハ此何某ハ香港大學、
、、ノ學位ヲ有スル事、若クハ、、、醫學校ノ學位若クハ卒業證書ヲ有シ以テ聯合王國ノ中央醫

育及登記會ニ依リテ登記セラルヘキ資格ヲ有スル事、又此何某ハ其品行善良ニシテ一千八百八十四年及一千九百十四年發布ノ醫師登記法令ニ從ツテ登記セラルヘキ資格ヲ有スル事ヲ證明スルモノナリ

年 月 日

右ハ醫務局書記ノ命ニ依ルモノナリ

一千九百十四年十二月三日香港立法會議ヲ通過ス

會議書記

エム、ゼー、ブリーン

植民所書記

クラウド、セウ、ハー

一千九百十四年十二月四日知事之ヲ裁可ス

第三條 原法令ノ第三條ハ之ヲ廢止シ之ニ代フルニ左ノ第三條ヲ以テス

『第三條 (一)本法令中何レノ規定ト雖モ或ル支那人ノ左ノ如キ權能ニ對シテハ毫モ影響ヲ及ホサ、ルモノトス、曰ク支那人カ純然タル支那的法式ニ從ツテ内科若クハ外科ノ醫術ヲ實行スヘキ權能ニハ

何等ノ影響ヲモ及ホサス、又タ斯ル醫術ヲ施コシタルカ爲メ法廷ニ訴ヘテ之カ報酬ヲ取ルヘキ權能ニ對シテハ毫モ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス、但シ斯ル支那人ハ近代ノ科學的方式ニ從ツテ内科若クハ外科ノ醫術ヲ行フヘキ資格アリト人ヲシテ信セシムヘキ稱號ヲ用フルコトヲ許サス

(二)本法令中如何ナル規定アルニモ拘ラス苟クモ香港醫學校ヨリ學士號ヲ得タランモノハ、現在ト將來トヲ問ハス皆ナ是レ内科及外科ノ醫術ヲ行フヘキ資格ヲ有スルモノトス、又タ斯ル醫術ヲ行フタルカ爲メ法廷ニ訴ヘテ之カ報酬ヲ取ルヘキ權能アルモノトス、然レトモ斯ル學士ハ一千八百九十六年發布ノ出生死亡登記法令ノ規定スル所ニ從ツテ其筋ニ差シ出スヘキ證書ニ調印スルコトヲ得ス、但シ知事ヨリ之カ權能ヲ與ヘラレタル場合ハ此限ニアラス

(三)茲ニ或ル人アリ一千八百十四年七月一日カ若クハ其以前ニ於テ此植民地ニ在リテ内科若クハ外科ノ醫術ヲ行ヒ居タリトセンカ、醫事委員會ノ一員タル知事ハ醫務局ト協議ヲ遂ケタル上、斯ル人ニ對シテ更ニ内科若クハ外科ノ醫術ヲ行ヒ、且ツ法廷ニ訴ヘテ斯ル醫術ヲ行フタルカ爲メ報酬ヲ取ルヘキ權能ヲ授與スヘキ權能ヲ有スヘキモノトス、即チ所謂知事タランモノハ此法令ノ規定スル所如何ニ拘ラス斯ル權能ヲ有スヘキモノトス、然レトモ右ニ述ヘタル醫師ハ一千八百九十六年ノ發布ニ伴ル出生及死亡登記法令ノ規定セル條項ニ從ツテ作成スヘキ證書ニ調印スルコトヲ得ス、但シ知事ヨリ之カ權能ヲ與ヘラレタル場合ハ此限ニアラス、而シテ此等ノ條項ノ規定スル所ニ從ツテ知事ヨリ

二二
斯ル權能ヲ與ヘラレタル人名表ハ、毎年五月三日以後初メテノ官報紙上ニ公告センコトヲ要ス
第四條 原法令ノ第九條中第一行目ノ「No」字ノ前ニ「(一)」ノ記號ヲ加入シ、又タ其末尾ニ左記ノ事項ヲ追
加シテ之ヲ改正スルモノトス

「一千八百九十六年發布ノ出生及死亡登記法令ノ規定スル所ニ從ツテ、作成スヘキ醫師ノ死亡診斷書ナ
ルモノカ、知事ヨリ斯ル診斷書ヲ作成スヘキ權能ヲ授與セラレタル醫師ノ手ニ成リタリトセンカ、斯
ル診斷書ハ登記ヲ經タル醫師ノ作成シタルモノト全ク同一ナル効力ヲ有スルモノトス

(二)知事ヨリ右ノ如キ權能ヲ與ヘラレタルモノ、人名表ハ、毎年五月三日以後ニ發セラレタル初メテノ
官報紙上ニ公告センコトヲ要ス

(三)醫事委員會ノ一員タル知事ハ右ノ如キ權能ヲ有スルモノトス、曰ク知事ヨリ左ノ如キ權能ヲ與ヘラ
レタル者ノ遵守スヘキ規則ヲ編成スル事、及右ノ如キ權能ヲ與ヘラレタル者カ其規則ニ違犯シタリト
見据ヘツキタランニハ其權能ヲ取り上クヘキ權能ヲ有スルコト是レナリ

○米國看護人登記法

看護登記局ハ布哇地方立法局ノ近頃制定シタル法律ノ規定スル所ニ從ツテ、一千九百十七年十月九、十ノ
兩日ホノル、ナルカウイケオランド小兒科病院ニ於テ試験ヲ執行スルモノトス
受験出願人ノ試験ヲ受クヘキ科目ハ内科、外科、産科及飲食攝生法ナリトス
從來三ケ年間看護事業ニ其身ヲ委ネタル者及洲ヨリ交付シタル登記證書ヲ有シ、其證書ハ登記局之ヲ承認
シタランニハ、一千九百十八年七月一日マテハ試験ヲ要セスシテ登記セラルヘキモノトス、凡ソ布哇地方
ニ於テ看護事務ヲ職業トシテ行動スルモノハ皆ナ登記ヲ經サルヘカラス
登記出願者ノ願書用紙ハ左記ノ登記局書記ヨリ之ヲ申シ受ケテ、規定ノ事柄ヲ記入シテ一千九百十七年八
月一日マテニ登記局事務所ヘ差シ出サンコトヲ要ス

ホノル、アラキー街一千六十七番地

看護登記局書記

デー、エー、バツテン

看護人登記法條例

布哇地方立法局ノ制定

第一條 當地方ノ知事ハ本條例議定後六十日以内ニ看護登記局設立ノ命令ヲ發センコトヲ要ス、而シテ此看護登記局ハ左記ノ者ヨリ組織セラル、モノトス、曰ク局員ノ三名ハ看護人タルヘク、其看護人ト云ヘルハ所謂看護人練習學校ヨリ卒業證書ヲ有シ、少ナクモ病院ニアリテ二ケ年間看護事業ノ學說ト實地トヲ研究シ、五ケ年間患者看護ノ實驗ヲ經タルモノナランコトヲ要ス、一名ハ醫師ニシテ看護人練習學校ヲ有スル病院ノ顧問タルヘキモノ、自餘ノ局員ハ醫師試驗局ノ書記ヲ以テ之ニ充ルモノトス

看護登記局々員ノ任期ハ左ノ如クナランコトヲ要ス、曰ク一千九百十七年七月一日ヨリ計算シテ一ケ年一名、二ケ年一名、三ケ年一名、四ケ年一名及五ケ年一名是レナリ、而シテ此等ノ局員ハ其後任者ノ任命セラル、マテ其職ニ在ルヘキモノトス、斯クテ知事タランモノハ翌年七月一日ヨリ以前ニ於テ五ケ年間勤務スヘキ局員一名(前述セル資格ヲ有スルモノ)ヲ任命センコトヲ要ス、又タ局員中缺員ノ生シタル場合アランニハ之カ補缺者ヲ任命スヘク、但シ其補缺者ノ任期ハ前任者ノ任期ノ盡キサル期間ナリト知ルヘシ

第二條 此登記局々員ハ一千九百十七年七月第二ノ火曜日ヲ以テ集會ヲ開催スヘク、後年々之ヲ定例ト爲ス、又局員中ヨリ議長ヲ選拔スヘク其任期ハ一ケ年ト定ム、又醫師試驗局ノ書記ニシテ局員ノ一員タルモノハ當登記局ノ書記タランコトヲ要ス、而シテ當登記局ハ年々四回ノ定期會議ヲ開催スヘク、其開會時日ハ一月第二ノ火曜日、四月第二ノ火曜日、七月第二ノ火曜日、十月第二ノ火曜日はレナリ、其他必

要ノ事故アリテ會議ヲ開カントスル場合ニハ其都度場所ト時日ヲ定ムヘキモノトス

第三條 此登記局ノ組織セラレタランニハ其職責トシテ直チニ左記ノ手續ヲ爲サンコトヲ要ス、曰ク當地方ニ於テ苟クモ患者ノ看護ニ從事シ居ルモノニハ皆ナ是レ登記試験ノ時日、場所及科目等ヲ知ラシメサルヘカラス、而シテ其之ヲ知ラシメンニハ各地方及市郡等ニ廣ク散布セラル、新聞紙ヲ以テセンコトヲ要ス、斯クテ登記出願者ハ登記局ヨリ交付セラル、願書ニ規定ノ事柄ヲ記載シテ調印宣誓ノ上提出センコトヲ要ス、且ツ各登記出願者ハ(男女共ニ)少ナクモ年齢十八歳ニ達シ品行方正ナルコトニ就テ充分ナル證明ヲ與ヘ登記手数料五弗ヲ納付センコトヲ要ス、斯クノ如クシテ試験執行ノ結果適當ノ資格アリト認定サレタランニハ茲ニ初メテ登記セラルヘキモノトス、既ニ登記ヲ經タランニハ登記局長及書記ノ調印シタル登記證書ヲ交付セラル、モノトス、若シ又受験者ニシテ不合格ノ故ヲ以テ登記ヲ拒絕セラレタルモノアランカ、斯ル受験者ハ其後一年以内ニ再試験ヲ受クルコトヲ得ヘシ、即チ登記局カ登記出願者試験執行ノ爲メニ開催シタル集會ニ於テ試験セラル、モノトス、但シ登記手数料ハ再ヒ納ムルヲ要セス、又タ既ニ登記ヲ經タル看護人(男女共)ニシテ刑罪ニ當ルヘキ行為アルカ、若クハ其職業柄アルマシキ行動アリ、登記局カ取り調ヘタル末全ク事實ニ相違ナキコト判明シタランカ、斯ル場合ニ於テハ局員過半数ノ意見ニテ其登記證書ヲ取り上ケ且ツ其登記ヲ取り消サンコトヲ要ス、凡ソ此登記局ノ費用ハ皆ナ是レ登記出願者ヨリ納付シタル登記手数料ヨリ支拂フヘキモノトス、局員ノ俸給若クハ其他ノ費用ハ決シ

一六
テ大藏省ヨリ支拂フヘキモノニアラス、登記局ノ入金ハ之ヲ特別資金トシテ大藏省ニ保管シ置キテ登記局ノ費用ニ充ツヘキモノトス

第四條 試験ヲ行ハンニハ半ハ筆記ニ依リ半ハ實地ニ依ルヘキモノトス、其他看護ノ原則及方法等モ試験中ニアルヘキモノトス

第五條 茲ニ一ノ登記出願者アリ此地方ノ居住民ニシテ本條例發布後一ケ年以内ニ登記出願ヲ爲シ、且ツ自分(男女共)ハ登記出願ノ時日ヨリ以前ニ湖ホリテ患者看護ニ従事スルコト茲ニ三ケ年ノ久シキニ及ヘリ、又病院若クハ看護人練習學校ニ於テ試験ヲ經タルコトヲ證明スヘク、此等ノ證明ニシテ登記局ヲ満足セシメタリトセンカ、斯ル登記出願者ハ五弗ノ登記手数料ヲ納メテ試験ヲ受クルヲ要セス、直チニ登記セラルヘキモノトス

第六條 茲ニ一ノ人アリ或ル洲ノ法律ニ從ツテ看護人トシテ既ニ登記ヲ經タルモノニシテ、登記局ノ意見ニテ其實力カ本條例ノ規定スル所ニ合致シタルモノト認定シタリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ登記局ハ試験ナクシテ登記ヲ許可スヘキ權能ヲ有スルモノトス

第七條 登記局ハ本條例ノ規定ニ違犯シタル者アリトノ告發ヲ受ケタランニハ、篤ト其事實ヲ取り糺シタル上之ヲ裁判スヘキ適當ノ官吏ニ報告センコトヲ要ス

第八條 登記局ハ一ノ帳簿ヲ調製シ置キテ登記ヲ經タル者ノ氏名ヲ一々記入シ、且ツ金錢ノ收支ヲ明細ニ

記載センコトヲ要ス又年々七月一日若ハ其以前二年報ヲ作成シテ知事ノ許ヘ差シ出サンコトヲ要ス蓋シ、其年報中ニハ前年中ニ於ル當地方ノ看護人ノ情況、局員ノ取りタル諸ロノ行動及金錢出納等ヲ記載スヘキモノトス

第九條 本條例ノ規定ハ左記ノ如キ者ニハ適用スヘキモノニアラス、曰ク患者ノ友人若クハ其親族中ノ者カ無報酬ニテ好意的ニ看護ノ勞ヲ取ルノ場合、若ハ登記ヲ經ヘキ看護人タルノ意志ナク一時若干ノ手當ヲ受ケテ患者ノ看護ヲ爲スモノ、如キ是レナリ

第十條 登記局ハ其事務ノ處理上然ルヘシト思惟シタル規則章程ヲ設クルコトヲ得ヘシ、但シ其規則章程ハ當地方ノ法律ト牴觸スル所ナカラシコトヲ要ス

第十一條 本條例ハ其筋ノ承認ヲ經テ初メテ効力ヲ有スルモノトス
紀元一千九百十七年四月二十八日ヲ以テ本條例ヲ承認ス

布哇地方知事

リウシウス、イービンカム

○佛國衛生文書彙纂第四十二卷抄譯

○千九百二十二年十二月十五日ノ衛生法第九條ノ規定ニ基キ千九百二十一年度全國平均死亡率統計表調製上各縣知事ニ對スル千九百二十二年七月二十六日附佛國內務大臣ノ訓令

千九百二十一年度ニ於ケル全國人口ノ異動ニ關シテ勞働者カ公示セル報告書ハ載セテ本年六月六日ノ官報ニ詳ナリ

此報告書ニ據レハ千九百二十一年度ニ於ケル全國ノ死亡平均率ハ人口一百ニ付一割九分六厘ナリ

貴下乃チ該報告書ヲ取リテ之ヲ貴縣所在各市町村住民ノ死亡表ニ對照シ其死亡數及ヒ其百分率ニ朱線ヲ施サンコトヲ望ム

貴下ハ前數大臣ノ訓令就中千九百十六年四月二日附ノ訓令ニ基キ貴縣所在市町村住民ノ死亡表ト該報告書トヲ對照シ貴縣ノ衛生會議ニ對シ千九百十九年乃至千九百二十一年ノ三年間ニ於ケル死亡平均率ヲ超過シタル市町村ノ爲メ千九百二十二年二月十五日ノ衛生法第九條ニ規定セル調査ヲ命スルコトヲ要ス

此死亡率ノ調査ニ關スル詳細ノ事項ハ千九百十九年七月六日附內務大臣ノ訓令ニ列舉セル故ニ一々該訓令ヲ參照シテ遺漏ナカラシムコトヲ望ム

貴下ハ立法者カ規定セル條件ニ該當セル貴縣所在市町村ノ名稱ヲ列舉シ且各年度ノ人口ト死亡數トヲ併舉

シテ速ニ之ヲ余ニ提出スルコトヲ要ス

貴下ハ又貴縣衛生會議ノ報告ニ基キテ其調査ノ結果ヲ余ニ報告センコトヲ望ム

千九百二十二年七月二十六日

內務大臣ノ命ヲ奉シ

內務次官 べ、モ、レ、ル

○市町村ノ一般保健殊ニ上水及下水ノ調査ニ關シ全國ノ知事ニ對スル千九百二十二年十一月五日日附佛國內務大臣ノ訓令

我高等衛生會議ニ提出セラレ、幾多ノ問題、高等衛生會議カ我內務省ニ要求スル情報及ヒ其參照事項ノ比較對照ニ供スヘキ材料ノ目錄調製ノ爲メ特ニ飲用水、下水、家庭ノ排泄物及ヒ墓地ニ關シ人口五萬以上ノ市町村及ヒ溫泉場、轉地療養所、鑛泉場ノ如キ一定ノ季節ニ民人ノ輻輳スル市町村ノ狀況ヲ審ニスルコトヲ得ヘキ材料ヲ蒐集セント欲シ貴下ニ對シテ前示二種ノ市町村ヲ列舉シ且各其狀況ノ詳細ナル報告ヲ提供センコトヲ望ム

貴下ハ別紙ニ列舉セル諮問事項ニ就キ速ニ詳細ナル調査ヲ遂ケ貴下所管市町村ヲシテ各二通ノ報告書ヲ提出セシメ當該市町村ノ衛生課長及ヒ縣衛生監督官ノ檢印ヲ附シ其中一通ハ之ヲ貴下ノ縣廳ニ保管シ他ノ一通ハ之ヲ內務省ニ提出スルコトヲ要ス

千九百十二年十一月五日

二〇

内務大臣ノ命ヲ奉シ

内務次官 へ、モ、レ、ル

○諮問事項

第一 上水

- 一、飲用水公共供給機關ノ有無
- 二、其飲用水ハ湧泉、河水鑽井ノ何レヨリ之ヲ供給スル乎
- 三、其飲用水ハ工場若クハ道路ノ掃除ニ供給スヘキ清水ヲ併用スルコトナキ乎
- 四、工場用水及ヒ道路掃除用水ハ互ニ相獨立シテ混用スルコトナキ乎
- 五、現時尙ホ飲用水供給ノ増加案存セサル乎
其増加案有リトセハ其設計ノ大綱ヲ提示スルコトヲ要ス
- 六、其市町村ノ地域内ニ新ニ占領且配附スヘキ飲用水ノ湧泉若クハ貯水池存スルコトナキ乎
- 七、其市町村ノ地域全部ハ皆公共水道ヨリ飲用水ヲ仰クモノナル乎
- 八、若否ラストセハ其給水ノ方法如何
- 九、其市町村ニハ境界川若クハ河川ニ沿ヘル洗濯場在ル乎

二〇、河川ニ沿ヘル洗濯場及ヒ飲用水ノ石管ハ永久的ノモノナル乎將タ間歇的ノモノナル乎其方法制度ヲ明示スルコトヲ要ス

- 一、其飲用水カ湧泉ヨリ供給セラル、モノトセハ其湧泉ノ名稱、位地、占領ノ時期、方法、湧出ノ地點、水脈、水量、剩水、泉源ノ保護圈、監視方法、其附近ニ於ケル家屋ノ有無ヲ明示スルコトヲ要ス
- 二、飲用水カ河水ナルトキハ其河川ノ名稱、占領地、河川ノ上流ナル乎又ハ下流ナル乎其河水ハ瀧過スルコトナク直ニ之ヲ飲用ニ供スル乎
- 三、其河水ハ之ヲ工業用若クハ道路清潔用ニ併用スルコトナキ乎
- 四、其汲配ノ水量如何
- 五、鑽井ヨリ飲用水ヲ供給スルモノナルトキハ其鑽井ノ深サ、水高、位地、地質、水高ノ異動、比例、其保護方法、保護圈、汲水ノ方法、附近ニ於ケル家屋ノ有無瀧過ノ有無淨水方法其飲用ノ時期及ヒ方法、其結果、仕様書ニ列舉セル淨水ノ條件、監督ノ方法及ヒ監督者、分析ノ方法及ヒ分析者如何
- 一六、概シテ飲用水監視ノ有無、分析ノ有無、主管者時期如何
- 一七、細菌學上ノ分析及ヒ化學的分析ノ結果如何

第二 下水

二一

- 一、下水道ノ有無、其總延長
- 二、其市町村ノ全部ニ亘レルヤ否ヤ
- 三、下水道補設ノ有無、其設計案ノ有無
- 四、既設下水道ノ略説、其終點、掃除方法、結果
- 五、下水道監督ノ方法及ヒ監督者
- 六、其下水道ハ雨水、家庭排泄水、糞便、工場用水ヲ接受スルヤ否ヤ

第三 家庭ノ排泄物

- 一、家庭排泄物ノ處分方法
- 二、家庭排泄物除去ノ爲メ公共機關ノ存否
- 三、家庭排泄物後來ノ用途如何
- 四、家庭排泄物處分規定ノ略述

第四 墓地

- 一、墓地ノ位地
- 二、墓地ノ附近ニ於ケル個別の家屋、水流、水脈若クハ鑽井ノ有無
- 三、墓地ノ擴張若クハ移轉ニ關スル設計案ノ有無

第五 千九百五年ヨリ千九百十一年ニ至ル七年間ノ死亡平均率

第六 不健全ノ事實

- 一、不健全ナル市街若クハ建物、塵芥、肥料、瀦水、沼澤等ノ如キ
- 二、其除去方法

備考 以上列舉事項以外ニ尙ホ保健若クハ衛生ニ關スル事項就中其市町村ニ於ケル衛生規則一部ヲ

添ヘテ之ヲ本省ニ提出スルコトヲ要ス

○巴黎市ニ於ケル廉賃住宅ノ建造若クハ既設不健全住宅ノ買収又ハ清潔法施行ノ爲メ二億法ノ募債ヲ許可スル千九百十二年七月十三日ノ法律

第一條 巴黎市ハ廉賃住宅ノ建造、取得若クハ清潔法施行ヲ爲サンカ爲メ割増金附三厘八厘利二億法ノ借款ヲ爲スコトヲ得此資金ハ千九百十五年度ヨリ七十五年間ニ隨時細分シテ之ヲ募集シ又ハ其最終募集後二年以内ニ償却ニ着手シ以テ七十五年間ニ之ヲ償却スルコトヲ要ス(下略)

第二條 該借款中少クトモ五千萬法ハ之ヲ千九百十二年四月二日ノ巴黎市會議決書ニ掲ケタル千九百十二年三月二十七日ノセーヌ縣覺書ニ記載セル廉賃住宅建築會社及ヒ要求スヘキ擔保、體容及ヒ利率ノ留保ヲ以テ設定セラルヘキ自餘會社ノ處分ニ委ス

第三條 巴黎市ハ前條ニ掲ケタルモノ以外ノ金額ヲ舉ケテ之ヲ造作料ノ三分ノ二以下ノ範圍内ニ於テ年齡

十六歳以下ノ子女三名以上ヲ有スル家族ノ居宅ノ建造、取得若クハ保健ニ充當ス此居宅ハ廉賃居宅ニ關スル法律ノ一般規定ニ由リテ之ヲ管理ス

第四條 前條ニ規定セル居宅ノ賃借料ハ廉賃居宅ニ關スル法律ニ規定セル最高限ヲ超ユルコトヲ得ス又其最低限ヲ下ルコトヲ得ス

此法律ハ元老院及ヒ代議院ノ議決ヲ經國法トシテ之ヲ施行ス

○小兒死亡ノ豫防方法ニ關シテ全國知事ニ對スル千九百十二年七月一日附内務大臣ノ訓令

小兒死亡ノ豫防ハ實ニ公安保全ノ事業ニシテ由來佛國ニ於テハ外國ニ於ケルヨリ殊ニ此點ニ重キヲ置ケリ佛國ニ於テハ小兒死亡ノ豫防上頗ル效果ノ觀ルヘキ者アリ試ミニ千九百六年乃至千九百十年ノ五年間ニ於ケル齡一歳以下ノ小兒死亡ノ千分率ヲ舉クレハ實ニ左ノ如シ

- 一九〇六年 一三五・五
- 一九〇七年 一一八・七
- 一九〇八年 一一六・三
- 一九〇九年 一〇五・三
- 一九一〇年 一〇〇・一

佛國ニ於ケル齡一歳以下ノ小兒死亡ノ實數ハ千九百八年ニ於テハ十一萬九千三百二十七ナリシモ其翌千

九百九年ニ至ルヤ九萬二千六百二十二下リ而シテ更ニ千九百十年ニ至ルヤ益減シテ僅ニ八萬八千三十三ト爲レリ是レ豈我當局者苦心ノ效果ニ非ストセンヤ

此ノ如ク我國ニ於ケル嬰兒死亡ノ減少ヲ視ルニ至リタル所以ハ其原因一ニシテ足ラスト雖モ主因ハ實ニ產科學ノ進歩、當該公共機關及ヒ私的關係事業ノ完備、全國ニ亘レル公共衛生及ヒ個人的教育ノ普及ニ在リ是レ實ニ人意ヲ強フスルニ足ル者ニシテ其因果ノ彰明較著ナルコト轉驚クニ堪ヘタリ

然レトモ吾人ハ未タ之ニ甘心スルコト能ハス換言セハ即今ノ結果ヲ以テ公安保全事業ノ能事畢レリト爲スコトヲ得ヌ何トナレハ千九百九年及ヒ千九百十年ノ兩年度ニ於ケル小兒ノ死亡數ハ僅ニ約二萬五千ニ過キサリシモ其死因ノ胃腸病ニ存スル者少ナカラス小兒ノ醫療及ヒ看護宜シキヲ得ン乎則チ其死亡數ヲシテ更ニ之ヨリ減少セシムルコト難キニ非サルヘシ是レ豈公安ノ保持上及ヒ國力ノ増進上千秋ノ恨事ト謂ハサルヘケンヤ

嬰兒死亡ノ現行豫防方法ハ常時即チ衛生上ノ平年ニ於テハ既ニ頗ル完備ノ域ニ達シ其效果ノ觀ルヘキ者ナキニ非スト雖モ非常時即チ衛生上ノ恐慌時ニ至リテハ極メテ不十分ナリト謂ハサルヲ得ス前段ニ引證シタル千九百六年千九百七年千九百八年千九百九年及ヒ千九百十年ノ五年度ノ如キハ所謂平時ニシテ夫ノ嬰兒ノ健康ニ危害ヲ及ホスヘキ夏季ニ於ケル暑氣ノ如キモ亦必スシモ甚シカラサリシカ故ニ小兒死亡ノ數太甚ナラサリシモ千九百十一年ニ於テハ劇暑ノ爲メ内外諸國ヲ通シ歐洲ニ在リテハ嬰兒ノ死亡實ニ數フルニ

遑アラサリキ

諸外國ニ於ケル嬰兒死亡ノ統計ハ未タ一々之ヲ審ニセスト雖モ單ニ之ヲ獨逸一國ニ徵スレハ其最大都會タル柏林ニ於ケル齡二十歳以下ノ夏^{マドイイイヌヂル}病ニ因レル死亡數ハ左ニ掲クルカ如ク千九百十一年七月上旬ヨリ八月下旬ニ至ルノ間毎週益々相増加セルヲ認ム

七月八日前	二三
七月十五日前	四〇
七月二十二日前	五六
七月二十九日前	一三七
八月五日前	三一八
八月十二日前	五四八
八月十九日前	六二九
八月二十六日前	六三五

是時ニ當リ佛國モ亦此歐洲全土ヲ席卷セル災禍ニ免ル、コト能ハス然シテ人口三萬以上ノ都會八十二シテ其人口合計約九百萬ニ上リ齡二歳以下ノ小兒ノ死亡ハ所謂夏季病即チ主トシテ胃腸病ノミニテ同年六月乃至十月ノ五箇月間千九百十年ニ於テハ實ニ四千一百其翌千九百十一年ニ在リテハ竟ニ九千一百三十八ニ達

シタリ

又全國ノ諸都市中夏季病ニ基因セル小兒ノ死亡數甚シク多數ナル者アリ乃チ上記五箇月間夏季病ノミノ爲メ巴黎市ニ於ケル小兒ノ死亡數ハ千九百十一年ニ於テ實ニ一千六百四十九ニ上リ而シテ千九百十年即チ所謂衛生上ノ平時ニ於テハ小兒ノ死亡僅ニ七百六十一ニ過ス又ヴラル市ニ於テハ千九百十年ニ於ケル小兒ノ死亡數僅ニ四ニ過キサリシモ其翌年即チ所謂衛生上ノ恐慌時ニ至ルヤ遽ニ三十七ノ多數ニ上リ又センカンテン市ノ如キハ千九百十年ニ於テ僅ニ二十八ニ過キサリシモ千九百十一年ニ至ルヤ頓ニ一百三十二ニ上リレム市ニ在リテハ千九百十年ニ於テ一百二十八ナリシモ千九百十一年ニ至リテハ二百八十三、センテチェンヌ市ニ在リテハ千九百十年ニ於テ四十ナリシモ千九百十一年ニ在リテハ一百六十一、トゥールーズ市ニ在リテハ千九百十一年ニ於テ一百五ナリシモ千九百十一年ニ至ルヤ二百七終リニアミヤン市ニ於テハ千九百十年ニ於テ僅ニ四十八ナリシモ千九百十一年ニ至ルヤ遽然百六十九ノ多數ニ上レリ是レ其最顯著ナル者ニシテ尙ホ自餘諸都市ノ例ヲ舉クレハ殆ント其煩ニ堪ヘサルヘシ之ヲ總フルニ千九百十一年ニ於ケル小兒ノ死亡ハ夏季病ノミヲ以テ數フルモ尙ホ實ニ無慮二萬ノ巨數ニ上レリ此ノ如キハ實ニ衛生行政當局者カ社會ニ對シテ責任ヲ免ル、コト能ハサル事實ナリ苟モ小兒ニ對スル衛生上ノ措置宜シキヲ得ン乎則チ上記多數ノ憐レムヘキ嬰兒ハ能ク其父母ノ膝下ニ嬉戲シテ能ク其掌中ノ珠タルコトヲ失ハス以テ能ク相生長發育シ後來純良ナル國民タルコトヲ得タリシナラン是レ豈國家ノ大損失ニ非ストセンヤ

予ノ前任數氏ハ相踵テ既ニ此點ニ關スル貴下任務ノ重大ナル事ヲ注意シテ措カナリキ今ヤ比年我國民出生ノ遞減ト同時ニ怖ルヘキ小兒病ノ襲來ニ遭遇セル秋ニ當リ予ハ公益上貴下ノ献身の努力ヲ求メサルヲ得ス故ニ貴下ハ先ツ貴下主管ノ縣下ニ於ケル小兒死亡豫防ノ方法ヲ究メ以テ能ク機宜ニ適セル措置ヲ講セサルヘカラス

然リ而シテ貴下ハ先ツ千八百七十四年ノ法律ニシテ十分ニ其効果ヲ舉ケシムルコトニ力メ縣衛生監督官ト力ヲ協セテ縣民衛生上ノ監視ヲ實行スルコトヲ要ス予ハ既ニ千九百十二年四月二日ノ官報ニ登載セル共和大統領ニ提出セル予ノ報告書中ニ小兒死亡ノ原因及ヒ員數ノ縣別表ヲ掲ケタリ貴下乃チ此報告書ヲ精讀シテ便宜ノ措置ヲ施サンコトヲ望ム

此ニ所謂便宜ノ措置中最急務ナル者ハ即チ哺乳兒ニ對スル夏季衛生上ノ注意事項ヲ舉ケテ之ヲ縣民ニ周知セシムルニ在リ之ヲ縣民ニ周知セシメント欲セバ必スヤ地方新聞紙ノ協力ニ須タルヘカラス然シテ其新聞紙ハ政事上黨派ノ區別ヲ存セス唯之ヲシテ衛生行政當局者ノ廣告機關タラシムルコトヲ要ス

小兒死亡豫防方法中最重要ナル者ハ育兒事業ニ在リ是ニ於テ乎我議會ハ最近數年以來年々此事業ノ爲メ補助金ノ支出ヲ可決シテ之ヲ内務省ノ豫算ニ計上シタリ然シテ千九百十二年一月二十三日ノ官報ハ同年度ニ於ケル此種資金六十萬法ノ分配明細表ヲ掲ケタリ而シテ所謂育兒事業ナル者ハ其種類甚多ク乳兒診療所、乳汁検査所、嬰兒養育所、小兒乳養協會、小兒救養協會、相互救濟協會、託兒院等はレナリ

小兒ノ衛生問題ハ其關係極メテ重大ニシテ實ニ我國運ノ消長ト我國民ノ浮沈トノ因テ繫ル所ナリ故ニ小兒ノ保護ハ之ヲ本國ノ保護ト謂フモ過張ノ辭ニ非ス然ラハ則チ貴下ハ中央政府ノ補助金ト貴縣ノ富力トニ鑑ミ小兒ノ衛生上銳意適宜ノ施設ヲ怠ラサルコトヲ要ス

千九百十二年七月一日

内務大臣

テ、ス、テ、エ、グ

○佛國「リヨン」市結核施療院記事及ヒ譯文

三〇

里昂結核病施療院記事千九百二十二年十一月十九日發行醫學雜誌第九十五號所載

佛國　ヂュール、クールモン著

第一章　起　　原

佛國ニ於テハ結核病ノ豫防上未タ外國ニ於ケルカ如キ社會的機關アルヲ見ス
英國ニ於テハ公共衛生上不健全居室ニ關スル清潔法及ヒ公用徵收法ノ在ルアリ

獨國ニ於テモ亦義務保險ニ由リ壯麗ナル數多ノ勞働者施療院ヲ設ケテ之ヲ結核病豫防所ト爲シ初期ノ患者
罹病家父ノ不在中救助ヲ受クル妻子ヲ治療シ保健居室協會及ヒ農事作業協會ニ補助金ヲ交附セリ
故ニ英獨二國ニ於テハ最近二十五年以來既ニ著シク結核患者ノ減少ヲ致セリ

防疫上老衰、廢疾、疾病ノ義務保險ノ良策ナルヤ言フ俟タスト雖モ之カ爲メ固ヨリ巨資ヲ要ス此巨資ハ義
務保險金庫ニ對スルニ非サレハ他ニ之ヲ要スルノ途ナク國庫ハ到底結核勞働者若クハ一般結核患者ノ施療
院收容、父若クハ母ノ不在中其家族ノ救濟豫後患者ニ對スル衛生的職業殊ニ農事ノ就業ニ必要ナル經費ヲ
供給スルノ餘力ナシ是レ吾人カ佛國ニ於テ徹底セル義務保險制度ノ創設ヲ首唱シ併セテ英國ノ制度ニ則ト
リテ不健全居室ノ徵收ヲ要望スル所以ナリ

義務保險ノ制度ト曰ヒ不健全居室ノ徵收ト曰ヒ二者皆將來ノ施設ニ過キス

佛國ニ於テハ現時未タ此種ノ設備ナシ故ニ即今當面ノ方策ハ吾人ノ慣習及ヒ法制ニ適合セル寡費ノ防疫方
法ヲ計畫スルノ外ナシ

カルメツトハリル市ニエ、ルー施療院ヲ建テ始メテ吾人主張ノ一端ヲ實行シタリ吾人ハ之ヲ以テカルメツ
ト式施療院ト稱ス此施療院ハ獨リ結核患者ノ治療ノミナラス併セテ殊ニ結核ノ豫防衛生及ヒ肺病ノ豫防機
關ナリ

結核患者ノ咯痰ハ精密ニ之ヲ検査シコツホ菌ヲ發見シタルトキハ患者ノ家庭ニ衛生上ノ訓示ヲ與ヘ痰壺ヲ
配附シ患者ノ衣服及ヒ居室等ヲ消毒スルコトヲ要ス約言セハ結核患者ハ之ヲ傳染病患者トシテ取扱ヒ其病
毒ノ蔓延ヲ限局セサルヘカラス

カルメツト施療院ハ一定ノ資産ヲ有ス是ノ自餘類似諸機關ノ企及スルコト能ハサル所又模倣スルコト能ハ
サル所ナリ吾人ハカルメツト施療院ノ管理方法ヲ祖述シテ治ネク全國ノ諸都市ニ此種機關ノ増設ヲ望ム
リル施療院ハ元來固有ノ財源ヲ有スルカ爲メ一方ニ於テハ其勢力強盛ナルモ他方ニ在リテハ弱點ノ存スル
者ナキニ非ス固有ノ財源ヲ有シ全然獨立シテ能ク其事業ヲ主宰セリ是レ其勢力強盛ノ爲メナリ其財源ノ範
圍ニ於テノミ患者ノ治療ヲ爲スニ過キス是レ其弱點ナリ其結核患者調査員ハ結核勞働者ヲ調査シテ之ヲ入
院セシメントカムルモ收容患者定員ニ缺員アルニ非サレハ之ヲ施療スルコト能ハス是レ豈社會救濟事業ノ

爲メ一大缺點ニ非スヤ

是レ余カ余ノ痛惜シテ止マサル先師アルチロン君ト協同シ千九百五年ニ至リ終ニ里昂結核病治療院ヲ創設シタルハ實ニカルメツト式治療院ノ惠澤ヲ舉ケテ之ヲ赤貧者ニ均霑モシメンカ爲メナリ故ニ里昂結核病治療院ハ固有ノ財源ヲ有セサルニ拘ハラヌ敢テ慈善局備附ノ名簿登錄貧困患者一切ヲ收容シタリ庶幾クハ全國ノ諸大都市ヲ通シ行々當サニ亦此種機關ノ設備ヲ見ルニ至ランコトヲ里昂結核病治療院ハ其創業七年ノ後漸ク當初期待ノ結果ヲ收ムルコトヲ得タリ以下少シク此治療院ノ沿革ヲ叙ヘン

第二章 沿革

余ノ懷抱セル意見ハ市當局者及ヒ慈善局ト協定シ先ツ市廳及ヒ慈善局ニ對シテ結核患者ノ夥多ニシテ實ニ市人口ノ約四分ノ一ヲ占ムルコトヲ證明シ赤貧結核患者ノ爲メ其經費一部分ノ給附ヲ求ムルニ在リ詳言セハ第一、慈善局ノ財源ヲ増額セシメ唯結核患者治療費ヲ其豫算中ヨリ控除シテ之ヲ治療院ニ交附セシメ第二、市ヲシテ一般ノ疾患ト結核病トヲ區別シ結核病ノ爲メ特別ノ治療機關ヲ設ケ市ノ一般經費ト結核豫防費トヲ分離セシムルニ在リ此意見ハ幸ニ千九百五年以來相踵テ市長ノ職ニ就ケル友人オーガスユール氏及ヒヘリヨ氏ノ好意ニ由リ容易ニ其協商ノ緒ニ就ケリ

是ニ於テ里昂市ハ先ツ敷地ト建築費五萬法ヲ給附シ市内ノ著名ナル若干慈善家ハ其補足費ヲ寄附シ吾人

ヲシテ終ニ三百七十五米ノ三層館一棟ヲ建築セシメタリ

千九百五年五月十日發行
醫學雜誌第二九一頁參照

地下室ニハ洗濯場、衣類整頓場第一圖設備完全ナル水療所第二圖中央暖房機關室、一階ニハ廣濶快愉ニシテ透光宜シキヲ得タル應接室一、衣類置場若干、診察室一、調査員室若干、分析室若干ヲ設ケ二階ニハ醫員外ノ職員室一ヲ設ケ

此建物ハロース河ノ左岸ニ位セル下層労働者ノ輻輳地ニ在リ然シテ咯痰分析所衣類洗濯場ハ之ヲ本館ニ設ケタルカ故ニ特ニ附屬診察所ヲロース河ノ右岸ニ位セル市ノ他端ニ設ケ合計診察所二、分析及ヒ消毒所一ノ設ケアリ

患者ノ診察ハ醫員三名之ヲ分掌シルジラール氏エフ、アルロアン氏アンドレ氏テツノ氏フアーヴル氏ノ五氏前後相踵テ之ニ任シ其功勞得テ没スヘカラサル者アリ而シテ其分擔診養セル病家ハ終始同一ナリ

二名ノ調査員ハ毎日各々其分掌管區ヲ巡回シテ患者ノ家族ヲ監視シ衛生上ノ訓示ヲ與ヘシム

調査員ハ診察日ニ於テハ應接室ニ在リテ患者ニ面接シ診察前委員ト協議シテ患者及ヒ其家族ニ關スル情報ヲ給シ管内労働者ノ賃銀、家族ノ負擔、衣服、居宅等ノ調査書類ヲ保管ス

又患者生存中其居宅消毒ノ任ニ當レル二名ノ消毒員ヲ置キ毎日平均五六軒ノ消毒ヲ爲シ毎月一回院内各室ノ消毒ヲ行フ其消毒ハ簡單ニシテ隣人ノ注意ヲ喚起スルコトナク之ヲ施行スルカ故ニ關係者ハ皆喜ヒテ之ヲ承諾ス消毒施行中調査員ハ結核豫防ノ訓示ヲ與フ

又一名ノ使用員ヲシテ洗濯夫浴室ノ使丁及ヒ門監ヲ兼掌セシム
又數名ノ女子ヲシテ患者衣類ノ選定、整頓、配布ヲ爲サシム

第三章 事業

里昂結核病治療院ハ慈善局ト特約ヲ結ヒテ慈善局移送結核患者一切ヲ收容スルカ故ニ里昂市内貧困結核患者ハ悉ク治療院ノ治療ヲ受クルコトヲ得ヘシ

此制度ノ爲メニ院外ノ醫師ト治療院トノ間ニ何等紛議ヲ生スルノ虞ナシ何トナレハ治療院ノ醫員ハ患者ヨリ報酬ヲ受ケサルモ院外醫師ハ其患者ヨリ一定ノ報酬ヲ受クレハナリ然シテ里昂市ニ於ケルカ如キ慈善局醫師ノ患者訪問ニ對スル報酬支拂ノ制度ハ之ヲ他ノ諸都市ニ適用スルコト能ハス

結核病治療院ノ醫員ハ慈善局ノ請求ニ基キテ處方箋ヲ作ルカ故ニ藥價ハ慈善局ノ負擔トス

治療院ニ於テハ每週午前三回午後二回ノ診察ヲ爲シ且每週一回乳兒ノ診察ヲ行ヒ結核乳婦ハ之ヲ斷乳セシメ之ニ里昂市供給ノ殺菌牛乳ヲ與ヘ健全ナル乳婦ハ其哺乳ヲ繼續シ肉類及ヒ鷄卵ノ現品救助ト育兒法說明書トヲ與フ

醫療上若クハ生活上必要ト認メタル患者ニハ牛肉及ヒ馬肉ノ購買券、現金及ヒ衣類ヲ給與シ傳染性結核患者離隔ノ爲メ寢臺ヲ貸與シ其就學兒女ニハ食料購買券ヲ給與ス

患者家庭ノ健全ナル小兒ハ之ヲグランシエル育兒院ニ送り育兒院ハ之ヲシテ田園生活ヲ爲サシム從來吾人

ハ里昂市ニ對シ常ニ市外ニ育兒院ヲ建設センコトヲ要求セリ

患者ノ痰壺ハ常ニ之ヲ検査シ傳染性患者ニ對シテハ衛生上ノ印刷物ヲ配布シ訓示ヲ與ヘ、痰壺ノ備附、衣類ノ洗濯、毎月病室ノ消毒家族全員ノ溫浴等特別ナル注意ヲ要ス

衣類ノ洗濯ハ之ヲ衣類ト同一ノ番號ヲ附セル二囊ニ之ヲ容レ診察ノ爲メ治療院ニ到ルトキハ之ヲ提出シ洗濯ヲ了セル衣類ト交換セシム此種外來患者衣類ノ洗濯殺菌ニ關スル數量ハ後章ニ詳ナリ而シテ之カ爲メ患者家族ノ利益極メテ大ナリ

傳染性患者ノ家族ニ對シテハ溫浴ヲ課ス不健全ノ居室ハ之ヲ市ノ衛生局ニ工場ハ之ヲ勞働監督吏ニ通告ス患者ノ死亡若クハ住所ノ變更ハ之ヲ市ノ衛生局ニ届出テシメ衛生局ハ前居室ノ消毒ヲ行フ

第四章 治療ノ統計

里昂結核病治療院カ其初建ノ當初即チ千九百五年以來赤貧結核患者ノ治療及ヒ幫助ヲ爲シタル者實ニ二千七百六十九戸ニ上レリ今千九百十一年ニ於ケル治療ノ統計ヲ舉クレハ左ノ如シ

結核患者總數

七六六

傳染性結核患者

二四〇

死亡結核患者

一一〇

診察

九、〇三七

調査員ノ訪問

死亡若クハ出發後消毒施行ノ居宅

患者生存中ノ消毒居宅

院内洗濯患者ノ汚染衣類

牛肉(五百瓦ノ購買券)

馬肉(五百瓦ノ購買券)

鶏卵

温浴若クハ灌浴

乳兒(診察)

グランシエ育兒院收容兒女

第五章 歳 計

里昂結核病施療院歳出ハ左ノ如シ

經營費管理費及ヒ醫員ノ給料

調査委員二名(中一名ハ院内居住)ノ給料

消毒員二名(中一名ハ院内居住)ノ給料

二、八五五

二一八

一、一二五

二一、三五二去元

九、二六五

四、二七七

六一〇円

一、三八二

三五

二七

八、九〇〇円

三、三〇〇、〇〇

二、七〇〇、〇〇

洗濯婦、門監等兼務者一名(院内居住)ノ給料

衣類整頓女事務員三名ノ給料

賞與、新年贈物、乗車料、退隱料等

代理料

保険料

セン、エンサン街ニ於ケル建物賃借料

水道使用料

石炭

瓦斯、電氣

消毒藥、石鹼等

雜費(痰壺、患者飲水器)

印刷費(結核豫防方法ノ告示)

自餘雜費

肉類(牛肉馬肉)

鶏卵

一、三〇〇、〇〇

一、〇五〇、〇〇

六八九、〇〇

三一〇、八五

三八五、四五

一、五一八、四〇

一、三六二、一〇

一、七〇〇、九〇

四三五、六〇

一、四五三、七〇

八九二、〇五

二六四、九〇

一九六、六五

七、八〇八、二〇

六七〇、九〇

現金給助

衣類給助(三百五十組)

藥劑給助

計

其歳入ハ左ノ如シ

里昂市補助金

里昂慈善局補助金

寄附金

計

歳入超過

第六章 成績

比年里昂市内結核患者ノ累減ト其病毒傳播豫防ノ好績トハ主トシテ我施療院努力ノ結果ナリ何トナレハ余ノ友人ウイエル教授ノ經營セルグランシエル育兒院ノ外里昂ニ於テハ未タ他ニ結核病豫防ノ設備アラサレハナリ之ヲ要スルニ里昂結核病施療院惠澤ノ發現ヲ見ルニ至リタルハ實ニ其創立四年以後ノ事ニ在リ其創立前數年間ニ於ケル市内結核患者死亡數ハ創立後數年間ニ於ケル者ヨリ遙ニ少數ナリ是レ其創建ノ年

一一三、〇〇

三四、九六一、七〇

一六、九六〇、〇〇

一〇、〇〇〇、〇〇

八、四一三、〇〇

三五、三七三、〇〇

四一一、三〇〇

即チ千九百五年以來施療院カ規正ニ結核患者ノ死亡ヲ届出テタルカ爲メナリ故ニ第一區第四區及ヒ第五區ニ於テハ最然リト爲ス

施療院ハ里昂ニ本籍ヲ有スル患者ノ死亡ヲ算定シタルモ市外ニ於ケル者ノ數ハ未タ之ヲ詳ニセス

施療院ハ千九百五年二月一日ヲ以テロース河ノ左岸ニ位セル第三區及ヒ第六區ニ其事業ヲ開始シ翌年二月

一日ニ至リ漸次其事業ヲ他區ニ擴張シタリ

千九百年以來里昂市ニ於ケル結核病患者死亡總數ヲ舉クレハ左ノ如シ

年次	人口	死亡數	死亡率(萬分率)
一九〇〇年		一、七一〇	三七、二
一九〇一年	四五九、〇九九	一、五四五	三三、六
一九〇二年		一、六三一	三五、五
一九〇三年		一、六五八	三六、一
一九〇四年		一、五九二	三四、六
一九〇五年		一、五〇六	三一、九
一九〇六年	四七二、一一四	一、七二六	三六、五
一九〇七年		一、六一五	三四、二
一九〇八年		一、五四四	三二、七

一九〇九年 一、四九六 三二、七
 一九一〇年 四、六二三 一一、一
 一九一一年 五二二、七九六 一、三四四 二六、一

此百分率ハ前回ノ調査ニ由リテ算定シタル者ナリ爾後千九百六年ヨリ千九百十一年ニ至ルノ間里昂ノ人口ハ五萬餘ヲ増加シタルカ故ニ其百分率モ亦稍々増加セサルヲ得ス而シテ千九百十年ノ百分率ハ二十八、一ナリ

結核患者平均死亡率ハ千九百年千九百四年ノ五年間ニ於テハ平均萬分ノ三十五、四ナリシモ千九百十一年ニ至リ萬分二十六、一ニ下リシヲ一年萬分九、三即チ千四百八十三人六分ノ減少ニシテ從前ノ平均死亡者一千八百二十七人ヨリ下リテ一千三百四十四人ト爲リ實ニ四分一以上ノ減少ヲ見タルハ是レ實ニ望外ノ好果ト謂ハサルヘカラス

死亡者四百八十三人ノ減少ハ約患者四千ノ減少ニ對當ス是レ豈社會上及ヒ殊ニ救貧政策ノ見地ヨリ觀察シテ一大效果ト謂ハサルヘケンヤ

今人口一萬ニ對スル里昂市各區結核患者死亡率ヲ舉クレハ左ノ如シ

一九〇〇年 一九〇四年 三二、八 二四、三 四一、三 三五、一 三七、六 三五、六
 第一區 第二區 第三區 第四區 第五區 第六區

一九〇五年 三五、六 一九、〇 三五、八 三二、八 三五、四 三二、四
 一九〇六年 三九、五 二三、〇 四三、七 四二、八 三九、二 二九、二
 一九〇七年 三一、五 二一、八 三九、八 三四、七 三八、三 三二、八
 一九〇八年 三四、六 二一、二 三七、五 三四、二 三〇、二 三三、五
 一九〇九年 三九、一 一九、五 三五、六 三二、六 三四、二 二七、三
 一九一〇年 二九、八 二五、六 三五、六 二二、八 三四、〇 二八、三
 一九一一年 二九、〇 二一、四 二七、〇 二五、〇 三〇、〇 二二、〇

第二區ハ其住民皆健全ナル中流社會ナルカ故ニ我治療院ハ特ニ其好績ヲ舉クルコト能ハス第三區及ヒ第四區ハ共ニ勞働者ヨリ成リ其人口二十七萬六千ニ達シ結核患者平均死亡率千九百年千九百四年萬分三十八、四ニシテ千九百十一年第三區ニ於テハ萬分二十七第四區ニ於テハ萬分二十二即チ各區平均萬分二十四、五ナリ結核患者ノ減少ハ人口一萬ニ付十三、九即チ人口二十七萬六千ニ對シ三百八十三(死亡ハ其初一千四十四ナリシモ今ヤ六百六十一即チ約三分一以上)ノ減少ヲ爲セリ

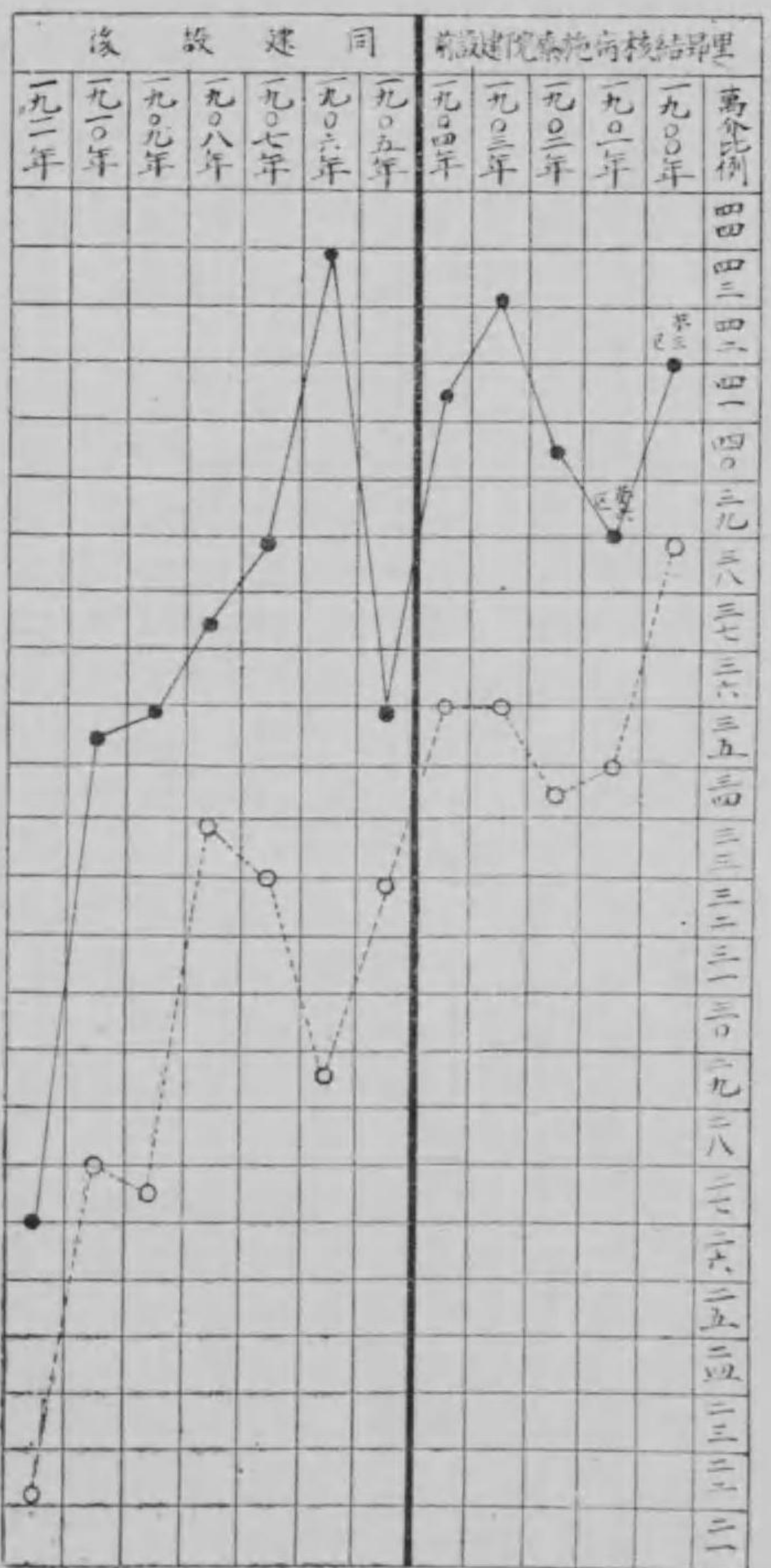
里昂市ニ於ケル結核患者死亡總數四百八十三ハ病毒ノ蔓延最モ甚シク治療院ノ努力最モ顯著ナルローヌ左岸ノ貧民窟ニ於ケルモノナリ

之ヲ總フルニ勞働社會ノ棲息地ニ於テ七年間ニ人口一萬ニ對スル平均死亡率三十八、四ヲ二十四、五即チ十三、九即チ三分一ニ下シタルハ以テ多ト爲サルヘカラス

第七章 結核病ノ累減

カルメット式施療院惠澤ノ證明殊ニ市内ノ細民ニ對スル其活動ハ極メテ顯著ナル者ト謂ハサルヘカラス庶幾クハ益々此種機關ノ増設ヲ見ンコトヲ然シテ吾人ハ若干論者ノ主張スルカ如ク結核患者義務届出等ノ爲メ巨資ヲ消糜シタルコトナシ

今我施療院設立ノ前後里昂市第三區及ヒ第四區(人口二十七萬六千)ニ於ケル結核患者死亡率高低表ヲ示セハ左ノ如シ



結核患者及ヒ其接近者ニ對スル一般注意事項 里昂結核病施療院揭示之一

醫 療

- 一、總テ咳嗽者ヲシテ結核患者ニ變セサラシメンカ爲メ風ニ治療ヲ爲サシムルコト
- 二、既ニ結核患者ナルトキハ其治療ノ爲メ一切ノ用意ヲ以テ安靜ノ休息、新鮮ナル大氣ノ呼吸及ヒ滋養食品(焦炙セル肉類)ノ攝取ヲ爲サシムルコトヲ要ス
- 三、之ヲ要スルニカメテ速ニ醫師ノ診察ヲ受ケ能ク其命ニ從フコトヲ要ス

痰 唾

- 一、地上ニ咯痰スヘカラス手中中ニ之ヲ吐カス痰壺ニ之ヲ吐キ每晚壺中ノ内容物ト共ニ其痰汁ヲ沸騰シ痰壺内ニ少量ノリゾル液ヲ混スルコトヲ要ス
- 二、咳嗽ノ際手巾ヲ以テ口ヲ蔽ヒ且痰汁ヲ嚙下スヘカラス
- 三、結核患者ト健全者トヲ同一ノ寢臺ニ就寢セシムヘカラス

一 般 衛 生

- 一、身體ヲ清潔ニ保チ雙手、顔面殊ニ髯鬚ハ毎日數回之ヲ洗滌シ朝夕齒牙ト口内トヲ掃除スルコトヲ要ス
- 二、濕氣ト塵埃トヲ避クルコトヲ要ス
- 三、室内ハ乾燥掃除ヲ爲サス濕布ヲ以テ床板ヲ拭ヒ每週一回特ニ室内ノ完全拂拭ヲ行フコトヲ要ス

- 四、敷布、懸布及ヒ帷布ハ之ヲ撤去スルコトヲ要ス
- 五、寒冷時若クハ濕潤時ヲ除キ窓戸ハ之ヲ全開若クハ半開シ能ク身體ヲ被覆シ夜分ハ力メテ早ク寢ニ就キ
珈琲店ニ出入スヘカラス
- 六、小兒ハ之ヲ田園ニ送ルコトヲ要ス

酒 精

催食飲料、火酒、コニア、機那葡萄酒、一般リクールノ如キ酒精飲料ヲ飲用スヘカラス是レ結核患者攝生ノ豫先方法ニシテ酒精飲料ノ購買費ヲ舉クテ之ヲ滋養肉類ノ供給ニ利用スルコトヲ得ヘシ

煙 草

煙草ハ之ヲ喫用スヘカラス然ラサレハ咳嗽ヲ頻發セシムルノ虞アリ

施療院ト患者トノ關係

甲 施療院ノ目的ハ左ノ如シ

- 一、慈善局移送赤貧患者ノ醫療
- 二、入院赤貧患者、院外患者咯痰ノ検査、結核病ニ感染セル者又ハ然ラサル者其他自宅療養者及ヒ例ヘ
ハオートギル養生院ノ如キ結核患者養生院若クハ病院ニ入ルヘキ患者ノ診斷
- 三、一切方法ニ由リ勞働者調査員ノ調査殊ニ肉類及ヒ鶏卵切手ノ供給ニ由レル合理的救濟

四、既ニ述ヘタルカ如ク院内痰壺ノ備附、衣服ノ洗濯、室内ノ消毒、清潔殊ニ結核患者ノ家庭ニ對スル衛生上ノ訓示例ヘハ結核患者ノ家庭ニ於ケル温浴場ノ設備、一定期間其小兒ノ田園移送、幼兒ノ診察等總テ結核患者及ヒ其接近者ノ衛生

以上ノ目的ヲ達センカ爲メ里昂結核病施療院ハ他ノ類似機關ト異ナリ其診察室以外ニ實驗室、模範洗濯場、温浴場ヲ設ケ特殊ノ教育アル調査員、消毒員ヲ置ク

乙 里昂結核病施療院ヲシテ其目的ヲ達センカ爲メ施療院ノ治療ヲ受クル患者及ヒ其家族ハ左ノ諸項ヲ確守シテ施療院ニ於ケル醫師及ヒ調査員ノ努力ヲ助クルコトヲ要ス

- 一、醫療上處方ヲ確守スルコト
- 二、痰壺ヲ備附ケ毎日其内容物ヲ沸騰スルコト
- 三、患者ノ汚染褌衣ヲ袋囊ニ入レテ之ヲ施療院ニ移送スルコト
- 四、結核患者及ヒ家族ノ使用ニ供セル施療院温浴場ノ利用
- 五、患者居室ノ掃除消毒及ヒ保持ヲ力ムルコト
- 六、精細ニ清潔及ヒ一般衛生ノ注意事項ヲ遵守スルコト
- 七、幼兒ノ診察ヲ受クルコト

結 果

里昂結核病治療院創立ノ年即チ千九百五年以前ニ於ケル里昂市内結核患者ノ死亡ハ人口四十六萬中一千六百七十ナリシモ爾後千九百十一年ニ至リ人口五十二萬四千中其死亡實ニ一千三百ニ過キス故ニ其死亡率ハ人口一萬ニ付三十五ヨリ二十六ニ累減シ一年ノ死亡數四百八十三ト爲リ患者約四千ノ減少ヲ見タリ而シテ其減率ノ最著シキ者ハ市内勞働者ノ居住地ニ在リ

結核病ニ關スル注意事項里昂結核病治療院揭示之二

結核病ノ慘害

結核病ノ慘害ハベスト、コレラ及ヒ痘瘡ノ右ニ出ツ

佛國ニ於ケル結核病患者毎年ノ死亡數ハ十五萬乃至二十萬ニシテ遙ニセンテチエヌ市ノ人口ヲ超過セリ里昂結核病治療院創建以前結核ノ爲メ里昂市民毎年ノ斃死者ハ約二千ニ上リ結核病ハ殊ニ勞働社會ヲ襲ヒ衛生上ノ設備宜シキヲ得サル細民ノ陋室ニ蔓延ス

結核病ト傳染(病芽)

結核病ハコツホ菌ト稱スル細菌ニ基因セル傳染病ナリ

結核菌ハ肺病患者ノ咯痰中ニ群栖シ數月ノ久シキニ亘ルモ尙ホ能ク其生存ヲ全フシ新痰ハ固ヨリ最傳染力ニ富メルモ乾痰ト雖モ亦當サニ大ニ之ヲ怖レサルヘカラス何トナレハ乾燥セル咯痰ハ飛散シテ空中ノ塵埃中ニ混在スレハナリ

咯痰ノ附着セル手巾及ヒ衣服ハ殊ニ最怖ルヘシ

結核病ハ其初傳染病ト認メサリシモ治療院ノ咯痰検査ニ因リ其傳染病ナルコトヲ提示シ爾來始メテ其豫防方法ヲ講スルニ至レリ

結核牛乳ノ殺菌ヲ行ハスシテ之ヲ飲用スルトキハ輒チ乳兒ヲシテ結核病ニ罹ラシムル故ニ牛乳ハ之ヲ沸騰若クハ殺菌スルコトヲ要ス蠟族モ亦結核菌ヲ食料品ニ移植シテ其蔓延ヲ致ス者ナリ

如何ナルモノカ侵サルルカ(素地)

何人ト雖モ結核菌ノ混在スル塵埃ヲ呼吸若クハ嚙下スルトキハ則チ結核病ニ罹ルヘシ然レトモ極メテ危險ナル位地ニ在ル者ト雖モ結核病ニ罹テサル者ナキニ非ス之ヲ要スルニ結核菌ハ小麥ノ種子ノ如ク其發芽ノ爲メ素因アル素地ヲ發見スルトキハ其發育極メテ激烈ナリ
 少年少女妊婦及ヒ病後回復ニアル者ハ健全ナル壯年者ヨリ結核病ニ罹リ易シ
 結核菌ノ發育スヘキ素因ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一、不健全殊ニ不潔、濕潤、通風及ヒ透光不十分ナル居宅
- 二、不良若クハ不十分ナル食料
- 三、酒精中毒、是レ最怖ルヘキ結核病ノ素因ニシテ酒場ハ結核病ノ媒介機關ナリ
- 四、身體、寢具及ヒ衣服ノ不潔ノ如キ一般衛生ノ不良

五、家族、過勞及心配ノ伴隨セル生活難

結核病ノ治愈

結核病ハ肺患ト雖モ適時ニ之ヲ治療スルトキハ完全ニ治愈スルコトヲ得

結核病ハ時期ノ如何ヲ問ハス治愈スルコトヲ得ルモ殊ニ初期ニ在リテハ治愈甚易ク各種ノ慢性疾患中最治愈シ易キ者ニシテ其醫療ノ效果ハ極メテ有力ナリ

結核病患者ハ眞摯ニ治療ヲ爲ストキハ終ニ其快癒ヲ見ル者ナルカ故ニ其疾患ヲ慚チ又ハ之ヲ隠秘セス時ニ及ヒテ其治療ヲ受クルコトヲ要ス

結核病ノ豫防

結核病ハ其傳染ヲ防クコト難カラス痘瘡、實布埤里及ヒ麻疹ノ如キ傳染病ニ非ス又ベスト性疾患ニ非ス故ニ適當ノ注意ヲ以テ其患者ニ接スルトキハ危險ナル者ニ非ス其注意ヲ列舉スレハ左ノ如シ

- 一、咳嗽頻發ノ患者ニ正面セス乾燥セル咯痰ノ混在セル塵埃ノ呼吸若クハ嚔下ヲ避ケ患者ヲシテ痰壺中ニ咯痰セシメ毎日痰壺ノ内容物ヲ沸騰セシメ地上若クハ木層中ニ咯痰セシメス其手巾及ヒ汚染衣服ハ特殊ノ囊中ニ容レテ之ヲ施療院ニ送り室内ニテ消毒シテ之ヲ清潔ニシ石灰ヲ以テ障壁ヲ塗換ヘ患者出發後居室全部ノ消毒ヲ爲シ敷布、懸布及ヒ帷布ヲ撤去シ毎週一回以上床板ヲ拂拭スルコトヲ要ス

結核患者ノ起臥セル室ニ居住セント欲スル者ハ石灰ヲ以テ其障壁ヲ塗り結晶曹達二百瓦ヲ十「リ」

トル」ノ水ニ溶解シタル熱湯ヲ以テ床板ヲ洗滌スルコトヲ要ス

- 二、既ニ述ヘタルカ如ク酒精中毒、不良ノ食料及ヒ居室等總テ結核病傳染ノ素因ヲ豫防シ感染シ易キ小兒及ヒ若年ノ母ハ患者ニ接近セシメス之ヲ田園ニ送ルコトヲ要ス

結核病ノ非遺傳性

結核患者ノ兒子ハ必ス結核者ナリト信スヘカラス生レナカラ結核菌ヲ有スル者ナク家庭、學校、工場、兵營ニ於ケル患者咯痰混入塵埃ノ呼吸ニ由リ始メテ結核菌ノ移植ヲ見ルニ過キス但結核患者ノ兒子ハ體質虛弱ニシテ抵抗力ニ乏シキカ爲メ結核ノ素因ヲ有ス故ニ其出生後周密ナル衛生上ノ注意ヲ加ヘ特ニ之ヲシテ田園生活ヲ爲サシムルニ若カス

○マサチユセツト洲フオール、リバー結核治療院規則

(一九一六年五月九日衛生規則)

第一條 治療院ノ役務ハ二部ヨリ成ル、即チイ)治療部、ロ)往診部之ナリ

第二條 醫員ハ治療役務ヲ監督シ、且時々任命セララルコトアルヘキ助手及ヒ代診者ト共ニ其ノ役務ヲ行フ

治療院醫員ハ成規ノ時間ニ開カルル治療院内ノ結核治療、外來診察ニ遲滞ナク出勤スヘク、且患者ノ病狀ニシテ其ノ役務ヲ要スヘキモノアルトキハ何時タリトモ患者ノ家へ往診スヘシ

外來診察ハ水曜日ニハ午後七時、土曜日ニハ午前十一時ヲ以テ開始ス、但休日ニ當ルトキハ此ノ限ニ在ラス

患者ニシテ前掲各日時間ノ三十分過以前ニ該外來ニ出頭シタル者ハ、其ノ終了前ニ診察ヲ受クルノ資格ヲ得ヘク、然ラサル者ハ他日ニ延期セララルコトアルヘシ

外來診察ニ出頭シタル者ハ何人ヲ問ハス隨意ニ診察ヲ受ケ且自由取扱ヲ受クルノ資格ヲ得ヘク、然ラサル者ハ自費ヲ以テ適當ナル取扱ヲ受クルノ資力アルコト明ラカナル者ニアラサレハ、右資格ヲ得ルコトヲ得ス

被診察者ニシテ結核病者ナリト診断セラレタル時ハ治療患者ニ編入登録セラレ、且衛生局へ報告セラレヘシ

第三條 醫員又ハ看護婦ニシテ、事故ノ爲メ、成規ノ時間ニ治療、外來診察ニ出勤スルコト能ハサルトキハ市立病院管理者へ届出ツヘシ

前項ノ者事故ノ爲メ患者ノ要求ニ應シテ往診スルコト能ハサルトキハ衛生局へ届出ツヘシ

前二項ノ届出ハ適當ナル代理者ヲ指定スルニ間ニ合フヤウニ爲サルヲ要ス

病院管理者及衛生局ハ前項ノ場合ニ於テ、必要アリト認めタルトキハ兩者ノ認可濟名簿中ヨリ各代理者ヲ指定スヘシ

第四條 出勤醫員ハ自己ノ取扱患者ニ對シ結核ニ罹リ居ルヤ否ヤヲ決定スルニ充分ナル診察及診断ヲ爲スヘク、其ノ結果ニシテ、結核者ナリト決定セラレタルトキハ病狀ノ輕重ヲモ斷定スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ、當該醫員ハ、該診断ノ結果ヲ當該用紙ニ記入シ又ハ記入セシムヘク、且其ノ後ニ於ケル病狀經過及ヒ手當ニ關スル臨床記録ヲ行ヒ又ハ行ハシムヘシ

患者ニシテ治療院ヲ退院スル者アルトキハ其ノ原因ノ如何ヲ問ハス相當記録ヲ意ラサルヘシ

第五條 出勤醫員ハ自己ノ診断ニヨリ結核ノ疑アリト認めタル患者アリタルトキハ其ノ略出物ノ検査ヲ怠ラサルヘク、該検査ノ結果否定セラレタル場合ハ少クトモ三回連續シテ之ヲ行フヘシ

疑似症ニ就キ前項ノ検査ヲ行フモ猶且否定セラルヘキトキハ醫員及ヒ看護婦ハ自ら患者ヨリ一個若クハ數個ノ検査材料ヲ集メ検査ヲ乞フヘシ、該検査材料ハ直ニ衛生局實驗室ヘ提出スヘク遅クモ蒐集後四十八時間ヲ經過セサルコトヲ要ス

第六條 施療院ニ於テ結核以外ノ病氣ヲ發見シタル場合ニ該病ニシテ公衆衛生上危險性ヲ有スルモノナルトキハ、衛生局ヘ報告スヘク、其ノ他ノ病氣ハ病院管理者ヘ報告スヘシ

第七條 施療院所屬看護婦ハ毎結核外來診察ニ出勤シ醫員ノ要求ニ從ヒ、臨床準備、診察及ヒ手當ニ就キ醫員ヲ補助スヘシ

施療患者ニ編入セラレタル者アルトキハ、看護婦ハ該患者ノ家ニ派出シ、其ノ家庭ノ情況或ハ生計上患者ノ健康ニ影響スヘキモノアリヤ否ヤヲ觀察シ、且患者ノ動作及家庭ノ狀態ニ就キ教導補助ヲ爲スヘク、又患者ト接觸スル人々ニ傳染スルノ危險ナキヤウ患者ノ動作ヲ監視スヘシ

看護婦ハ患者カ施療院ヲ退院シタルカ、若クハ衛生局ニ於テ充分監視ヲ爲シ、或ハ監督ヲ爲シ得ルニ至ル迄前項ノ監視ト教導ヲ繼續スルコトヲ要ス

看護婦ハ最初ノ派出ノ時ニ觀取シタル報告ハ、事務室ニ於テ綴リ込マルヘキ看護報告用紙ニ記入シ、二度目以後ノ派出ノ時ニ觀取シタル事情及病氣ニ關シ患者ニ行ヒタル手當ハ之ヲ看護用手帳中ニ記入スヘシ看護婦ハ患者ニシテ左ノ事故アルトキハ、事務室ニ於テ綴リ込マルヘキ「カード」ニ其ノ事項ヲ記入スヘシ

一、患者死亡シタルトキ

二、患者當市ヲ去リタルトキ

三、患者他ノ病院ヘ移轉シタルトキ

四、其ノ他ノ原因ニヨリ最早自己ノ監督ノ下ヲ離ルルニ至リタルトキ

看護婦ハ前數項ノ看護役務ノ外、他ヨリ忠告、相談アリタルトキ、又ハ患者ノ安寧上一般的ニ利益トナルヘキモノ及ヒ家庭ノ動作等ニ鑑ミ、公共ノ安全ヲ保持シ、及ヒ患者ノ境遇ヲ改善又ハ慰藉スヘシ

第八條 巡回看護ハ施療院事務所ニテ隨時定メ病院委員會及衛生部ノ是認セル時間ニ於テ之ヲ實行スルコトアルヘシ、其ノ目的ハ患者ノ病狀及ヒ動作ヲ觀察シ、且患者ニ對シ必要ナル教導若クハ助言ヲ與フルニ在リ

看護婦ノ要求アリタルトキハ、患者ハ治療、外來診察巡回看護ヲ受ケ又ハ物件ノ供給ヲ受クル爲メ施療院ヘ出頭スヘシ

第九條 書記ハ祝日、日曜日、及土曜日ヲ除クノ外、毎日、午前ハ九時ヨリ十二時迄、午後ハ一時ヨリ五時迄、

施療院事務室ニ詰ムルコトヲ要ス、但土曜日ハ午後五時ヨリ六時迄、水曜日ハ午後七時出勤ノコトトス

前項ノ時間中ハ結核患者ニ對シ報告ヲ與ヘ又ハ物件ノ供給ヲ爲ス爲メニ施療院ヲ公開ス

第十條 書記ハ總テノ記録（醫員用及看護用ノモノヲモ含ム）カ適當ニ記入セラレ、且綴リ込マレアルカ

ヲ監視シ、及ヒ「カード」索引、市街索引及患者ニ關スル諸般ノ報告、通信カ、イロハ順ニ整ヘアルヤ否
ヤヲ監視スヘシ

前項ノ報告及ヒ通信ハ醫員用、看護用記録ト共ニ一括シ、「カード」見出ヲ附シテ、枚數ノ計算及ヒ参照
ニ便ナラシム

「カード」見出ニハ、患者ノ姓名、年齢、住所職業、及診斷、治療認可ノ日附、退院ノ日附及其ノ原因ヲ
記入スヘシ

書記ハ、患者ニシテ他ノ市、又ハ町へ移轉シタル場合ニハ、其ノ届出ニ基キ移轉先ノ市又ハ町ノ衛生局
へ移轉ノ向ヲ當該用紙ニ記入報告スヘシ

書記ハ毎月州衛生局及ヒ病院管理者へ通知スヘキモノノ外、隨時當該官憲ノ要求アルトキハ其ノ指定ノ
報告ヲ當該用紙ニ記入報告スヘシ

書記ハ出席醫員ノ要求ニ從ヒ、診察希望者ノ個人的及ヒ家庭的履歷ヲ調査記録スヘシ

第十一條 各地方病院或ハ國立結核療養所ヲ退去シタル結核患者ハ治療患者ニ編入登録シ、ヤカテ指示セ
ラルヘキ方法ニ依リ監視セララルヘシ

第十二條 治療院ノ役務ハ市立病院委員會及ヒ治療院委員會ノ一般監督ノ下ニ置カル、但該監督權ノ執行
ハ兩院ノ管理者ニ依リ行ハル

前項以外ノ事務ハ衛生局ノ一般の監督及ヒ指揮ヲ受ケテ之ヲ行フ

○藥局方治療血清ニ關スル規則及命令

(獨乙、佛國、露國、諾國、伊國、瑞西、北米合衆國)

獨逸藥局方「ヂフテリー」血清、「ヂフテリー」治療血清

(一千九百十年改正獨逸藥局方ニ依ル)

本品ハ「ヂフテリー」毒素ヲ以テ免疫シタル馬或ハ騾ノ血清ナリ、「ヂフテリー」治療血清ハ普魯西王國
フランクフルト、アム、マイン實驗治療研究所ニテ其中ノ免疫單位含有量、(「II」) 全ク無菌ナルコト
並ニ防腐藥(石炭酸或ハ「クレゾール」)ノ含有量ニ付キ試験サレ且ツ販賣ノ許可ヲ得タルモノノミ販賣スル
コトヲ得ヘシ

「ヂフテリー」治療血清ハ液狀及ヒ固形狀トシテ罐ニ容レ「コルク」或ハ「ゴム」栓ヲ以テ栓塞シ、或ハ鎔封セ
ル硝子管中ニ容レタルモノヲ販賣ニ供セラル

容器ニハ製造所名、一罐中ニ保有スル免疫單位並ニ検査番號ヲ記載セル貼紙アリ、貼紙ニハ其外ニ立方仙
迷或ハ「グラム」ヲ以テ示セル内容並ニ一立方仙迷或ハ十分ノ一「グラム」中ノ抗毒素量ニ關スル記載アリ
容器ノ栓塞及ヒ鎔封ハ政府ノ封鉛章ヲ以テセラル、其ノ封鉛章ノ一面ニハ官立試驗所ノ封印章アリ、他面

ニハ血清ノ保有スル免疫單位總量ヲ示シアリ

液狀「チフテリ」治療血清ハ帶黃色ニシテ透明ナルカ或ハ極メテ微量ノ沈澱ト防腐藥ノ臭氣トヲ有ス、液狀血清ニシテ甚タ強キ濁留滯シ或ハ著シク沈澱多キ時ハ之ヲ交付スヘカラス、一立方仙迷中ニハ少クトモ二百五十免疫單位ヲ保有セサルヘカラス

「チフテリ」治療血清ニシテ一立方仙迷中ニ五百免疫單位以上ヲ保有スルモノハ高價血清トシテ適合ス最モ多ク使用サル、所ノ一罐中ノ容量ハ次ノ如シ

零號 二百免疫單位

一號 六百免疫單位(或ハ五百免疫單位)

二號 一千免疫單位

三號 一千五百免疫單位

固形「チフテリ」血清ハ非常ニヨク乾燥セル高價「チフテリ」治療血清ニシテ「グラム」中ニハ少クトモ五千免疫單位以上ヲ含ミ且ツ決シテ防腐劑或ハ其他ノ添加物ヲ全ク含まサルモノニシテ眞空管中ニ保存セラ、本品ハ黃色、透明ノ小板狀或ハ帶黃白色ノ粉末ニシテ十分ノ水ニハ「チフテリ」液狀治療血清ニ一致セル色ト外見ヲ有スル液體トナリテ溶解セサルヘカラス、此ノ溶液ハ滅菌ナル小罐中ニ於テ之ニ滅菌水分ヲ注加シ常ニ交付ノ直前新シク製スヘク、蛋白質小翳片ヲ見ル以外ハ透明ナラサルヘカラス

種々異ナレル價值ノ「チフテリ」治療血清ハ貼紙ニヨル以外ニ包裝ノ色ニヨリ識別サルヘク、其ノ免疫單位ト色トノ關係ハ次ノ如シ

二百乃至四百九十九免疫單位	黃色
五百乃至九百九十九免疫單位	綠色
一千乃至一千四百九十九免疫單位	白色
一千五百乃至一千九百九十九免疫單位	赤色
二千乃至二千九百九十九免疫單位	紫色
三千乃至三千九百九十九免疫單位	青色
四千乃至五千九百九十九免疫單位	白地ニ黃色橫線
六千乃至七千九百九十九免疫單位	白地ニ綠色橫線
八千乃至夫レ以上ノ免疫單位	白地ニ赤色橫線

「チフテリ」治療血清ニハ一定ノ検査番號附シアリ、此者ハ本品ヲ交付セシメサランカ爲メニ沒收處分ヲ行フ時ニ利用セラル

本品ハ氷霜ヲ見サル程度ノ冷暗所ニ貯フヘシ

獨逸藥局方 破傷風血清 (破傷風治療血清)

(一千九百十年改正獨逸藥局法ニヨル)

五八

本品ハ破傷風毒素ヲ以テ免疫セラレタル馬ノ血清ナリ、破傷風血清ハ普魯西王國フランクフルト、アム、マイン實驗治療研究所ニテ其中ノ抗毒單位、含有量(レ)全ク無菌ナルコト及防腐藥(石炭酸或ハクレゾール)ノ含有量ニ付キ試驗サレ且ツ販賣ノ許可ヲ得タルモノノミ販賣ニ供スルコトヲ得ヘシ
破傷風治療血清ハ液狀及固形狀ニシテ罎ニ容レ「コルク」或ハ「ゴム」栓ヲ以テ栓塞シ或ハ鉛封セル硝子管中ニ容レタルモノヲ販賣ニ供セラレ

容器或ハ包裝ニハ製造所名一罎中ニ保含スル抗毒單位數並検査番號ヲ記載セル貼紙アリ、此ノ貼紙ニハ其外立方仙迷或ハ「グラム」ヲ以テ示セル内容並一立方仙迷或ハ十分ノ一瓦又ハ一瓦中ノ抗毒單位ニ關スル記載アリ

容器ノ栓塞及鉛封ハ政府ノ封鉛章ヲ以テセラル、其ノ封鉛章ノ一面ニハ官立試驗所ノ封鉛章アリ、他面ニハ保有スル抗毒單位總數量ヲ示シアリ

液狀破傷風治療血清ハ帶黃色ニシテ透明ナルカ或ハ極メテ微量ノ沈澱ト防腐藥ノ臭氣トヲ有ス、液狀破傷風血清ニシテ甚タ強キ濁濁留滯シ或ハ著シク沈澱多キ時ハ之ヲ交付スヘカラス

固形破傷風治療血清ハ非常ニヨク乾燥セル破傷風治療血清ニシテ全然防腐藥或ハ其他ノ添加物ヲ含マサルモノニシテ真空管中ニ保存セラル、本品ハ帶黃色、多少透明性アル小板狀或ハ帶黃白色粉末ニシテ十分ノ水ニハ三十分以内ニ液狀破傷風血清ニ相當セル所ノ外見ト色トヲ有スル液トナリテ溶解セラルヘカラス、此ノ溶液ハ滅菌セル小罎中ニ於テ之ニ滅菌水十分ヲ注加シ常ニ交付ノ直前新シク製スヘク蛋白質小鱗片ヲ見ル以外ハ透明ナラサルヘカラス

四倍ノ破傷風治療血清ノ一立方仙迷中ニハ少クトモ四抗毒單位以上、一瓦中ニハ少クトモ四十抗毒單位以上ヲ有セサルヘカラス

六倍ノ破傷風治療血清ハ一立方仙迷中ニハ少クトモ六抗毒單位以上、一瓦中ニハ少クトモ六十抗毒單位以上ヲ有セサルヘカラス

高價破傷風治療血清ハ又製造シ且ツ販賣スルコトヲ得ヘシ此時ニモ等シク政府ノ試驗ヲ受クヘキモノトス破傷風治療血清ハ左ノ六種ノ容量別ヲ以テ販賣ニ供セラレ

第一 容量ニハ二十抗毒單位ヲ含ミ之レハ四倍ノ液狀破傷風治療血清五立方仙迷或ハ四十倍ノ固形破傷風治療血清〇、五瓦ニ相當ス

第二 容量ニハ一百抗毒單位ヲ含ミ四倍ノ液狀破傷風治療血清二十五立方仙迷或ハ四十倍固形破傷風治療血清ノ二、五瓦ニ相當ス

五九

第三 容量ニハ二百抗毒單位ヲ含ミ四倍液狀破傷風治療血清ノ五十立方仙迷、四十倍固形破傷風治療血清ノ五瓦ニ相當ス

第四 容量ニハ四百抗毒單位ヲ含ミ四倍液狀破傷風治療血清ノ一百立方仙迷或ハ四十倍固形破傷風治療血清ノ十瓦ニ相當ス

第一 Dノ容量ニハ二十免疫單位ヲ含ミ六倍液狀破傷風治療血清ノ三、五立方仙迷或ハ六十倍固形破傷風治療血清ノ三分ノ一瓦若ハ六倍以上ノ液狀或ハ六十倍以上ノ固形破傷風治療血清ノ比較的少キ量ニ相當ス

第二 Dノ容量ニハ一百抗毒單位ヲ含ミ六倍液狀破傷風治療血清ノ一六、三分ノ二立方仙迷或ハ六十倍固形破傷風治療血清ノ一、三分ノ二瓦又ハ六倍以上ノ液狀或ハ六十倍以上ノ固形破傷風治療血清ノ比較的少キ量ニ相當ス

破傷風治療血清ニハ一定ノ検査番號附シアリ、此者ハ本品ヲ交付セシメサランカ爲メニ沒收處分ヲ行フ時ニ利用セラル

本品ハ氷霜ヲ見サル程度ノ冷暗所ニ貯フヘシ

ヂフテリヤ血清ノ検査

千八百九十四年十二月三十一日發布ノ勅令ニ依リ從來自由販賣ニ委セラレタリシ「ヂフテリヤ」血清ニ對シ國定検査ヲ行フコトナレリ依テ獨逸國ニ於テハ帝國検査所タル在「フランクフルト、アム、マイン」市王國實驗療法研究所ノ検査ヲ經タル「ヂフテリヤ」血清ニ限り販賣ヲ許可セラレ藥劑師ハ此ノ國定検査ヲ經タルモノニ限り取扱フヘキモノトス

検査ハ製造所ニ於テ之ヲ行フ先ツ血清製造ニ使用スル馬匹ノ健康ニ注意シ又動物毒素注入及血液採用ニ關スル事項ハ規定ニ從ヒ帳簿ニ記載セシムヘク醫務官吏ハ必要ト認ムルトキハ之ヲ提示セシムヘシ製造所ニ於テ多量(三乃至十リール)ノ血清ヲ有シ其ノ検査ヲ要求セントスルトキハ其ノ製造日附ヲ明記シ其ノ全量ヲ臨檢官吏(採取官吏)ニ提出スヘシ官吏ハ當該血清ノ少量ヲ採取シ、之ヲ三乃至五立方仙迷ノ小塚六乃至八箇ニ納メ之ニ必要ノ記載ヲ爲シタル鉛封ヲ施シテ検査所ニ送致シ製造所ニ存置セル原血清ノ容器ニハ封緘ヲ施シ製造所ノ自由取扱ヲ禁スルモノトス

検査所ニ於テハ左ノ事項ヲ檢定ス

- (イ) 血清カ製造所ノ申告スル免疫單位ヲ有スルヤ
- (ロ) 血清カ無菌ナルヤ

- (ハ) 規定ニ依ル消毒藥ノ含量多カラサルヤ(石炭酸ナレハ〇、五%「メタクレゾール」ナレハ〇、三%ヲ超ヘサルヤ)
- (ニ) 血清ノ多量カ毒素特ニ破傷風毒素ヲ含有セサルヤ

「ヂフテリ」血清ニ對スル國家ノ監督

凡テノ「ヂフテリ」治療血清ニ對シテ獨逸帝國ハ國家的監督ヲナシ、製造所ニ於ケル動物ノ狀況ハ獸醫カ監督シ、製造所ニ於ケル血清ノ製造ハ國家ノ官廳ニヨリ監視サル、各五立方仙迷入小瓶ノ多數ハ「フランクフルト、アン、マイン」ノ實驗療法研究所ニ送ラル、此ノ血清ハ密閉シテ血清ノ確實ナルコトニ就テ該研究所ノ鑑定カ下サルルマテ保留サレ、茲ニ初メテ監視ノ下ニ小罐ニ填充シ、官憲ノ封鉛章ヲ以テ其ノ誤リナキヲ證明ス。

破傷風血清並丹毒血清ニ對スル檢定規則

(一千九百三年十一月二日內務省令)

近時治療ノ目的ニ破傷風血清並丹毒血清ヲ應用スルモノ増加ノ傾向ヲ認ムルニヨリ內務省ハ左ノ命令ヲ發布ス

破傷風血清並丹毒血清ハ國家ノ監督ヲ受クルニアラサレハ製造スルヲ得サルノミナラス普魯亞王國「フランクフルト、アン、マイン」實驗治療研究所ニ於テ次ノ檢定規則ノ示ス所ニヨル檢定ヲ經ルニアラサレハ販賣スルコトヲ得ス

違反行爲ハ刑法第五章第三百六十七條ニヨリ百五十麻以下ノ罰金或ハ拘留ニ處ス

破傷風血清並丹毒血清ニ對スル檢定規則

A 破傷風血清

(一) 一般條件

檢定ハ固形及液狀血清ニ就テ之ヲ行フ
 固形血清ハ黃色稍ヤ透明性ノ小板狀物ニシテ十倍容量ノ水中ニ於テ殘渣ナク容易ニ溶解セサルヘカラス
 液狀血清ハ透明ニシテ且ツ極メテ輕微ノ沈渣アルノミナルヲ要シ〇、五%ノ石炭酸ヲ含有セサルヘカラス
 液狀血清ハ其ノ物自體トシテ直接動物體ヨリ產出セルモノナラサルヘカラス血清ノ濃縮或ハ固形ノモノヲ液狀血清ニ溶解セシメントスルニハ其ノ蛋白含量ハ一二%以上ニ出ツヘカラス此種ノ製品ハ標記ニ「濃縮」Konzentriert ト明記スヘシ

(二) 無害ナルコトニ就テノ試験

- (イ) 病芽ヲ有セサルコト。病芽ヲ有セサルコトニ關シテノ試験ハ可檢血清ノ一立方仙迷ヲ採リ肉汁「ペプトン」寒天培養基中ニ混シ而シテ「ブラウツター」ニ流注スヘシ其ノ他上記ノ血清若ハ血清溶液同量ヲ採リ高層葡萄糖培養基中並好氣性及嫌氣性ブイヨン培養基ニ培養シ其ノ培養ハ三十七度ノ孵卵器中ニ保存スヘシ血清並血清溶液中ヨリ六日以内ニ病芽發育スル時ハ其ノ血清ハ廢棄スヘシ
- (ロ) 無毒試験ニ關シテハ「マウス」ニ血清又ハ血清溶液ノ各〇、二五若ハ〇、五立方仙迷ヲ皮下ニ注射スヘシ、若シ血清中ノ防腐液含量カ高キニ失シ或ハ有毒物質ノ含有ニ由來スル現象ヲ動物カ呈セル場合ニハ其ノ血清ハ廢棄スヘシ

(三) 價値ノ試験

價値測定ハ「フランクフルト、アン、マイン」實驗治療研究所ニ保有サレアル破傷風血清第六十號ヲ基本トス、此血清ハ一瓦中ニ一百抗毒單位ヲ含有ス

價値測定ニ就テハ酸素及水ヲ除去シテ保有スル所ノ基本血清ヲ以テス此血清ハ秤量シ特ニ製セル真空管中ニ保存ス

使用前ニ基本血清ヲ有セル真空管ヲ開キ而シテ〇、八五%ノ食鹽水ニ溶解セシムヘシ

血清ノ試験ハ白色「マウス」ニ重複試験列ニ於テ行フヘシ

第一列ニ於テハ基本血清千分ノ一抗毒單位混合液ニヨリ種々ナル程度ノ量ヲ以テ先ツ豫メ檢査サレタル標準毒ノ減芽ニ付テ千分一抗毒單位ヲ完全ニ中性ナラシムル所ノ毒素量ヲ求メ而シテ第二千分ノ一抗毒單位ヲ法加スルニモ拘ラス其ノ毒ノ過剩カ有効ニ止マリ試験動物ノ死力四日以内ニ來ル所ノ毒素量ヲ求ム

第二列ニ於テハ製造所ノ申告ニヨレハ千分ノ一抗毒單位ヲ含有セサルヘカラサル所ノ可檢血清ノ量ト毒素ノ同量混合物トヲ同様ノ方法ニ於テ同數ナル動物ノ皮下ニ注射ス

試験ノ目的トスル順序ニ於テ一立方仙迷中ニ十分一抗毒單位ヲ溶解シ且ツ毒素ノ相當量ヲ加ヘ全量四十立方仙迷ニ達スル迄水ヲ注加スルカ或ハ精確ヒベツトヲ特ニ使用スル際ニハ一立方仙迷中ニ百分ノ一抗毒單位ヲ含有スル所ノ抗毒溶液一立方仙迷ト毒素ノ相當量ヲ採リ全量四十立方仙迷ニ達スル迄ノ水ヲ注キ斯クテ此ノ混合液ヲ三十分間置キ十五瓦ノ體重ヲ要スル「マウス」ニ其ノ混合液ノ〇、四立方仙迷即チ千分一抗毒單位ヲ含有スルモノヲ注射ス死セル動物ハ疾病ニ由ルニアラサルヤヲ檢査スヘシ、兩列ノ試験カ相一致セル成績ヲ示ス場合ニハ可檢血清ノ價値ハ表示セル所ニ相當ス若可檢血清ノ成績良好ナル場合ニハ高價ニシテ又之ニ反スル場合ニ在リテハ表示セル所ヨリ低價ナリ

抗毒ニ對スル最低含有量ハ次ノ如クナラサルヘカラス

液狀製品一瓦中ニハ五抗毒單位

固形製品一瓦中ニハ五〇抗毒單位

B 豚丹毒血清

六六

- 一、血清ハ分解ノ表徴トシテ認メラルヘキ所ノ平等ナル漏濁アルヘカラス而シテ一立方仙迷中ニ百個以上ノ病芽含有セサルヲ要ス
 - 二、價值測定ニハ「フランクフルト、アン、マイン」王立實驗治療研究所ニ於テ一千九百一一年一月十日採取保存サレアル標準血清ヲ基本トシ、表示價八〇、〇〇一五ナリ此者ハ一瓦中ニ一千免疫單位ヲ含有スルモノトシテ承認サル
- 價值測定ニ就テハ酸素及水分ヲ排除シ保存サレタル所ノ固形基本血清ヲ以テス
試験ニハ灰色或ハ白色「マウス」ヲ用ヒ、此目的ニ供スル「マウス」ニ基本血清若ハ可檢製品ヲ皮下ニ注射シ灰色「マウス」ハ二十四時間後、白色「マウス」一時間後ニ丹毒菌ノ四十八時間肉汁培養ノ〇、〇一立方仙迷ヲ腹腔ニ注射ス此ノ兩列ノ比較ニヨリ可檢血清ニ於ケル免疫單位ノ含有量ヲ明カニス
防禦素ノ最低含有量ハ一瓦ノ血清中ニ一百免疫單位ヲ有セサルヘカラス

佛國 治療血清並ニ類似製品ノ製造販賣ニ關スル法律

弱力病毒治療血清、變製毒素及ヒ類似製品ノ販賣ニ關スル千八百九十五年四月二十五日ノ法

律

- 第一條 弱力病毒、治療血清、變製毒素及ヒ傳染病ノ豫防及ヒ治療ニ供スヘキ類似製品其他化學上未確定ノ動物臟器ヨリ製セル注射劑ニシテ急性若クハ慢性疾患ノ治療ニ應用スヘキモノハ有價名義ト無價名義トヲ問ハス其製造上若クハ輸入上佛國衛生評議員會及醫學翰林院ノ意見ヲ徵シタル政府ノ許可アルニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス
- 此製品ノ許可ハ一時的且取消スコトヲ得ヘキモノニシテ主務大臣ノ任命シタル委員會監視ノ下ニ立ツ
- 第二條 此製品ハ醫師ノ處方ニ基キ藥劑師之ヲ公衆ニ交付スヘク其藥壘若クハ容器ニハ原產地ノ記號若クハ製造ノ日附ヲ付スルコトヲ要ス
- 醫師ハ緊急ノ場合ニ於テ其顧客ニ對シテ同一ノ製品ヲ供給スルコトヲ得
- 此製品カ無價名義ヲ以テ之ヲ赤貧者ニ交付スヘキ場合ニ於テ其ノ容壘ニハ磨出字ヲ以テ公共救濟—無料ノ文字ヲ附スルコトヲ要ス
- 此場合ニ於テハ醫師監督ノ下ニ藥劑師ノ藥局以外ニ此製品ヲ直接購入スルノ權能ヲ有スル公廳指定ノ救濟機關ニ之ヲ提供スルコトヲ得
- 此規定ハ總テ之ヲ人類若クハ動物ノゼンナ氏式種痘ニ適用セス

第三條 第一條ニ列舉セル物品ノ交付ハ其名義ノ如何ヲ問ハス總テ之ヲ販賣ニ準シ刑法第四百三十三條及

六七

ヒ千八百七十一年三月二十七日ノ法律ノ規定ヲ適用ス

偽造若クハ變造セラレヘキ上記物品ノ性質ニ關シテ人ヲ欺罔シタル者及ヒ其交付シタル物品ノ品質ニ關シテ人ヲ欺罔シ若クハ欺罔セント試ミタル者ハ刑法第四百二十三條及ヒ千八百七十一年三月二十七日ノ法律ニ由リテ之ヲ處罰ス

第四條 其他本法ノ規定ニ違背セル者ハ之ヲ十六法以上一千法以下ノ罰金ニ處ス

此法律ハ元老院及ヒ代議院ノ議決ヲ經國法トシテ之ヲ施行ス

一千八百九十五年四月二十五日巴里ニ於テ

共和國大統領

フーリィズ、フオール

司法大臣

エルト、ラリィ

内務大臣

ゲ、レ、イ、ギ、

佛國 治療血清並ニ類似品ノ製造及販賣ニ就テノ許可ニ關スル命令

(一千八百九十六年一月二十六日發布ノ佛蘭西共和國大統領命令)

第一條 弱力病毒、治療血清、變性毒素並ニ傳染病ノ豫防、治療ニ供スル之ニ類似ノ製品及急性或ハ慢性病治療ノ目的ヲ以テ動物性臟器ヨリ製出セル注射劑ノ製造ヲ左ニ掲クルモノニ許可シ其條件ヲ次ノ如ク

定ム

- (一) 巴里「パスツール」研究所ニハ「デフテリィ」血清、毒蛇血清
- カルメット氏ノ管理スル「リイェー」パスツール研究所ニハ「デフテリィ」血清、毒蛇血清
- デュマン氏ノ管理スル「ハーブル」實驗所ニハ「デフテリィ」血清
- マセー氏ノ管理スル「ナンシー」實驗所ニハ「デフテリィ」血清
- アルロアン氏ノ管理スル「リオン」實驗所ニハ「デフテリィ」血清
- ペルリオ、ジユルダン兩氏ノ管理スル「グルノーブル」實驗所ニハ「デフテリィ」血清
- エガス、ブイエ兩氏ノ管理スル實驗所(巴里市フオゼー、セエン、ジャケ街十九番地)ニハズロオン、セカール氏法ニヨリ製セル動物性臟器「エキス」
- (八) パザン氏實驗所(ボルドー市ビクトル、ユーゴー街九番地)ニハズロオン、カセール氏法ニヨリ製セ

ル動物性臓器「エキス」

七〇

第二條 變敗セル製品ヲ無料或ハ有料ニテ分配シタルトキハ其認可ヲ一定期間取消スコトアルヘシ、製造所ハ法律ノ命スル検査ニ服従スヘシ

第三條 副大統領内務大臣ハ此ノ命令ノ執行ニ任ス

一千八百九十六年一月二十六日、巴里ニ於テ

大 統 領 自 署

佛國 治療血清並ニ類似製品ノ製造販賣ニ就テノ許可ニ關スル命令

(一千八百九十六年六月二十七日發布佛蘭西共和國大統領令)

第一條 治療血清ノ製造ヲ左ニ掲クルモノニ許可シ其ノ條件ヲ次ノ如ク定ム

- (一) 巴里「バヌツール」研究所ニハ連鎖狀球菌血清、破傷風血清
- プロフェツソール、フェール氏ノ管理スル「ボルドウ」實驗所ニハ「ヂフテリー」血清
- ドクツール、ダストロ氏ノ管理スル「マルセイユ」實驗所ニハ「ヂフテリー」血清
- ドクツール、ブージョル氏ノ管理スル「モントペリエ」實驗所ニハ「ヂフテリー」血清

(譯者曰) 第二條、第三條ハ、一千八百九十六年一月二十六日發布ノ命令ト同一ノコトヲ述ベアルニ過

ギザレバ之ヲ省略ス

佛國 治療血清並動物性臓器ヨリノ搾出物製造ニ關スル命令

(一千八百九十六年十一月十二日發布)

佛蘭西共和國大統領

内務大臣之ニ于與ス

一千八百九十五年四月二十五日ノ法律參照

一千八百九十五年五月十五日ノ命令參照

佛蘭西共和國衛生委員ノ通牒參照

佛蘭西共和國衛生評議員會ノ通牒參照

醫學翰林院ノ通牒參照

命 令

第一條 治療血清並動物性臓器搾出物ノ製造ハ左ノモノニ許可シ其ノ條件ヲ次ノ如ク定ム

七一

(一) ロース化學製造會社ノ製劑所(リヨン市レト街八番地)ニハ連鎖狀球菌血清
 (二) シエイズ及レミイ氏製劑所(巴里市ロース街十番地)ニハブラウン、セカール氏法ニヨル臟器搾出製劑

第二條 變敗セル製劑ヲ無料或ハ有料ニテ分配シタルトキハ其ノ認可ヲ一定期間取消スコトアルヘシ、製造所ハ法律ノ命スル検査ニ服従スヘシ
 第三條 内務大臣ハ此ノ命令ノ執行ニ任ス

フエリーズ、フオール、ルイ、バルト副署

佛國藥品方規定ノ血清効力

(一千九百〇八年出版ノ藥局方ニヨル)

「デフテリヤ」血清

「デフテリヤ」血清ハ同時ニ抗毒性且抗菌性ノ者ナリデフテリヤ血清ノ抗毒力ハ一立方仙迷ニ付最少量二百ノ抗毒單位ヲ有スルコトヲ要ス

抗毒單位ハ新鮮ナル毒ノ致死量一百ニ混合シテ之ヲ無害ト爲スヘキ抗毒力ヲ具有スヘキ者トス、毒素ノ最

少致死量ハ體量三百五十瓦ノモルモットノ皮下ニ注射シテ四日以内ニ之ヲ斃死セシムルモノトス

デフテリヤ血清ノ有スル抗毒力ハ拾萬分ノ一ノ最低價ヲ有ス。之ヲ詳言スレハ三百乃至四百瓦ノ體重ヲ有スル「モルモット」ニ其體重拾萬分ノ一「デフテリヤ」血清ヲ注射後二十四時間ヲ經テ培養二十四時間ノ「デフテリヤ」菌ニシテ實驗上四十時間以内ニ其動物ヲ斃シ能フヘキ量ヲ血清ト共ニ接種スルモ其動物カ抵抗ヲ得ルニ足ルモノタルヲ要ス

乾燥「デフテリヤ」血清一瓦ヲ完全ニ殺菌シタル十立方仙迷ノ水中ニ溶解セシメタル溶液ハ常ニ澄透ニシテ液體血清ト同一ノ抗毒力抗菌力ヲ具有スルコトヲ要ス

破傷風血清

破傷風血清ハ抗毒性ノ者ニシテ殊ニ豫防的効價ヲ有ス。破傷風血清ノ抗毒力ヲ試験セント欲セハ「モルモット」ニ對スル致死量一百ト共ニ破傷風血清五萬分ノ一立方仙迷ヲ混シ然後此混合物ヲ「モルモット」ニ注射スルモ毫モ破傷風ノ徴候ヲ呈セサルコトヲ要ス

乾燥破傷風血清一瓦ヲ完全ニ殺菌シタル十立方仙迷ノ水中ニ溶解セル溶液ハ常ニ澄透ニシテ原血清ノ濃度ト効力トニ全ク適合セル者トス

露西亞國 治療ノ目的ニ對シ動物性物質ヲ販賣ノ爲メ製造スルコトニ關スル規則

(一千八百九十六年十一月四日內務省令)

(第一) 臟器及其ノ有効成分ノ搾出製造

(一) 臟器及其ノ有効成分ノ搾出製造ハ醫師、藥劑師、化學者ヨリ學術的監督ヲ受クル所ノ藥局並ニ製藥所ニ之ヲ許可ス

(二) 臟器及其ノ有効成分ノ搾出製造ハ藥局ニ對シテハ強制セサレトモ玆ニ示セル所ノモノヲ製造セントスル藥局ニ在リテハ之ニ關シ所轄醫事官廳ニ報告シ施設ニ付キ必要ナル検査ヲ受クヘシ

(三) 第一項ニ掲ケタル製藥所ノ開所ニ付キ認可ヲ受クル爲メノ願書ニハ同時ニ製藥所ノ指導ニ任シ監督ヲナスヘキ者ノ學術及ヒ實地上ノ技能ヲモ申告シ最高所轄醫事官廳ノ認可ヲ受クヘシ

(四) 願書ニハ開設スヘキ製藥所ノ事務豫定並ニ醫務部或ハ之ニ相當スル官廳ノ意見ヲ添付スヘシ 臟器或ハ其ノ有効成分ヲ搾出製造セントスル所ノ製藥所並ニ藥局ハ左ノ義務ヲ有ス。

a 動物性藥品ハ著シク健康ナル動物ノ臟器ヨリ製造シ其動物ハ充分學術上確認サレタルモノナルヲ要シ、且ツ之ニ關係アル作業ノ學術的指導ニ當ル人ノ個人的責任ノ下ニ管理サレタルモノタルヘシ

b 此製劑ハ如何ナル場合ニモ秘密アルヘカラス

c 醫師ノ請求アル時ハ確實ニ本體ヲ明示シ、且ツ其ノ製出方法ヲモ精細ニ告クヘシ

d 製造シタル物ニ就テハ精確ニ記帳シ置クヘシ

e 製劑及ヒ有効成分ハ特ニ醫師、藥局ヨリ書面ヲ以テセル請求ニヨリ之ヲ交附シ、其請求書ハ一定期間之ヲ保管シ所轄最高醫務官廳ニ提出スヘシ

f 此製品ヲ販賣セントスルニハ完全ニ無菌タラシメサルヘカラス。銘塞セル小硝子罎ニハ貼紙ヲ附シ夫レニハ製品ノ名稱以外ニ製造會社、搾出製造ノ時日ヲ明記セサルヘカラス、若モ何等カノ防腐劑

g 臟器ヨリ製品及其他有効成分ノ販賣價ハ藥局或ハ製藥所所有者カ表示セル所ヲ參酌シ所轄醫務官廳ヨリ豫メ一ケ年間ヲ期限トシ之ヲ定ム

(五) 最高所轄醫務官廳ハ藥品製造ニ關スル一般監督(藥局検査規則)以外ニ藥局及ヒ製藥所ニ於ケル動物性臟器及其有効成分搾出製造ニ付キ特殊ノ監督ヲ行フベク、又検査ノ目的ヲ以テ製造シタル製品ノ收容サレアル製品罎ヲ收去スルコトアルヘシ

(備考) 藥局監督ハ唯ニ完成セル製劑品及其他有効成分ヲ販賣スル所ノモノ、ミナラス、一般的ニ根本ヨリ之ヲ行フ

(六) 叙上成分ノ製造ニ關シ特殊ノ監督ヲ遂行スルニハ次ノ規則ニヨルヘシ

a 各検査ハ製品容體ヲ受領セル日ヨリ起算シ四週間以内ノ期間ニ終ラサルヘカラス

b 検査成績ハ検査終了後二日以内ニ薬局主或ハ製藥所主ニ通知スヘシ

c 特ニ困難ノ事由ヲ生シタル場合ニハ醫務長官ハ最寄ノ大學或ハ其他之ニ相當スル研究所ノ助力ヲ請求スル權利ヲ有ス

(第二) 治療血清及細菌毒素ノ採取並ニ製造

(七) 治療血清及有効細菌性物質ノ採取並ニ製造ハ一千八百九十五年一月二十日附内務省回文第三百三十號ニ合致セル醫科大學及之ニ相當スル高等醫學校ニ委任ス

(備考) 痘苗並ニ狂犬病豫防接種材料ノ採取、製造ニ關シテハ特ニ定メラレタル規則ニ從フヘシ

(八) 第七項ニ該當セサル研究所並ニ治療血清及有効細菌性物質ヲ製造セントスル所ノ人ハ豫メ醫務局ヨリ特ニ認可ヲ受クヘシ、即チ上記物質ノ製造ハ唯細菌學ノ充分ナル素養ヲ有スル人ノ責任アル監督ノ下ニ於テノミ之ヲ認可サルヘシ

(九) 第八項ニ上ケタル研究所並ニ人ハ所轄官廳ニ於テ制定セル所ニ從ヒ其監督ヲ受クヘシ

本法ノ違犯者ニ對シテハ一千八百八十五年發布治安警察法第二十九條ノ背任罪若ハ國民衛生ノ毀損ニ對シ責任ヲ嚴守セサリシコトニヨリ所罰ス

伊太利 治療血清ノ製造販賣ニ關スル法律

(一千八百九十九年十二月二十一日發布)

第一條 内務省ノ許可ナクシテハ何人ト雖モ販賣ノ目的ヲ以テ次ニ掲クルモノヲ製造スルコトヲ得ス

イ、ワクチン類

ロ、病毒類

ハ、治療血清

ニ、細菌毒素、抗毒素並ニ之ニ類スル製品

此ノ許可申請ニ關シ必要ナル條件並ニ之ヲ製造及ヒ販賣ニ關スル特別ノ規則ハ最高衛生顧問官ノ諮問ヲ經タル後省令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 上記ノ製品ハ其ノ價值ノ決定ニ就テハ衛生局若ハ最高衛生顧問官ノ意見ニ基キ内務省ノ指定セル其他ノ試験所ヨリ學術上絶ヘス監督ヲ受クヘシ

之ト同様ニ衛生顧問官ノ意見ニテ定メラレタル所ニヨリ其製品ハ試験ヲ受ケ且ツ其判定ニ從フヘシ

第三條 第一條ニ掲ケタルモノニシテ且ツ外國製品ヲ王國內ニ於テ販賣セントスルニハ内務省ノ全權ヲ委任サレタル最高衛生顧問官ノ同意ヲ得テ之ニ關スル命令ニ從ヒ試験ヲ受クルコトノ條件ヲ以テ許可サル

ヘシ

七八

第四條 本法制定ノ命令並ニ第一條ニ掲ケシ規則ニ違反スルモノハ百乃至五百「リトラ」(「リトラ」ハ邦貨ノ約四十錢弱)ノ罰金ニ處ス

反復違反スル場合ニハ罰金以外ニ二十日以内ノ禁錮ニ處スルコトヲ得ヘシ

前項ニ掲ケタル處罰ハ刑法上既定ノ刑罰ニ拘泥セス公衆衛生保護ニ携ハル官廳カ之ヲ判決スルコトヲ得ヘシ

諾威國 「ヂフテリー」血清ニ關スル法令

(一千八百九十五年九月二十七日發布)

諾威國內ノ藥局ニ於ケル「ヂフテリー」血清販賣ニ關シ左ノ通り制定ス

第一條 藥局ニ於テ販賣セントスル「ヂフテリー」血清ハ其製造所カ國ノ内外ニ在ルヲ問ハス民事及醫務長官ニ届出ツヘシ

第二條 前條ノ長官ハ藥局ニ於ケル上記治療劑ノ販賣ニ關シテハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ發布シ確實有効ナル血清ノミ發賣スルコトヲ許可ス

第三條 上記治療劑ノ販賣ニ際シ藥劑師ノ利得ハ仕入代價ノ五拾「プロセント」ニ普通ノ雜費ヲ加算シタルモノトス

第四條 本令ハ發布ノ日ヨリ其効力ヲ有ス

上記命令ノ定ムル所ニヨリ醫務長官ハ一千八百九十五年十月十日以後左記種類ノ血清ニ限り藥局ニ於テ販賣スルコトヲ許可ス

- (a) 及(b)伯林公設檢定所ニテ検査濟トナレル伯林「ヘックスト」色素會社製造血清(ベーリング氏血清)及ヒ伯林「シエーリング」會社製造血清(シエーリング氏或ハアロンソン氏血清)
- (c) 巴里「バステール」研究所製造血清
- (b) クリスチアニア「ウルレーブ」病院製造血清

其他前記ノ長官ハ同日附ヲ以テ上述セル法令及ヒ一千八百七十一年六月十日並ニ一千八百九十一年五月二日ノ命令トニ關聯シテ左ノ如ク規定ス

第一條 「ヂフテリー」血清ハ今後藥劑師ハ唯有資格ノ醫師並ニ獸醫ヨリ發セラレタル處方箋ニ對シテノミ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第二條 血清ハ氷霜ヲ見サル程度ノ冷暗所ニ貯藏セサルヘカラス

第三條 血清ハ透明ニシテ唯極メテ僅微量ノ沈渣物ヲ示スニ過クヘカラス

七九

濁濁或ハ著明ナル沈渣物アル血清ハ決シテ使用ニ供スヘカラス
第四條 製造所ヨリ發送後開口セル所ノ壘ハ販賣ニ供スヘカラス

瑞西國藥局方 「ヂフテリ」血清

(一千九百七年出版ノモノニ據ル)

本品ハ「ヂフテリ」毒素ヲ以テ他働的ニ強ク免疫サレタル馬ノ血清ナリ
製造、監督、包裝、表示、保存、並ニ交付ニ關シテハ血清ニ就テノ一般命令ヲ適用ス
「ヂフテリ」治療血清ハ一立方仙迷中ニ二百免疫單位以上ヲ有セサルヘカラス(二百倍血清)管或ハ小瓶ノ
内容ハ五百或ハ一千免疫單位ニ相當スルモノタルヘシ
價值測定ノ標準トシテハ獨逸國政府檢定カ標準スル所ノ「免疫單位」ニヨル、血清免疫價ノ決定ハエーデルリッ
ヒ氏法ニ依ル

(第一) 價值測定ニ對スル標準トシテハ次ノモノニヨル

(一) 絶對的正確ニ區分シタル一定量ヲ真空管ニ密閉シタル所ノ可檢乾燥血清、此血清ハ二ヶ月ニシテ管ヲ
開キ且ツ其内容ヲ十「プロセント」ノ食鹽水ト「グリセリン」ノ等分ノモノヲ以テ溶解セシメ基本血清ト全ク

等シキ所定ノ價值ヲ示スニ至ラシム、此ノ基本血清ノ一定量ヲ每使用時ニ際シ生理的食鹽水ヲ注加シ一立
方仙迷中ニハ確實ニ一免疫單位ヲ有スル様ニ稀釋ス

(二) 「トルオール」ヲ以テ保存サレアル「ヂフテリ」可檢毒素ハ充分ナル豫備試驗ニヨリ一定不變ニシテ次
ノ性質ヲ示サ、ルヘカラス
即チ

イ、試驗量ハ一立方仙迷ヲ超過セサルヲ要ス

ロ、L+(最大致死量)トL(中和量)トノ差ハ少クトモ致死量十倍以上ナラサルヘカラス

「十ノ境界價トハ一免疫單位ノ血清ヲ混シ體重二百五十瓦ノ「モルモット」ニ注射シ之ヲ四日以内ニ致死セシ
ムル可檢毒素ノ最低量ヲ示シ「〇ノ境界價トハ一免疫單位ノ血清ニヨリテ完全ニ中和スルニ足ル可檢毒素
量ヲ云フ

(第二) 價值測定ノ實行ハ次ノ方法ニヨル

(一) 先ツ可檢毒素試驗量ヲ定ムル爲メニ基本血清稀釋液一立方仙迷(第一)ノ(一)ニ示シタル一立方仙迷
中ニハ一單位ヲ有スル)中ニ可檢「ヂフテリ」毒素(第一)ノ(二)ノ種々ナル量ヲ加ヘ、此ノ混合液ヲ
四立方仙迷ニ至ルマテ生理的食鹽水ニテ稀釋シタルモノヲ二百五十瓦ノ體重ヲ有スル「モルモット」ノ皮下
ニ注射ス

此ノ基本血清稀釋液(一立方仙迷中ニハ一免疫單位)ニ混シタルモノヲ注射シ「モルモット」ヲ四日以内ニ致死セシメ得タル所ノ可檢毒素ノ最少量ヲ可檢毒素試驗量ト云フ

(二) 血清ノ試験ニ關シテハ精密ニ測定サレタル各種分量ノ血清稀釋液一立方仙迷ニ可檢毒素試驗量ヲ混シ生理的食鹽水ヲ以テ四立方仙迷ニ至ルマテ稀釋シ之ヲ二百五十瓦ノ體重ヲ有スル「モルモット」ノ皮下ニ注射ス

叙上血清稀釋液カ若シモ四日以内ニ於テモ動物ノ死ヲ阻止スル爲メニ充分ナリシトセハ之レ血清ノ免疫價ヲ示スモノニシテ即チ×倍ノ稀釋ハ×倍ノ價値ヲ有ストノコトヲ計出シ得ルモノトス
本品ハ冷所ニ於テ光線ヲ遮キリ注意シテ貯藏スヘシ

瑞西藥局方 破傷風血清 (破傷風治療血清)

(一千九百七年出版瑞西藥局方ニヨル)

本品ハ破傷風毒素ヲ以テ他動的高度ニ免疫シタル馬ノ血清ナリ

其製造、監督、包裝、表示、貯藏並ニ交付ニ關シテハ血清ニ付キテノ一般命令ヲ適用ス

血清ノ價値、即チ抗毒素ノ含有量ハ動物試驗ニヨリ決定シ、就中佛國或ハ獨逸國法ニヨル

先ツ第一ニ破傷風毒素ノ最少致死量ニヨル「マウス」ノ死ヲ防クニ足ル所ノ最少血清量ヲ定ム、血清ノ價値ヲ表示スルニハ次ノ方法ニヨル、即チ若モ毒素ト血清トヲ同時ニ注射スルトセハ、其血清「グラム」ニヨリ幾何「グラム」ノ體重ヲ有スル「マウス」ヲ破傷風毒素ノ最少致死量ニヨル死ヨリ防クニ足ルヤヲ以テス
獨逸法ハ次ノ方法ヲ以テス即チ

(第一) 價値測定ニ對スル標準トシテハ次ノ如シ

(一) 一定量ニ絶對、確實ニ計量シ真空管中ニ密閉サレタル可檢乾燥血清、此ノ血清ハ每試驗時ニ際シ其一立方仙迷中ニハ確實ニ百分ノ一免疫單位(ベールング氏ニヨル)ヲ含有スル様ニ生理的食鹽水ヲ加ヘテ新シク溶解セシム

(二) 乾燥毒素ノ中和價ハ既ニ精確ニ知ラレタルモノナリ、斯ル乾燥血清ノ一定秤量ヲ生理的食鹽水中ニ溶解シ嚴確ニ一時間遠心器ニ懸ク

(第二) 價値測定ノ實行ニ就テハ次ノ方法ニヨル即チ

「+」(最大致死量)價トハ一萬分ノ一免疫單位即チ基本血清ノ十分ノ一立方仙迷ヲ注加後抱和セラレスニ止マル所ノ過剩毒素ニヨリ白色「マウス」ヲ四日ニシテ致死セシムルニ足ル所ノ毒素量ヲ云フ
「0」(中和量)トハ一萬分ノ一免疫單位ヲ完全ニ中和スルニ足ル可檢毒素ノ量ヲ示ス
茲ニ於テ血清ト毒素混合液ヲ二様ニ製ス、即チ

第一列ハ基本血清ヲ以テ「ト」トノ境界價ヲ決定スル目的ヲ有シ、各一立方仙迷ノ基本血清(百分ノ一免疫單位)ニ十倍ツ、ノ階段ヲ附シタル毒素量ヲ「ト」トノ間ヲ動カシ「ト」ノ境界價ヲ超ユルマテ注加ス、血清、毒素混合液ハ四立方仙迷ニ充タシメ且ツ三十分間放置ス、斯クテ各混合液ノ〇・四立方仙迷ヲ白色「マウス」ノ後脚ノ皮下ニ注射ス

第二列ハ試験スヘキ血清ノ價値ヲ次ノ方法ニ於テ決定ス、即チ第一列ニヨリ得タル「ト」ノ毒素量ヲ試験ノ出發點トナシ、試験サルヘキ血清ノ稀釋物ニ毒素試験量ヲ注加ス

斯カル稀釋血清ニシテ「マウス」ノ死ヲ四日以内ニ防ク爲メニ充分ナリシトセハ簡單ナル計算法ニヨリテ血清ノ免疫價ヲ表示スルヲ得ヘシ

本品ハ寒冷ナル場所ニ光線ヲ遮キリ注意シテ貯藏スヘシ

北米合衆國藥局方「ヂフテリア血清」

(一千九百五年發行ノモノニヨル)

「ヂフテリア」血清 「ヂフテリア」抗毒素

本品ハ「ヂフテリア」毒素ヲ注射シテ免疫シタル馬ノ血液ヲ凝固セシメ分離シタル流動體ニシテ之ヲ硝子製

ノ容器ニ容レ密封シ攝氏四、五度乃至一五度(華氏四〇度乃至五九度)ノ溫度ニテ暗所ニ貯藏スヘシ

本品ハ黃色若ハ黃褐色ノ透明ナルカ若ハ僅ニ濁濁セル液体ニシテ貯藏ノ目的ニテ用ヒタル防腐劑ノ有無ニ由リ無臭ナルカ若クハ僅ニ臭氣ヲ有ス

比重ハ攝氏二五度(華氏七七度)ニ於テ一・〇二五乃至一・〇四〇ナリ

「ヂフテリア」血清ハ漸次其効力ヲ失シ壹ケ年ニ於テ一〇乃至三〇%ノ減損アリ、各容器ニハ抗毒單位ヲ以テ表示シタル「ヂフテリア」血清ノ効力、貯藏ノ目的ニ用ヒタル防腐劑ノ% (若シ用ヒアラハ)、最終試験月日、表示セル効力ヲ保持シ得ヘキ日限ヲ記シタル貼紙若ハ摘要書ヲ附スヘシ

抗毒單位ニテ表ハシタル効力ノ標準ハ合衆國衛生局及海員救濟病院ニ依リ是認セラレ且確定シタルモノナルヲ要ス

普通用量 三、〇〇〇單位
健康者ノ免疫用量 五〇〇單位

合衆國第八改正藥局方「ヂフテリア」血清

(千九百〇七年六月一日發行第十九版亞米利加合衆國藥局方註釋ニ據ル)

「デフテリア」血清 「デフテリア」抗毒素

八六

本品ハ「デフテリア」毒素ヲ接種シテ免疫シタル馬ノ血液ヲ凝固セシメ分離シタル流動體ニシテ硝子製ノ容器ニ容レ密封シ攝氏四・五度乃至一五度華氏四〇度乃至五九度ノ溫度ニテ暗所ニ貯フヘシ(合衆國藥局方)本品ハ「デフテリア」毒素ニ對シテ免疫シタル馬ノ血清ナリ(獨逸藥局方)

千八百九十年ペーリング及北里ノ二氏ハ細菌毒素ヲ接種シテ免疫シタル馬ノ血清中ニ抗毒質アルコトヲ發見シタリ(千八百九十年獨逸醫事週報四九・五〇號)

「デフテリア」抗毒素ノ大ナル治療的効價ニ關シテハペーリング及ラウノス氏ニ依リ證明セラレ千八百九十四年之レヲブダベストニ於ケル萬國衛生人口學會議席上ニ論文ヲ以テ發表シタリ、血清ノ他、體液ニモ亦抗毒質ヲ具有スルト雖モ醫藥トシテハ只前者ノミヲ豫防若ハ治療ノ目的ニ用フ、抗毒素ハ之レヲ純粹ニ分離スルコト能ハスシテ蛋白質ト共ニ沈澱シ醱酵素ト結合スルモノトス、抗毒性蛋白質ハ之レト結合スル蛋白質ニ比シ一層其ノ特性ヲ固執ス、詳言スレハ此ノモノハ血清中ニ存スル他ノ蛋白質ニ比シ有害ナル感作ニ對シ抵抗力強ク且ツ溶解シ易シ、抗毒性血清中ニ保有スル抗毒素ノ化學的性狀ハ明瞭ナラサルモ或ハ抗體トシテ説明シエーリツヒ氏ハ遊離攝取體トシメチニコツフ氏ハ細胞溶解素トナセリ

既知ノ諸抗毒素中ニ於テ合衆國ノ認メタルハ只「デフテリア」抗毒素アルノミ、各抗毒素ハ各自特效ヲ有ス詳言スレハ各特異ノ毒素ヲ得ンカ爲メ感受動物ニ接種スル毒素ヲ中和ス、「デフテリア」抗毒素ハ他ノ疾病

ニモ用ヒラル、モ其特徴ハ「デフテリア」菌ノ產生毒素ヲ中和スルニアリ、時トシテ「モルモット」、馬、人及其他ノ動物ノ血液中ニ生理的少量ノ抗毒素ヲ有スルコトアリ

製 法

「デフテリア」抗毒素ヲ製スルニハ「デフテリア」毒素ヲ馬ノ皮下若ハ靜脈内ニ接種シ製スルモ通常前法ヲ採用ス馬ハ其體軀巨大ナルヲ以テ大量ノ血液ヲ採取シ得ルノミナラス「デフテリア」毒素ニ甚タ感受シ易キヲ以テ好ンテ之レヲ使用スペーリング氏ハ最初犬及羊ヲ以テ成功シアロンソン氏ハ山羊ヲラウクス氏ニ至リ始メテ馬ヲ使用セリ

抗毒素ノ產生ハ毒素ノ刺戟ニ依リ惹起スル動物細胞ノ生活反應ニ基クモノナリ、然レトモ何レノ細胞力最モ興リテ力アルヤ明瞭ナラス

メチニコツフ氏ハ此ノ機能ヲ專ラ喰細胞ニ屬スルモノト信シ、エーリツヒ氏ハ動物細胞ノ一部殊ニ結締織細胞カ最重要ナル職ヲ負フモノトセリ、エーリツヒ及メチニコツフ氏ノ學徒ハ抗毒性免疫ヲ説明センカ爲メ各異見ヲ異ニスル兩學派ニ倚レリ而シテ兩派共ニ細胞ノ營養及代謝機能ヲ抗毒素產出ノ原理トセルハ興味アルコトナリ

毒素ヲ製スルニハ攝氏三十七度ニテアルカリ性肉汁培養基ニ培養シタル強キ毒性ヲ有スル「デフテリア」菌ノ五日乃至七日ヲ經タルモノヲ採リ菌體ヲ除去スル爲メ之レヲ素燒ノ陶器若クハ類似ノ竄透體ニテ濾過ス

八七

此濾過液ハ溶解性ノ毒素ヲ含有スル「チフテリア」毒素ナリ此ノ方法ハ多クノ時ト費用ヲ要スルヲ以テ日常大量ヲ製造スル設備ニアリテハ尙ホ簡單ニシテ迅速ナル方法ヲ採用ス即培養ニ殺菌ノ目的ヲ以テ〇・四%ノ「トリクレゾール」若ハ「クロホルム」ヲ加ヘ菌體ヲ沈澱セシメ浮上シタル液體ヲ濾過紙ヲ以テ濾過シテ製ス此ノ方法ニテハ悉ク菌體ヲ除去シ得サルヲ以テ注射部ニ瘀衝若ハ膿瘍ヲ形成シ易シ

馬ニ毒素ヲ增量シ接種スルニハ最初〇・一立方仙迷ヲ用フ、此ノ量ニテ通常局處及全身の反應即注射部ノ腫脹、水腫熱、食慾ノ變調ヲ來スモ二、三日内ニ消失スルヲ以テ其後漸次增量シ二、三ヶ月中ニハ第一回ノ接種ニ比シ局所及全身障害ヲ起スコト少クシテ強毒素ノ五百乃至千立方仙迷ノ皮下接種ニ堪ヘ得ルニ至ル迄此ノ方法ヲ續行スヘシ

斯ノ如ク毒素量ヲ增量シ用フルトキハ血液中ノ抗毒素量モ亦漸次増加シ三乃至六ヶ月後ニハ馬ノ血液一立方仙迷ニ就キ通常二百乃至四百ノ抗毒單位ヲ含ムニ至ル尙ホ強力ノ抗毒性血清ノ産出ハ方法ニ關係ナク全ク馬ノ個性ニヨル、例ヘハ甲ハ長時間日間頗ル活潑ニ反應シ高度ノ効力アル血清ヲ産出スルニ拘ハラズ乙ハ一立方仙迷ニツキ一五〇乃至二〇〇單位以上ヲ含有スル血清ヲ得ル能ハサル如シ、種々ナル期間（數月乃至數年）後ニハ馬ハ反應力ヲ失ヒ假令能働の處置ヲ施スモ血清ノ免疫力ハ髓ニ減少ス血液ヲ採取スルニハ「トロアカル」ヲ用ヒテ馬ノ頸靜脈ヨリ採血シ之ヲ滅菌シタル長圓柱狀ノ壺又ハ筒ニ入レ凝固セシメ集メタル血清ヲ二、三日中ニ「ビベット」ニテ吸取ル、此ノ清キ蛋白質性ノ液體ハ局方ノ血清ナリ

保 存 法

抗毒素ハ毒素ニ接觸スルトキハ直ニ之レヲ中和スルモ抗毒性血清ハ細菌自家ノ生育ヲ妨ケサルヲ以テ「チフテリア」菌ハ「チフテリア」抗毒性血清中ニ好ク繁殖ス、換言スレバ「チフテリア」抗毒素ハ總テノ種類ノ細菌ニ對シ良好ナル培養基ナリ、故ニ其ノ汚染ヲ防止スル爲メ最重ノ注意ヲ拂ハサルヘカラス、要スルニ此血清ハ最モ嚴重ナル細菌學的警戒ノ下ニ於テノ、絕對的無菌ニ保存スルコトヲ得時トシテ防腐劑ヲ加ヘスシテ販賣スルコトアレトモ其ノ實行ハ概ネ次ノ理由ニヨリ廢止セラレタリ

- (1) 調製ヨリ瓶詰ニ至ル手順中偶然ノ汚染ヲ防クニハ極メテ困難ナル技術ヲ要スルコト
- (2) 血清取扱ニ熟練セサル人ニヨリ重キ汚染ヲ招クノ危険アルコト
- (3) 或ル防腐劑ヲ少量ニ加フルハ無害ナルコト

ラウクス氏ハ防腐ノ目的ニテ樟腦ヲ、ペーリンク氏ハ「フェノール」(〇・五%)ヲ、アロンソン氏ハ「トリクレゾール」(〇・四%)ヲ、マツクフアーランド氏ハ「フォルムアルデヒド」(1:1000)ヲ、テオベルドスミズ氏ハ沈澱ヲ生セサル程度ノ「クロホルム」ヲ用ヒタリ、「アメリカ」製造者ノ調製シタル血清中ニハ殆ント總テ「トリクレゾール」ヲ含有ス

性 狀

局方ノ「チフテリア」血清ハ黃色若ハ黃褐色ノ透明ナルカ又ハ僅ニ濁濁セル液體ニシテ防腐劑ノ存否ニ依リ

無臭ナルカ若クハ僅カノ臭氣ヲ有シ攝氏二十五度(華氏七十七度)ニ於テ其ノ比重一・〇二五乃至一・〇四〇ナリ

九〇

「デフテリア」血清ハ漸次其ノ効力ヲ失シ一ケ年ニ於ケル損失ハ一〇乃至三〇%ナリ、血清ノ各容器ニハ抗毒單位ヲ以テ示シタル血清ノ効力、貯藏ノ目的ニ加ヘタル防腐劑ノ名稱及其ノ% (若シ用ヒアラハ) 最近ノ試驗年月日表示セル効力ヲ保持シ得ヘキ日限ヲ記シタル貼紙又ハ摘要書ヲ附スヘシ、抗毒單位ニテ表シタル効力ノ標準ハ合衆國衛生局及海員救濟病院ニ依テ是認セラレ且ツ確定セラレタルモノナルヲ要ス

試 驗

「デフテリア」血清ノ効力ヲ示スニハ免疫單位ヲ以テス此ノ單位ハ効力ノ度量ニシテ決シテ分量ニアラス、藥局方ノ單位ハ千九百二年七月一日ノ法律ニ由リ合衆國衛生局及海員救濟病院ノ衛生試驗所ニテ製造シタル標準血清ナリ此ノ標準血清ハ獨逸國「フランクフルト、アム、マイン」實驗療法研究所ニテ調製シタル「エーリツヒ」氏標準血清ニ基キシモノナリ、今免疫單位ヲ簡單ニ説明スルハ困難ニシテ之レヲ適當ニ理解スルニハ先ツ之レニ關スル學理上ノ研究ニ依ルノ他ナシ(千九百五年ワシントン、合衆國衛生局及海員救濟病院衛生試驗所ノ記事二十一號參照)

此ノ單位ハ認可セル試驗所ニテ減損ヲ妨クヘキ特別ナル條件ノ下ニ保存シタル「デフテリア」血清ノ隨意ノ量ニ所有スル中和力ヲ云フ、尙ホ學術上ノ見解ニテハ純粹毒素ノ最小致死量二〇〇〇ヲ中和スヘキ「デフテ

リア」抗素血清ノ量ト説明セラル、純粹ナル毒素トハ只「トキシソ」ノミヲ含ムノ義ニシテ「トキシソイド」「トキシソーン」或ハ抗體ト結合シ易キ他ノ物質ヲ含メルモノニアラス單位ノ有スル抗毒素ノ効力ヲ計測スルハ生理學上ノ試驗ニ屬シ主トシテ抗毒素ニテ毒素ヲ中和スルコトニ據ル中和ハ「デフテリア」菌及其ノ毒素ニ甚タ感受シ易キ「モルモット」ニ毒素ト抗毒素ノ混和物ヲ注射シテ決定ス

標準血清ノ製造及保存ハ多クノ技術上ノ困難ヲ伴フ、即チ高度ノ血清ヲ撰ヒ其ノ効力ヲ定ムルニハ豫備的試驗ヲ要ス

血清ヲ真空ニテ攝氏三十七度ノ溫度ニテ蒸發乾燥セシム、其ノ乾燥ヲ速カナラシメ且ツ汚染ヲ豫防スル爲メ特別ナル裝置ヲ用フ、乾燥血清ハ其ノ減損ヲ防クタメ特別ナル條件ノ下ニ貯フヘシ酸化作用ハ特ニ光線ノ力ニヨリ速ニ抗體ヲ變スルヲ以テ空中ノ酸素ハ之レヲ排除セサルヘカラス、故ニ標準血清ハ合衆國衛生局及海員救濟病院ノ衛生試驗所ノ暗室ニ貯藏セラル、乾燥血清ハ完全ハ乾燥ナルヲ要スルヲ以テ次ニ説明スルカ如ク無水磷酸(P_2O_5)ヲ用ヒテ保存ス



乾燥血清ヲ保存スル爲メ使用スルU形壺

此ノ血清ハ冷却装置ニテ攝氏五度ノ定温ヲ保ツカ如キ特製ノ氷櫃中ニ保存ス、藥局方ノ乾燥血清ハ硝子管ニテ連結セル二部分ヨリ成ル小ナル硝子器ニ保存ス、血清ハ其ノ一部ニ他ノ部分ニハ強力ナル脱水劑即チ無水磷酸ヲ容レアリ空氣ハ真空装置ニヨリ能フ限リ之ヲ排除シ次チ此ノ硝子器ヲ密封ス、二、三日後ニ至レハ無水磷酸ハ血清中ノ水分ヲ奪取スルヲ以テ二部分ヲ連結セル管部ヲ熔融シ無水磷酸ヲ血清ヨリ離シテ密封ス斯クシテ製シタル多數ノ壞ニハ各秤量シタル粉末血清ヲ藏ス以上ノ装置ニ依リ血清力酸化及光線ノ作用ヲ受クルコトナク低キ定温ニテ保存サレ得ヘキヲ知ル若シ検査ヲ要スルトキハ隨時一個ノ血清壞ヲ開キ其ノ一「グラム」ヲ精確ニ秤量シ之レヲ〇・八五%生理的食鹽水一分純「ゲリスリン」二分ノ溶液中ニ溶解セシム

標準血清ノ試験

此ノ血清「ゲリスリン」溶液ハエーコツヒ氏ノ免疫單位ノ方法ニテ精確ナル抗毒價ヲ定ムル爲メニ精密ニ準備セラル血清ノ所用ノ量ニ保有スル免疫單位數ハ毒素ノ試験量(「+」)ニ依リ計測ス(以下ヲ看コ)毒素ノ量「+」ニ血清ノ或ル量ヲ加ヘ若シ此ノ混和物カ第四日目頃「モルモット」ヲ斃死セシムルトキハ其ノ血清量ハ正ニ一免疫單位ヲ含有ス

毒素ノ試験

毒素ハエーリツヒ氏ニ依レハ種々ナル毒物即チ「トキシシン」「トキシノイド」「トキシノール」「エビトキシノイド」

ヨリ成レル集合體ナリ「ヂフテリア」毒素ハ最初免疫單位ニ種々ナル量ノ毒素ヲ加ヘ之レヲ一列ノ「モルモット」ニ注射シ生物學的ニ研究セラル此ノ方法ニ於テエーリツヒ氏カ常ニ指示シタル二個ノ極量アルコト明白ナリ其ノ極量ハ兩者共ニ毒素ノ性狀及組成ヲ決定スルニ最重要ナル意義ヲ有ス、此等ノ極量ハ「(Lines) ニテ表ハシ各 $10(0 \parallel 零)$ 及 $1+(+ \parallel 死)$ トシテ示サル

10 トハ一免疫單位ニ毒素ノ或ル量ヲ加ヘ若シ此ノ混合物ヲ「モルモット」ノ皮下ニ注射シ四十八時間後ノ所見ノ通りニ一免疫單位ヲ中和スル毒素量ヲ意味ス此ノ際注射部ニ於ケル反應ハ辛フシテ認知シ得ヘキモノナルヲ要ス、理論上毒素量ハ「 10 」ハ抗毒素ノ聯合單位ニ〇〇ト結合シテ之ヲ中和セサルヘカラス故ニ「 10 」ハ理論上ノ純粹毒素ノ最少致死量ニ〇〇ヲ含有ス

「+」トハ一免疫單位ヲ中和シ得ヘキ最少毒素量ニ第四日目ニ「モルモット」ヲ斃死セシムルニ要スル量ヲ加ヘタルモノヲ意味スエーリツヒ氏ノ説明ニ依レハ「+」ハ一免疫單位ニ含有スル抗體ニ拘ハラヌ四日以内ニ「モルモット」ヲ斃死セシムルニ足ル毒素ノ量ナリト

「ヂフテリア」毒素ノ構成ヲ研究スルニ當リ最モ精確ニ其純粹毒素即チ絕對的毒素ヲ定ムルヲ肝要トス「ヂフテリア」ノ純粹毒素ハ最少致死量(MLD)ヲ指シタルモノニシテ時トシテハ(MFD)ヲ以テ之ヲ表ハコトアリ尙場合ニ依リ單純致死量ト言フ

最少致死量ヲ定ムルハ頗ル煩ハシキ問題ナリ何トナレハ此ノ極量ノ定測ハ「モルモット」ノ個性ニ依リ左右

セラル、コト多ク從テ其ノ平均ヲ得ンカ爲メ動物試験ヲ反覆セサルヘカラサルヲ以テナリ
 最少致死量トハ二五〇「グラム」ノ各「モルモット」ヲ四日遅クトモ五日間ニ確實ニ斃死セシムル毒素量ヲ云
 フエーリツヒ氏カ指示シタル處ニ依レハ此ノ量ニテ或ル「モルモット」ハ尙ホ迅速ニ即チ三十乃至四十時間
 以内ニ斃死セシムルコトヲ得而シテ同時間以内ニ總テノ「モルモット」ヲ鋭敏ニ斃死セシムヘキ「デフテリ
 ア」毒素量ハ最少致死量以上ヲ含ムモノナリト「 L_{10} 」ハ MILD ヨリ遙カニ確實ナル不易ノ要素ニシテ毫モ
 不規則ナク且ツ絶對的毒素ヲ決定スルニ際シ見ルカ如キ困難ヲ來スコトナシスノ如ク「 L_{10} 」及「 L_{50} 」ハ最モ
 重要ナルヲ以テ實驗ヨリ成レル次ノ如キ簡單ナル表ヲ掲ケ之レヲ得ルノ方法ヲ示サン

毒素量 L_{10} ヲ測定スル試験

一免疫單位	毒素	成績
同	+0,19cc.	常ニ遅徐タル麻痺ヲ起スモ急死セズ
同	+0,20cc.	時トシテ遅キ麻痺ヲ起シ又時トシテ急死ス
同	+0,21cc.	常ニ殆ント四日ニ急死ス
同	+0,22cc.	常ニ急死スルモ多クハ二若クハ三日ニ急死ス

毒素量 $L_{10} = 0,21cc.$

毒素量 L_{50} ヲ測定スル試験

一免疫單位	毒素	注射後四十八時間ノ所見
同	+0,14cc.	反應ノ認めムヘキナシ
同	+0,15cc.	同上
同	+0,16cc.	極メテ微カナル充血アルカ若ハ反應ナシ
同	+0,17cc.	注射部ニ於ケル著シキ反應
同	+0,18cc.	注射部ニ於ケル充血及浮腫
同	+0,19cc.	同上

毒素量 $L_{50} = 0,16cc.$

濃縮血清

曾テ某製造者ハ弱キ血清ノ抗毒力ヲ濃縮セシムル爲メ攝氏四十度若ハ稍低キ温度ニテ真空ニテ之レヲ蒸發
 セシメ少量ノ液體ニ於テ原ノ抗毒力ヲ有スル比重高キ液體ヲ製出セリ然レトモ此ノ濃縮血清ハ吸收困難ニ
 シテ刺戟スルコト多ク世人ノ愛顧ナキヲ以テ實地上ニハ全ク廢棄セラレタリ
 紐育ノ衛生局ニテ今使用スル濃縮法ハ次ノ如シ(千九百六年一月第一卷
 三號生物化學雜誌)

先ツ血清ヲ同量ノ飽和硫酸「アムモニア」溶液ヲ以テ沈澱セシメ其沈澱物ヲ飽和鹽化「ナトリウム」溶液ニテ

抽出ス抗毒素ハ後者ニ溶解スルモ溶解シ難キ蛋白質ハ濾過シテ分離ス而シテ更ニ飽和硫酸「アムモニア」溶液ノ半量ヲ加ヘ濾過スルトキハ抗毒素ヲ得ヘシ又普通ノ方法ニテ醋酸ヲ加ヘ濾過スルモ可ナリ分離シタル沈澱物ハ吸取紙ノ間ニ壓シ能フ限リ乾燥セシメ二、三時間硫酸紙ヲ以テ透拆シ其透拆シタル溶液ヲ中性トナシ更ニ數日間之ヲ透拆シ之レニ鹽化「ナトリウム」ノ四分ノ一及若干ノ「トルオール」ヲ加フ斯ノ如ク蛋白質ノ二重濾過ニ依リ調製シタルモノハ正規ノ血清ナリ此ノ方法ニヨリ比較的少額ノ費用ヲ以テ大量ノ血清ヲ製造シ得ヘク且ツ通常ノ抗毒性血清ニ比シ毫モ遜色ナシト云フ

紐育衛生局ノ試験ニ依レハ人工的ニ濃縮シタル本品ハ小ナル硝子壺ニ容レ氷櫃ニ貯藏スルトキハ通常ノ血清同様若ハ以上ニ其ノ効力ヲ保持スト云フ、尙ホ治療ニ用ヒタル比較成績ハ同一ニシテ局處ノ刺戟發疹ノ如キハ甚タ稀ニ且輕度ナリト云フ

乾燥抗毒性血清

乾燥抗毒性血清ノ獨逸藥局方ニ制定セラレ且ツ一般ノ需用ヲ充タサンカ爲メ佛國巴里「バステユール」研究所ニ於テ製造ス本品ハ之ヲ溶液トナスコトノ煩ハシキト且ツ無菌的ニ溶液ヲ作ルコトニ不便ノ點アルヲ以テ合衆國ニ於テハ多ク用ヒラレス本品ハ液體血清ヨリ遙ニ永ク其ノ効力ヲ保持ス血清ヲ乾燥セシムルニハ真空ニテ淺キ皿ヲ使用スルカ若クハ温ナル乾燥セル滅菌空氣ヲ導キテ液體ヲ沸騰セシメテ乾燥セシム此際嚴重ナル無菌的取扱ヲ要ス今乾燥シタル黃色ノ薄塊ハ之レヲ極メテ細キ粉末トシ硝子壺ニ入レ之ヲ密封シタルモ清澄ナルヲ要ス此ノモノハ液體血清ニ同シク皮下注射ニ使用ス

法律上ノ要求

合衆國ニ於ケル州ノ間ノ通商ノ目的ニテ販賣スル「デフテリア」抗毒素ハ千九百二年七月一日ニ裁可セラレタル法律（コロンビア區ニ於ケル毒物、血清、毒素並ニ類似ノ製品ヲ州ノ間ノ通商其ノ他ノ目的ニテ販賣スルコトヲ取締ル法律）ニ基キシ取締規則ニ從ハサルヘカラス

州若クハ殖民地又ハコロンビア區ニテ製造シタル「デフテリア」抗毒素ハ之レヲ他ノ州若クハ殖民地又ハコロンビア區ニ販賣シ若ハ交易スルニハ該法律中次ノ要點ニ從フヘシ

- (1) 製産物ハ其ノ内容ノ物件ヲ適當ナル名稱ニテ標示スヘシ
- (2) 包装ノ貼紙ニハ製造者ノ氏名ヲ明ニスヘシ
- (3) 包装ニハ大藏大臣ノ發行シタル免許番號ヲ貼付スヘシ
- (4) 一定ノ日限（此ノ期限ヲ經過スルトキハ其ノ内容ハ正當ノ疑ヒノ外ニ尙ホ特種ノ結果ヲ生スルヤ保シ難シ）ヲ貼紙若ハ包装ニ記スヘシ

此ノ法律ノ執行ハ合衆國衛生局及海員救濟病院ノ軍醫總監ニ依ル、認可シタル製造者ノ年一回ノ検査ハ上

記ノ官廳ノ吏員ニ依リ施行セラレ又時々各製造者ノ製品ヲ公開市場ニ集メワシントンノ公衆衛生局及海員救濟病院ノ衛生試驗所ニテ其ノ性狀及効力ヲ検査ス

應用

「デフテリア」抗毒素ハ「デフテリア」ノ初期ニ充分ナル量ヲ用フルトキハ頗ル特効アリ、千八百九十五年イングラントニテ「デフテリア」血清療法ヲ行ヒ不結果ニ終リシ理由トシテ翌年七月十九日發行「ロンドンランセット」誌ノ報告ニ依レハ患者ノ大多數ニ治療的効力ヲ見ルニ至ラサル程度ノ弱キ血清ヲ用ヒタルカ爲メナリト云フ、千八百九十六年コーペハーゲンニ於ケルマドセン氏ノ周到ナル實驗的研究ニ依リ弱キ血清ハ其ノ治療的効果モ亦僅少ナルコトヲ證明セリ

「デフテリア」毒素ノ既ニ細胞ヲ侵害セルノ後抗毒素ヲ用フルモ同シク其ノ効果ヲ期待スルコト能ハス兎ニ角疾病ノ早期ニ治療ヲ試ミルコト最モ肝要ニシテ細菌ノ證明ヲ待ツカ爲メ空シク時日ヲ失ハサルヲ可トス若シ本病ノ疑ヒアルトキハ直ニ二、〇〇〇乃至五、〇〇〇單位ヲ皮下ニ注射スベシ

次ノ表ニ掲ケタルジユドニー氏(豫防注射及血清療法)ニヨリ蒐集セル正確ナル數字ハ「デフテリア」抗毒素ノ偉大ナル實地上ノ價值ヲ明カニシ且ツ早期治療ノ最モ緊要ナルヲ思ハシム即チ此ノ表ニ依レハ發病後二十四時間以内ノ治療ニアリテハ其ノ死亡率極メテ少ナシ

「アメリカ」精神病學雜誌一〇八卷四二七頁所載ノウイルアム、ウエルヒ氏述「合衆國ニ於ケル「デフテリア」

ノ細菌學的検査」ニ依レハ發病後三日以内ニ治療シタルモノハ其死亡率八・五%其ノ以後ニ至レハ二七・八%ナリ世界ノ各病院ヨリ集メタルウエルヒ氏ノ統計ニ由レハ「デフテリア」抗毒素ノ使用ニ依リ五七・八%ノ死亡率ノ減少ヲ見ルト云フ其他世界各國ノ諸統計ニ依ルモ治療上ノ効力ハ略一致セリ

著者	患者總數	死亡率百分率	第一日	第二日	第三日	第四日	第五日	第六日	六日以上	不詳
ウエルヒ	一、四八九	一四・三	二・三	八・一	一三・五	一九・〇	二九・三	三四・一	三七	一七・六
ヒルベルト	二、四三八	一八・三	二・三	七・六	一七・一	二三・八	三三・九	三四・一	三八三	
アメリカ小兒科學會調查	五、七九四	一三・八	四・九	七・四	八・八	二〇・七	三五・三			
奧地利衛生局ノ調查	一一〇三	一二・六	八・〇	六・六	九・八	三五・五	二八・八	三〇・七	二一〇	三八
獨逸帝國衛生院ノ調查	九、五八一	一五・五	六・六	八・三	一二・九	一七・〇	二三・三		二六・九	

本品ノ効力ハ殊ニ咽喉「デフテリア」ニ於テ著明ナリ其ノ用量ハ通常二、〇〇〇乃至五、〇〇〇單位ニシテ効力ノ表ル、迄四乃至八時間毎ニ反覆ス、其ノ六萬七千單位ヲ患者ニ與ヘ好結果ヲ得タル例アリ斯ノ如ク本品ハ其ノ大量ヲ注射スルモ無害ナリ注射ハ皮下組織ノ緩鬆ナル部分ヲ撰ヒ嚴重ナル消毒ノ下ニ之ヲ行フ最モ適當ナル注射部位ハ肩胛角ニ近キ背部ナリ時トシテ側腹部若ハ腹壁ヲ撰フコトアリ口及直腸ヨリ治療ヲ試ミルモ不確實ナリ血清療法ヲ行フノ傍ラ含嗽吸入、藥液塗布等ノ局所療法ハ之レヲ試ミルヲ可トス

「デフテリア」抗毒素ハ又豫防ニモ効果アリ、然レトモ「デフテリア」血清ニ由ル受働性免疫ハ長ク持續セス之レ豫防注射ニ依リ生シタル暫時性免疫ハ恐ラク抗毒素カ徐々ニ腎臟ヨリ排除セララル、ニ由ルナラン小兒ニ對スル普通ノ豫防的用量ハ五〇〇單位ナリ若シ永ク病毒ニ曝露セララル、場合ニハ三四週間ニ此ノ量ヲ反覆ス抗毒素ハ咽喉粘膜ニ繁殖シタル「デフテリア」菌ヨリ產生セル毒素ヲ中和スルモ細菌自家ニハ有害ナル作用ヲ及ホサ、ルヲ以テ咽喉ニ於ケル「デフテリア」細菌ハ尙ホ其ノ發育ヲ遂ケ數ヶ月間口内ニ病毒ヲ遺殘ス斯ノ如ク抗毒素カ續發傳染ヲ防キ能ハサルハ時トシテ見ル短所ナリトス

「デフテリア」血清ハ通常無害ナリト雖モ使用後時トシテ蕁麻疹限局性紅斑及之ニ伴フ苦惱ヲ來スコトアリ以上ノ症候ハ概ネ後害ヲ貽スコトナク消散ス、血清ノ大量ヲ注射スルモ腎臟ヲ刺戟セサルカ如キモ稀ニ注射後劇烈ナル震盪症狀ヲ起シ急死スルコトアリ此ノ不幸ナル結果ハ所謂腺病質ト名ケラル、人ニ起リ得ヘキモノト説明セラル故ニ斯ノ如キ人ハ他ノ外科的手術ニ依頼セサルヘカラス（衛生局及海員救濟病院ノ衛生試驗所「アンダーソン」氏述「馬血清」ノ注射ニ伴フ急死ノ原因研究」參照）

「デフテリア」血清ハ漸次其ノ効力ヲ失ヒ殊ニ光線、溫度其ノ他ノ不適當ナル條件ノ下ニ於テ然リ一年間ニ於ケル減損ハ一〇—三〇%ナレトモ或ル血清ハ數年後尙顯著ナル抗毒力ヲ保ツモノアリ古キ血清ニアリテモ効力ノ減損セルモノヲ除ケハ全ク新製品ト同様ニシテ危急ニ際シテハ汚染セラレサルモノニ限り使用スルコトヲ得

○紐育市牛乳ノ標準ニ關スル委員會第三回報告

牛乳ノ標準ニ關スル委員會報告目次

一、序言

1、牛乳標準ノ目的

2、行政上ノ整備

3、牛乳ノ等級

二、重要ナル議題

1、牛乳ノ化學的標準

2、細菌ト細菌検査

3、殺菌

4、牛乳ノ等級

5、煉乳

6、牛酪

7、「アイスクリーム」

- 8、"コンデンスミルク"
- 9、脱脂乳
- 10、乳酪
- 11、清淨法
- 12、純一性
- 13、特許
- 14、附箋

附 録

- 1、牛乳ノ衛生性ノ監督上製乳所作業ノ實施ニ關シ最モ重要ナルノ要件
- 2、紐育牛乳委員會ニ依リテ選任セラレタル牛乳ノ標準ニ關スル委員會ノ沿革

牛乳ノ標準ニ關スル委員會(紐育牛乳委員會ニ依リテ選任セラレタル牛乳ノ標準ニ關スル委員會ノ第三回報告)

一、序 言

1、牛乳標準ノ目的

適當ナル牛乳標準ハ公衆衛生應ノ牛乳監督ヲシテ、効果效果アラシムルノ要件ナリトス、衛生應ハ先ツ食用牛乳ノ定限ヲ設定シ、牛乳ノ化學的的成分カ該定限ニ合致スルヤ否ヤヲ確メサル可ラスト雖モ、更ニ重要

ナル職務ハ疾病ノ傳播ヲ防遏スルコトニ在リトス、而シテ此處ニ疾病ノ傳播ヲ防遏ストハ、小兒下痢、腸窒扶斯、結核、傳染性咽喉炎、猩紅熱、デフテリヤ、及ヒ其ノ他ノ傳染病ノ牛乳ニ依リテ傳播セラル、ヨ防遏スルヲ意味スルモノナリ

公衆衛生應ハ牛乳消費者ノ利益ノ爲メニ牛乳ノ食用價值ヲ維持スルノ義務アルハ勿論、其ノ他前記疾病ノ傳播ヲ防遏スルニ就キテハ須ラク積極的ノ行動ヲ採ルヲ可トス

製乳者ハ、適當ナル牛乳標準ニ就キテハ之ヲ利トスヘシ、何トナレハ、其ハ製乳工業其レ自身ノ好況ト權威トニ與ツテ力アルモノナレハナリ、故ニ須ラク之カ設定ヲ企圖スルノ運動ヲ後援スヘキナリ。適當ナル標準ニシテ正當ニ實施セラレンカ、其ハ必ラスヤ良乳製産者ト惡乳製産者トノ區別ヲ歴然タラシムヘキカ故ニ、又必ラスヤ製乳農業ノ改良ヲ誘致スヘク、其ノ改良ノ結果トシア一層善良ナル牛乳ヲ産スルニ至ラハ、其ノ價格モ從ツテ善カルヘキカ故ニ、結局、製乳者自身ノ財政上ノ繁榮ヲ増スニ至ルヘシ。是レ製産者カ牛乳ノ品質ヲ生産シタルニ因リテ當然受クルノ支拂ニシテ、斯クシテコソ、此ニ初メテ斯業ヲ獨立ノ基礎ノ上ニ置クヲ得ヘキナリ

牛乳販賣者ノ側ニ於テモ亦、牛乳標準ニ基ク牛乳ノ分類ヲ以テ自己ノ財政上ノ利益ト爲スヘシ、何トナレハ、該分類ニ從ヘハ、牛乳ノ所屬部類ヲ容易ニ闡明シ得ルヲ以テ、甲類ノ牛乳ト乙類ノ牛乳トノ差別ヲ誤ルコトナカルヘク、從ツテ一等乳ノ販賣者ヲシテ、一等乳本來ノ價值ニ從ヒ、商業上ノ報酬ヲ得セシムヘ

ク、且、官ノ監督ノ下ニアル符箋ハ一等乳ノ信用ヲ確保シ以テ販賣者ノミニテハ創造シ能ハサルノ市場ヲ作り其ノ賣行ヲ善カラシムヘキカ故ナリ。

牛乳消費者ノ側ヨリ見ルモ、一定ノ標準ノ設定セララル、アラハ、官ノ監督ノ下ニアル符箋ニ依リテ、其ノ購買ニ係ル牛乳ノ品質ヲ容易ニ知ルヲ得、從ツテ牛乳ノ善惡ヲ鑑別スルコトヲ得ヘキナリ。品質ノ標準及ヒ小賣包上ニ其ノ品質ヲ表示スル符箋ヲ附スヘシトスルノ制ヲ設定スルトキハ乳業者ヲシテ、其ノ仕入及ヒ販賣ニ關シ品質本位主義ヲ採ラシムヘシ

牛乳カ其ノ化學的成分ノミナラス、其ノ衛生性ニ基ケル品質ヲ嚴格ニ本位トシテ、販賣セララル、トキハ、其ノ消費者ハ單ニ符箋ヲ忠實ニ調査スルコトニ依リテ、各自ノ要求ニ最モ適合セル品質及ヒ價格ヲ有スル牛乳ヲ容易ニ選擇シ得ラルヘシ。

2、行政上ノ整備

標準ハ之ヲ適當ニ監視シ且ツ實施スルニアラスンハ、何等益スル所ナシ、牛乳ノ等級制度ヲ實行スルニ當リ、其ノ大ナル障害トナルヘキモノハ、一等級ニ屬スヘキモノトシテ附箋セラレタル牛乳カ、消費者ニ交付セラル、時ニ於テモ猶實際ニ當該等級ニ屬スルコトヲ保證スルノ困難ナルコト之ナリ。

牛乳ノ監督ヲシテ實效的ナラシムル爲メノ第一ノ要件ハ衛生廳ニ備フルニ充分ナル人員、資金、及ヒ検査設備ヲ以テスルコトニアリトス。故ニ委員會ハ信ス若シ夫レ充分ナル資金ナク、且之カ實施ニ當ル機關ニ

シテ具備セサルニ於テハ、假令法ヲ制定スルモ、其ノ力ノミヨリシテハ満足ナル結果ハ之ヲ期スルコト難シト。市區カ牛乳監督ノ爲メニ充當セル資金ヲ調査スルトキハ、其ノ多クハ公衆ノ需要ヲ充タスニ全然不十分ナルコトヲ知ルヘシ

如何ニセハ等級符箋ヲ適當ニ利用スルヲ得ルカノ問題ヲ解決スルノ鍵ハ検査所ナリトス、有效ナル牛乳検査所ノ設立及ヒ之レカ經營ハ通常大費目ナリト做サルト雖モ、委員會ハ之ヲ以テ誤謬ナリト信ス、何トナレハ、私營ノミナラス官立ノ検査所ニシテ全國ニ亘リテ散在スルモノ殆ト無數ニシテ而カモ是等ノ検査所ハ其ノ設立費少ナク、且經營費モ安價ニ其ノ作業ヲ爲シツ、アルヲ以テナリ

最少ノ勞費ヲ以テシテ最大ノ效果ヲ得ルノ經濟的方法ニ依ラハ、小額ノ費用ヲ以テ能ク幾多ノ検査ヲ爲スヲ得ヘク、從ツテ小ナル社會ニ於テスラ尙且検査所ノ經營維持ヲ爲シ得ヘシ。若シ何等カノ理由アリテ、其ノ設立、經營ヲ爲シ能ハサルノ所ハ、他ノ社會ト検査所協定ヲ爲シ以テ之レカ設立及ヒ經營ヲ共ニシ得ラルヘキコト既ニ其ノ事例ニ乏シカラス、此ハ二以上ノ社會ニ於テスラモ亦同様ニシテ検査所ヲ共有スル爲メ聯合ヲナスヲ得ヘシ

3、牛乳ノ等級

委員會ニ於テ、販賣市場ニ在ルノ牛乳ハ、他ノ商品例ヘハ麥、穀物、牛肉等ノ等級アルト一般、之ニ等級ヲ附スヘシト決定アリタルハ見逃スヘカラサルノ事項ナリ。牛乳商ハ其ノ取引ニ係カル商品ノ食用價值

(滋養上ノ價值)ヲ判斷スルノミナラス又其ノ衛生性ヲモ判斷スルヲ要ス、腐敗シ初メタル果實ハ常ニ衛生上殊ニ有害ナリト信スルハ必ラスシモ妥當ナリト爲スヲ得スト雖モ、其ノ完全ナルモノト衛生上ノ價值同等ナリトシテ販賣スルハ不可ナリ

其ノ大サ小ナルノ林檎モ、其ノ量ニ於テ同一ナルニ於テハ、其ノ大サ大ナルモノト其ノ食用上ノ價值(滋養上ノ價值)ヲ等シクスヘキノ理ナリト雖モ、後者ハ前者ニ比シ高價ナルヲ常トス、此ハ牛乳ニトリテモ同様ナリ、新鮮清冷ナル優品ハ、其ノ劣等ナルモノニ比シ、高價ヲ以テ之レカ仕入及ヒ販賣ヲ爲スヲ要スヘキナリ

委員會ノ最重要ナル事業ハ、牛乳ニ等級ヲ附シ之ヲ分類スルコトニアリタリ、委員會ハ其ノ等級制度ヲ出來得ル限リ簡單ナラシメンコトヲ努メタリシカ、其レト同時ニ牛乳ノ區別ヲ其ノ衛生性及ヒ其ノ特質ニ基ク根本的相違ニ求メンコトヲ期シタリ。委員會ハ等級制度ノ公衆衛生上及ヒ經濟上ノ兩見地ヨリスル價值ヲ、既ニ適用セル社會ニ就キル檢シタルニ、過去三年間ノ經驗ハ充分、之レアルヲ證明セリ。於此、委員會ハ、牛乳ノ等級制度ヲ以テ、今迄牛乳監督ノ效力ヲ障害シ來リタル衛生上及ヒ經濟上ノ諸問題ニ對シ満足ナル解決ヲ與フルモノトナシ、且小社會ト雖モ大社會ト同シク之ヲ採用シ以テ其ノ利便ニ浴スルヲ得ヘシト信ス

二、重要ナル研究項目

委員會ノ研究考察ハ五年ノ期間ニ亘リ、其ノ會議ハ八回ニ及ヒ、且其ノ特別委員會會議ハ非常ニ多回ニ登リシカ、其ノ研究項目ハ其ノ間ニ、非常ニ變更セラレタリ、之レ特ニ注意ヲ要ス其ノ議決シタル研究項目中比較的重要ナルモノハ次ノ如シ

一、牛乳ノ化學的標準

合衆國及ヒカナダノ各市又ハ各州カ使用セル化學的標準ハ區々トシテ其ノ間ニ統一ヲ缺ケルカ故ニ、委員會ハ牛乳ノ適當ナル化學的標準ニ關スル其ノ意見ヲ各市區及ヒ各州ニ示スヲ可トスト信スルニ至レリ。委員會ハ化學的標準ヲ以テ、牛乳ノ食用上ノ價值ノ保證トイフ點ヲ外ニシテハ何等公衆衛生ノ問題ニ關スルトコロナシト認ム、然レトモ牛乳ハ食品ナルカ故ニ化學的標準ハ其ノ滋養上ノ價值ヲ定ムルニ必要ナリトス

化學的標準案ハ化學者ヨリ成ル特別委員會ノ事業ニ屬ス、而シテ同會ハ聯邦及ヒ州ニ於テ既ニ設定セル標準ヲ思考スルト同時ニ又牛乳ノ自然的成分ヲモ慎重審議セリ。該會ニ提出シタル標準ハ、脂肪ハ三・二五パーセント、非脂肪固形分ハ八・五パーセントヲ包含スヘシト爲シタルモノナルカ、之ハ官立農業化學者協會ノ提案ニシテ、合衆國農務省及ヒ大多數ノ州ニ於テ採用セルモノニ從ヘルモノナリ。

(牛乳ニ關シテ使用シタル「標準」ナル語ハ「優良」ノ意ヲ偶セシムルノ意向ニアラスシテ、最低限度ノ標準即チ法律カ純乳若クハ正則乳ナリト認ムルノ限界ヲ唯單ニ表示セシメントスルニ過キス、乳製品ニ就

キ用ヒタル場合モ亦同様ナリトス)

バブコック検査法ニ依レハ、牛乳中ノ脂肪分ト非脂肪固形分トノ識別ヲ容易ニ爲スヲ得ヘシ、而シテ該検査ハ直ニ採リテ應用スルヲ得且如何ナル検査所ニ於テモ極ク恰好ノ費用ニテ之ヲ實施シ得ラルヘシ提案ノ如キ化學的標準ハ本邦ニ於ケル製乳業ノ標準ヲ高ムルノ助トナルヘキモ、第二次ノ標準規定ハ甚タ緩弛ナルモノナリト信ス

牝牛乳——本乳ノ標準ハ非脂肪固形分八・五パーセント以上ヲ含ミ、脂肪分三・二五パーセント以上ヲ含ムモノトス

脱脂乳——本乳ノ標準乳ハ乳固形分八・七五パーセント以上ヲ包含スルヲ要ス

「クリーム」——標準「クリーム」ハ乳脂肪分一八パーセント以上ヲ含ムヲ要シ普通乳中ニ包含セララル、コトナキ組成分ハ全ク之レ無キヲ要ス、「クリーム」中ノ乳脂肪ノ割合カ標準歩合ヲ超エ若ハ下リタルトキハ其ノ由ヲ附箋ニ記載セサル可ラス

加減乳——牛乳又ハ「クリーム」中ニ包含スル、脂肪分ト非脂肪固形分トノ歩合ヲ、「クリーム」或ハ乳脂肪ヲ加除シテ變更スルノ問題ニ關シテハ、委員會ハ其ノ態度ヲ決定スルニ躊躇シタリ

一面ヨリ之ヲ見レハ、該變更ハ、良乳ノ賣行ヲ一層増加セシメ、及ヒ「クリーム」又ハ乳脂肪ノ各部分ヲ不用タラシムルコトナク、最モ有利ニ使用スルヲ得セシムルノ利點アリト雖モ、又他ノ一面ヨリ之ヲ見レハ

牛乳ハ感受性强キコト、容易ニ汚染セララル、コト、及ヒ汚染ヲ防キ又ハ劣等ナル材料ノ使用ヲ防遏スル爲メニ、標準ヲ設定シ、脱脂ヲ行ヒ、純一ナラシメ、酸味ヲ加ヘ、若ハ調味スル等ノ手續ヲ監督スルコトノ困難トハ之ヲ認メサルヲ得ス、本題ニ關シテハ、委員會ハ、其ノ特別委員會ヨリ提出セラレタル案ヲ通過シタリ

特別委員會ハ標準ヲ附シテ調味乳ヲ認容スルノ必要之アラント信ス、而シテ其ノ調味スルノ操作ハ必ス官ノ監督ヲ受ケテ爲サル、ヲ要シ、其ノ調味變更アリタルコトハ之ヲ符箋上ニ表示スルヲ要スルモノトス

牛乳中ニ包含スル脂肪ト非脂肪固形分トノ歩合カ、「クリーム」ヲ加除シテ變更セラレタルトキハ「調味乳」ト符箋セサル可ラス。此ノ符箋ハ脂肪ノ最低限度ノ保證比率ニシテ、調味セラレサル乳ト同一ナル衛生上及ヒ化學上ノ要件ニ一致スルモノヲ表示スルヲ要ス

特別委員會ハ大都市ニ於ケル牛乳ハ大概非脂肪固形分ヲ八・五パーセント以上包含セルノ事實アルヲ理由トシテ、其ノ提案ニ係ル非脂肪固形分ノ歩合ニ對シ幾多ノ苦情起レルヲ以テ、本點ニ關シテハ特ニ慎重ノ態度ヲ以テ思考シタリ

委員會ニ於テハ是等ノ事情ハ之ヲ諒トスヘキモ、爭進的ニ其ノ改正ヲ爲サス少クトモ漸進的ニ之ヲ行フニ於テハ其ノ苦情ハ之ヲ救助スルコトヲ得ト信セリ。況ヤ、他ノ一方ヨリ之ヲ見レハ、商業ハ常ニ最低ノ標

準ニ近クノ傾向アルカ故ニ標準ヲ低下スルトキハ、數年ヲ出テスシテ市場ニ提出セラル、牛乳ノ一般の品質ヲ低級ナラシムルニ至ルノ事例ニ乏シカラサルニ於テオヤ。故ヲ以テ委員會ハ非脂肪固形分ノ比率標準ヲ低下シテ八・五パーセント以上トナラシムルコトハ何等價値ナシト思惟ス。提案ニ係ル標準ヲ現在ニ於テハ嚴格ニ實施シ能ハサルノ社會ニハ漸進的ニ之ヲ採用スヘキヲ薦ム

保證歩合ニ基キタル成分ヲ有スル牛乳ノ販賣規則

(a) 乳販賣者ハ、販賣乳ノ取扱ニ關スルニ制度中其ノ一ヲ選擇スルノ自由アルヲ認めラレサル可カラズ
販賣者ハ第一ニ正規ノ標準ニ依リテ販賣スルヲ得ヘク、第二ニハ、組成成分ニ關スル保證表ニ依リテ販賣スルヲ得ヘシ

(b) 普通乳ハ、若シ其ノ脂肪率ニシテ表示セラル、ニ於テハ之ヲ販賣スルモ可ナリ。若シ其ノ脂肪率ヲ表示セサル場合ハ少クトモ乳脂肪三・二五パーセントヲ包含スルモノニアラスンハ其ノ販賣ハ不法ナルモノト認めサル可ラス

(c) 消費者ヲ一層保護センカ爲メニ保證制度ヲ採用セントスルニハ非脂肪固形分ノ歩合ハ八・五パーセントヲ以テ其ノ最低限度トナシ其ノ保證ヲ爲スヲ要ス

(d) 保證制度ノ下ニ於ケル牛乳販賣者ハ其ノ取扱ヒ賣渡ニ使用スル容器上ニ「保證乳」ナルコトヲ明示スルヲ要ス

(e) 保證制度ニ基キテ牛乳ヲ販賣スルニハ相當地方官憲ノ特別ナル許可ヲ得ルヲ要スト爲サ、ル可ラス

2、細菌ト細菌検査

細菌ト細菌検査ナル項目ハ每會議ニ於テ研究セラレタルモノニシテ他ノ項目ヨリモ一層多ク時間ヲ費シタルモノナリ

細菌ト牛乳ノ衛生性トノ關係及ヒ細菌ト牛乳ニ依リテ傳播セラル、傳染病トノ關係ナル兩項目ニ關係アルノ語句ハ總テ委員會タル細菌學者七名ニ依リテ討議セラレタリ。「牛乳中ノ細菌」ナル意義及ヒ「細菌検査ノ方法如何」ニ關シテハ單ニ細菌學者トシテノ立場ヨリ之カ研究ヲ爲シタルノミナラス本會員タル二名ノ農業大家及ヒ九名ノ衛生官吏ノ其ノ研究ニ加ハハルアリテ前者ハ農業上ノ見地ヨリ後者ハ行政上ノ立脚地ヨリシテ仔細ニ之カ思考ヲ爲シタリ

「細菌ト牛乳トノ關係」ニ關スル項目ニ就キテハ各市區ニ於テ之レカ會合研究ヲ爲シタルト同様委員會ニ於テモ屢々製乳工業會員ト會合ヲ爲シタルカ故ニ、其ノ項目ハ總テ偏頗ナク思考セラレ且細菌検査ノ施行ヲ要スル場所如何ニ關シテモ適當ニ議決ヲ爲シタリト信ス

委員會ハ乳中存在菌ノ多少ハ多クノ場合汚物、溫度及ヒ年月ノ三因ニ依リテ左右セラル、モノニシテ、或ル特種ノ病菌カ存在セルノ例ハ極ク小數ナルコトヲ認ム故ニ牛乳ノ日課的検査方法ハ汚物、溫度、年月ノ取

縮ヲ以テ其ノ主要ナル目的トナス

實驗方法ニ依リテ疾病ノ特種菌ヲ發見スルノ困難ナルハ以テ検査所カ病菌發見ヲ以テ其ノ日課トナスノ企圖ヲ阻止スルニ足ル故ニ實驗方法ハ牛乳中ノ特種菌ヲ發見シ以テ牛乳ノ安全性ヲ保證スルカ爲メニハ猶未タ其ノ價值小ナリトス。牛乳ヲシテ傳染病菌ニ依ル疾病傳播ノ媒介ヲ爲サ、ラシムルノ唯一ノ實行的方法ハ醫學的テアリ、獸醫學的テアリ、且衛生學的ナル検査及ヒ殺菌法ニ依ルコト是ナリ。但シ特種病ノ病原體ニアラサル細菌ハ其ノ數多キモ衛生上無害ナリト信ス

乳中存在菌ノ總數ヲ決定スル日課の検査方法ハ牛乳ノ安全性ヲ概括的ニ表示スルノ根據ヲ供給スト信セラ
ル細菌存在數ノ少ナルハ以テ牛乳ノ製造カ清潔状態ノ下ニ爲サレ且終始冷カタリシコトヲ意味スルモノニシテ、從ツテ該乳カ新鮮ナルコトヲ表示ス故ニ此クノ如キ牛乳ハ汚レタルカ、温カナルカ、若クハ酸敗シタルカニ依リ細菌ノ多數ヲ包含スルモノヨリモ安全ナリ

加之、細菌存在數ノ多キハ、牛乳ノ衛生性ニ至大ノ關係ヲ有スルモノナルコトヲ證明スル確實ナル事實アリ、是等事實中、擧ケテ説明スルノ價值アルモノハ次ノ如シ

細菌存在數ノ多數ト小兒死亡率トノ關係——委員會ハ乳中存在菌ノ數如何ハ次ノ理由ニ依リ小兒死亡率ニ關係アリト信ス

(a) 細菌存在數ノ小ナル牛乳ニ依リテ養ハレタル小兒ノ一群及ヒ細菌存在數ノ大ナル牛乳ニ依リテ保育

セラレタル小兒ノ一群ニ對シ臨床診斷ヲ爲シタルニ依リテ得タル證左ハ後者ニ於ケルモノ前者ニ於ケルモノヨリモ高度ノ死亡率ヲ示セリ

(b) 一般ニ市ニ於ケル小兒死亡率ノ減少ハ細菌存在數小ナル牛乳ノ代用トシテ細菌存在數大ナルモノヲ使用スルニ由ラス

(c) 大人ニトリテハ、特種ノ腸傳染病ノ原因タラサル細菌モ、小兒下痢ノ原因タルコトアリ、加之、多數ノ細菌ヲ包含スル牛乳ハ小數ノ細菌ヲ含ムモノヨリモ、小兒ニ腸炎症ヲ生セシムルノ可能因子ヲ多ク含ムモノナリ

細菌存在數及ヒ牛乳ノ適當性——本題ニ關シ委員會ハ次ノ決議ヲ爲セリ

(a) 細菌存在數ノ多キハ牛乳カ、温キカ、汚レタルカ、腐敗セルカヲ意味スルモヘナルカ故ニ、細菌存在數ハ牛乳ノ安全性ヲ表示スル目標ナルコトハ勿論ナルモ、今暫ク本點ヲ全ク離レテ見ルトキハ、乳質ノ適當性ヲ表示スル目標ナリト爲スコトヲ得ヘシ

(b) 牛乳ノ衛生性及ヒ其ノ所屬等級ノ決定上、牛乳ノ適當性ヲ思考スルニ當ツテハ、須ラク牛乳ノ安全性ノ問題ヲ離レテ牛乳其モノノ品位ノ爲メニスル見地ヨリシテ之ヲ爲スヲ要ス。而シテ適當性ノ缺如ハ、無味、無趣味、而カモ嘔吐ヲ催サシムルヲサヘ意味スルモノナルニ引換ヘ、適當性ノ存在ハ食物ヲ消費スルニ當リ、快味ヲ與フルモノナルカ故ニ適當性ハ飲食物ノ品質ヲ決定スル上ニ於テ重要視セ

ラルヘキ也

(c) 高率ノ細菌存在數ヲ有スル牛乳ニ前記ノ特質ヲ缺如セルノ理由アルカ故ニ、適當性ハ衛生官吏ヲシテ、該乳ノ沒收ヲ行ハシムルヲ正當ナラシムヘク、從ツテ細菌存在數ハ牛乳ノ適當性ヲ判斷スル精密ナル手段ナリ

牛乳ノ細菌學的検査所——検査所ノ乳中存在菌検査ナル項目ニ關スル委員會ノ信念ハ次ノ如シ即チ、公衆衛生上ノ利益ヲ達セシカ爲メニハ、須ラク、牛乳供給ノ取締ヲ、其ノ生産及ヒ分配ノ兩時ニ於テ、細菌學的方法ヲ以テスル規則正シキ細菌検査ニ依リテ爲スヲ要スト爲スナリ

本項ノ説明ハ次ノ決議ニ依リ知ルヲ得ヘシ

現在ニ於テ利用可能ナリト認メラレタル、牛乳ノ衛生性ヲ決定スルカ爲メニスル日課的検査方法中、細菌存在數ハ其ノ第一位ヲ占ムヘキモノニシテ、又細菌數標準ハ優良牛乳ヲ分類スル要件タラサルヘカラス。細菌數標準ノ採用及ヒ之カ實施ハ、牛乳ノ公共供給上ニ於ケル衛生性ヲ進歩セシムル方法中最モ有效ナルモノナリ、而シテ此等ノ標準ヲ實施センニハ、検査所ノ牛乳検査ヲシテ規則正シク且屢々行ハシメ、以テ乳中存在菌ノ數ヲ知得スルノ方法ヲ外ニシテハ他ニ依ルヘキモノナシトス、乳中存在菌ノ特質ヲ比較スルカ爲メニハ、各検査所ハ須ラク標準方法ヲ採用セサル可ラスト爲スハ最モ重要ナル事柄ナリトス、何トナレハ此ノ方法ニ依リテノミ吾人ハ牛乳ニ等級ヲ附シ以テ之レカ分類ヲ爲スヲ得ヘク、且細菌數標準ヲ適當

ニ實施シ得ヘケレハナリ

細菌數ノ決定方法トシテ検査所ハ如何ナルモノヲ使用スヘキカニ就キテハ、委員會ハ滿場一致ヲ以テ次ノ如ク可決セリ

細菌數標準ハ亞米利加公衆衛生協會検査部ノ標準方法ヲ採用スル事

殺菌方法採用ニ關シテ起レル反對中、其ノ重要ナルモノノ一ハ、製乳者ニシテ、牛乳ハ製出後再ヒ殺菌セラルヘキモノナルコトヲ知ルニ於テハ、其ノ殺菌ヲ等閑ニ附スルニ至ルヲ以テ、屢々不潔手段ノ隱蔽ヲ爲スコトアリトノ主張是ナリ、委員會ハ此ノ反對論ニ適應スルカタメニ、殺菌後ノ牛乳ニ細菌數標準アルカ、如ク、生乳ニモ亦細菌數標準ヲ必要トスト信ス、即チ牛乳ヲ殺菌スル場合ハ、殺菌後ニ於テ其ノ標準ヲ必要ト爲スカ如ク、殺菌前ニ於テモ之ヲ必要ナリトナス也

細菌検査ノ信憑性——委員會ハ細菌學的分析ハ之ヲ信スルニ足ラスト爲ス幾多ノ批評アルニ注目シ、是等批評ノ當否力如何ノ問ヲ掲ケテ廣ク天下ニ問ヘリ

細菌數決定上ニ於ケル實驗的検査ノ信憑性如何ニ關シテハ、個人的ニ又ハ共同的ニ各方面ニ於テ觀察セラレタルカ、是等各方面ヨリ得タル大部ノ統計ニ基キ委員會ハ其ノ意見ヲ決定シタリ

是等ノ研究中、委員會ノ數員カ他會員ト共同ニ爲シタルモノハ單ニ一個ノミナルカ、其ノ中ニハ牛乳標本二萬以上ニ就キ爲シタル検査ヲ包含ス、其ノ他、牛乳ノ同一標本ヲ百回繰返ヘシテ検査シタル例アリ。副

標本ノ分析ニ於テハ、多少其ノ標準ニ變化アルヘキハ止ムヲ得サルナリ、何トナレハ細菌ハ牛乳中ニ溶解セラレアルモノニアラスシテ、多少群ヲ爲シテ一所ニ集マリ、牛乳中ニ満ヘルモノナルカ故ニ、其ノ各部ヲ單一ナル一體トシテノミ其ノ計數ヲ爲スヲ得ルノ事實アレハナリ。故ニ斯クノ如キ状態ニ於ケルモノハ概括的ナル認定ヲ望ミ得ルノミナリ

委員會ハ廣キ範圍ニ亘リテ研究シタル結果次ノ如ク決議セリ、各検査所カ常務トシテ爲スヘキ牛乳ノ副標本ノ分析ハ、偶然ニハ正標本ノ場合ニ比シ大差ヲ示スコトアランモ、大凡二八パーセントノ平均差ヲ豫期スルヲ得ヘシ。但シ善良ナル検査所ニ於テハ、其ノ差ハ十パーセントヨリ大ナラサルヘシ、此ノ標準差ハ結局分析スヘキ標本ノ數ヲ減少ス、若シ同一牛乳ノ標本五個ヲ探リテ、之カ検査ヲ爲スニ於テハ其ノ結果ハ充分精密ナルモノトシテ信賴シ得ヘク、且常ニ或ル特定ノ牛乳ヲい號ナリス號ナリ或ハは號ナリニ屬スヘキモノト爲スニ躊躇スルヲ要セサル程充分精密ナルモノナリ

細菌存在數ヲ知ルカ爲メニスル牛乳標本ニ對スル細菌検査目的ハ、單ニ牛乳標本一個ノ品質ヲ知ルコトヨリモ寧ロ第一ニ該標本ノ出所タル牛乳供給源ノ衛生性如何ヲ決定スルニ在ラサル可ラス。牛乳ノ等級ヲ定ムルニハ唯一個ノ標本ノ分析ニ基キテ爲スヘカラス、且又起訴若クハ裁判事件ハ、唯一個ノ標本ニ就キ其ノ細菌分析ヲ行ヒ其ノ結果ニ基キテ爲ス可ラストハ委員會ノ極力主張スル所ナリ
細菌検査ノ解釋——委員會ノ本題ニ關スル意見ハ次ノ決議形式ヲ以テ發表セリ

先ツ決定ノ理由ヲ擧ケンニ

- 1、牛乳ハ汚損又ハ腐敗ニ對シ其ノ感受性非常ニ大ナルモノナルカ故ニ最モ腐敗シ易キ食料品ナルコト
- 2、牛乳消費者ニ於テ牛乳ハ其ノ根本要件タル安全性ヲ具備スヘキヲ要求スルノ當然ナルト一般、更ニ其ノ清潔ナルコト及ヒ冷カナルヘキコトヲ要求スルモ亦當然ナルコト
- 3、健康ナル牝牛ヨリ搾取シタル牛乳ニシテ、清潔ニ、新鮮ニ、及ヒ冷カニ保持シ來レルモノハ常ニ其ノ細菌存在數低度ナルコト
- 4、牛乳ニシテ、不潔ナルカ、腐敗セルカ、若ハ温カニ放置セラレタルトキハ其ノ細菌存在數高度ナリ而シテ以上ノ理由ニ基キ次ノ如ク決定シタリ

第一、製産者カ健康牛ヨリ牛乳ヲ搾取スルニ際シ、若ハ販賣者カ、牛乳ヲ搾取當時ノ儘ニ清潔ニ、新鮮ニ、及ヒ冷カニ保持スルニ關シ如何ナル程度ノ注意ヲ爲シタルカヲ知ルタメニハ、衛生官吏ハ宜シク細菌存在數ヲ以テ其ノ目標トスヘキコト

第二、高度ノ細菌存在數有スル牛乳ヲ以テ、或ハ非衛生的ナリトシ、或ハ腐敗セルモノナリトシ、若クハ時間ノ永キト、温度ノ高カリシトニ由リ細菌ノ増殖セル結果、汚穢シタル物質カ、不潔ナル物質カ又ハ腐敗セル物質カノ何レカヲ包含スヘシトナシ、衛生官吏ヲシテ該乳ノ沒收ヲ行ハシムルハ正當ナルコト
第三、衛生官吏カ細菌存在數ノ大ナル牛乳ヲ以テ、危險ノ根源ナリトシ、若ハ該存在菌ニシテ、例ヘハ牛

酪乳及ヒ加酸乳中ニ在ル乳酸菌ノ如クハ無害ナルモノナル事ヲ證明シ得ラレサル場合ニ於テ之ヲ非衛生的ナル部類ニ入ルヘキモノトシテ規定スルハ正當ナルコト

細菌存在數ニ基ク等級制——牛乳供給ノ等級ヲ決定センカ施行スルヲ要スル検査ノ回数如何ノ問題ニ關シテハ委員會ハ左ノ案ヲ推薦シタリ

牛乳ノ屬スヘキ等級ノ決定ハ一週以上一ヶ月以下ノ期間ニ於テ少クとも五回連續シテ、細菌學的ニ細菌計數ヲ行フニ依リテ爲レサル可ラス。而シテ本計數ヲ行フニハ、少クとも五回中四回(八〇パーセント)ハ其ノ數一定限度(即チ牛乳ノ所屬等級ノ決定上與ヘラレタル標準)ヲ超ユヘカラス。牛乳ノ等級ハ必ラス細菌検査ヲ第一トシテ決定シタル衛生性ニ準據シテ爲サレタル可ラス。故ニ等級制度ヲ實施センカ爲メニハ牛乳ノ衛生性ヲ正確ニ決定シ以テ其ノ所屬等級ノ割當ヲ爲スニ必要ナル細菌検査ヲ充分廣キ範圍ニ亘リテ應用スルヲ要ス

以上ノ如キ行政制度ハ公衆衛生官吏ニ依ル牛乳検査ナル從來ノ觀念ニ非常ナル變更ヲ來タスモノナリ。等級制度ノ下ニ於テハ、検査部ハ細菌検査所ノ從屬的地位ニ在ルモノトス、少クとも細菌検査所ヲ以テ検査部ノ指導者ナリト認メサル可ラス。若シ細菌検査ヲ以テ牛乳ノ衛生性ヲ表示スルノ目標ナリト認ムルニ於テハ、細菌検査所ノ検査ハ、製乳者ニ於テ、非衛生的牛乳ノ出所ヲ臨檢官吏ニ申告スルニ至ルマテハ、製乳所臨檢ヨリ先ニ爲サルルヲ要ス。斯ルカ故ニ等級制度實施上必要ナル牛乳検査事務中、都市ニ於ケル

販賣乳ノ衛生性ヲ決定スルカ爲メニスルモノハ細菌検査所ノ検査ヲ以テ最初ト爲スヘキナリ、從ツテ検査部ニ於テハ検査所ニ於テ發見シタル缺點ノ出所及ヒ原因ノ探究ニ努メ且之カ前後策ヲ講スルノ役務ヲ爲スヘキナリ。サレハ検査所ノ事務ト検査部ノ事務トハ之ヲ同一長官ノ下ニ統轄シ且兩部門ハ其ノ作業ヲシテ最モ經濟的ニシテ又有效的ナラシメンカタメニ、全ク對等ノモノト爲スヲ要ス

大都市及ヒ小都市ニ對スル細菌標準——都市ニ對スル細菌標準ヲ設定センカ爲メニハ須ラク牛乳搾取後ノ存在期間、運搬距離、運搬方法及ヒ其ノ供給源ノ衛生的狀態ヲ思考スルヲ重要トス

製乳所ヲ有スルコト僅少ニ從ツテ其ノ取締容易ニシテ、且自產自給ヲ爲セルカ、又ハ其ノ供給源ヨリ十二時間内外ヲ以テ運搬シ得ルノ社會ハ、取締困難ナル諸方面ノ製乳所ニ於テ製産セラレ且其ノ入市ノ爲メニ有ニ二十四時間ヲ要シ、其ノ運搬距離有ニ數哩ヲ算スヘキノ市ニ於ケルモノヨリモ一層優良ナル細菌數標準ノ設定ヲ主張スルコトヲ得ヘシト思ハル、故ヲ以テ小都市ハ大都市ヨリモ優良ナル細菌數標準ノ施行ヲ爲シ得ヘシ從ツテ必ラスヤ小都市ハ大都市ヨリモ優良ナルモノヲ施行セサルヘカラス

顯微鏡ニ依ル検査——乳中存在菌ノ發見上、顯微鏡的方法ヲ用フルコトハ、或ル條件ノ下ニ於テハ、有用ナル目的ニ役立つモノナリ、加之、其ハ信憑スヘキ助手カ扁平培養方法ニ依リテ得タル結果ト全ク同一ナル結果ヲ敏速ニシテ且直接ニ得ラル、ノ便宜ヲ有ス、又、時トシテハ、其レニ依レハ乳中存在菌ノ形態ニ就キ有益ナル教示ヲ得ルコトアリ。然レトモ、他ノ一面ヨリ考フルトキハ、顯微鏡的方法ハ細菌ノ生死ヲ

觀別スルコト能ハサルノ事情アルカ故ニ、其ノ殺菌乳検査上ニ於ケル價值ハ不確實ノモノニシテ、其ノ主要ナル價值ハ生乳ノ品質如何ニ關シテ敏速ナル教示ヲ得ルコトニアリ。故ニ其ハ牛乳ノ製産セラレテヨリ運搬ノ過程ヲ經、都市ニ入ルノ供給線中、都市ニ於テヨリモ、寧ろ製産及ヒ運搬ノ起端ニ於テ最モ有用ナリトス。

3、殺 菌

牛乳ノ殺菌問題ハ會議毎ニ討論セラレタリ

殊ニ

殺菌方法ノ細菌ニ及ホスノ效果如何

殺菌方法ノ牛乳ニ及ホスノ效果如何

殺菌方法ノ公衆衛生ニ及ホスノ影響如何

殺菌方法ノ時間及ヒ温度ノ問題

殺菌監督ヲシテ實効アラシムルノ方法如何

ノ諸問題ハ總テ細目ニ亘リテ周密ニ思考シタリシカ、本題ニ關スル近代的知識ヲ紹介スル寄書ノ重要ナルモノハ、之ヲ採リテ參考ト爲スヲ怠ラサリシハ又勿論ナリトス。委員會ハ又殺菌問題ニ關連シテ、畜牛ノ「ツベルクリン」検査及製乳所雇人ニ對スル醫術的診檢ハ牛乳供給上ノ安全性ニ如何ナル程度ノ保證ヲ與フ

ルコトヲ得ルヤノ問題ヲ綿密ニ研究シタリ

殺菌ニ要スル時間及温度如何、及ヒ諸方面ノ當局者ヨリノ推薦ニ係ル殺菌装置ノ型中何レヲ採用スヘキカニ關シ遺憾ナキ熟議ヲ爲シ次ノ如キ殺菌定型ヲ定メタリ

牛乳殺菌ニ要スル温度ハ華氏百四十度ト同百五十五度トノ限界内ニアルヲ要ス、温度華氏百四十度ノ場合ニ於テ牛乳ニ温度ヲ加フルノ時間ハ二十分ヲ以テ其ノ最小限度ト爲スヲ要ス、華氏百四十度以上一度ノ高ムル毎ニ一分ヲ減少スルモ可ナリ、但シ加熱時間ハ温度如何ニ高キモ五分ヨリ少キヲ得ス

販賣ノ用ニ供シテ安全ナリトスル限界ノ認定ニ關シテハ委員會ハ其ノ加熱時間中維持スルヲ要スル最低温度ヲ華氏百四十五度ト定メ、加熱時間ヲ三十分ト定メタリ

殺菌ノ方法如何ニ就キテハ委員會ハ左ノ如ク信ス

若シ適當ニ行フコトヲ得ンニハ、牛乳ヲ少量ニ分割セスシテ大容器ニ入レテ殺菌ヲ行フモ猶満足ナル結果ヲ得ヘント信スルモ、小容器ニ分入シテ殺菌スルヲ前者ヨリ優ルモノトス。委員會ハ殺菌ハハ號生乳ヲ除クノ外總テノ牛乳ニ必要ナリト思惟ス、委員ノ大多數ハハ號生乳ヲモ包含セシムヘントノ案ニ賛成シタルモ此ハ滿場一致ヲ以テ爲サレタルモノニアラサリシヲ以テ、委員會ハハ號生乳ノ殺菌ヲ以テ任意タルヘシト爲シタリ

殺菌手續ハ有力ナル監督ノ下ニ之ヲ遂行スルヲ要ス、而シテ此ノ監督ハ牛乳検査官吏ノ臨場検査ニ依リテ

之ヲ行フヘク、検査ト検査トノ間ノ日時ハ一ヶ月ヲ超ニルヘカラス、又検査官吏ハ殺菌設備ノ善悪ニ關シ其ノ成績ヲ「カード」ニ記入スヘシ。殺菌セル時、及ヒ其後ノ取扱中其ノ取扱方法ヲ變シタル時ハ常ニ、細菌分析ヲ行フ爲メニ其ノ標本ヲ採取スルヲ要ス。一千クオート以上ノ牛乳ヲ取扱フノ設備ハ、總テ自動溫度調節機、流出調節機、及記録寒暖計ヲ備フルヲ可トス。是等ノ諸記録ハ一ヶ月一回ヲ下ラサル程度前述ノモノヲ具備セサル小装置ニテ殺菌ヲ爲ス所ハ、牛乳ノ所有者ニ於テ熱炎器中ノ牛乳ノ溫度ヲ各運轉ノ初ト終トニ於テ検査シ以テ之レカ記録ヲ行フヲ要ス、而シテ本記録ハ一ヶ月一回ヲ下ラサル程度ニ於テ、衛生局ノ檢閲ヲ受クヘシ

都市ニ於ケル小販賣人及町村ノ小製造人用トシテモ、二百弗以下ノ手頃ナル殺菌器アルカ故ニ、州ノ牛乳法、及大都市ノ牛乳令ハ勿論、町村ニ施行スルノ牛乳令中ニモ、い號生乳ヲ除キテハ、他ノ牛乳ノ殺菌ヲ強制スル規定ヲ設ケサル可ラス。殺菌ノ效果如何ヲ監督スルカ爲メニハ、加熱ノ前後ニ於テ細菌検査ヲ行フヲ要ス

壞血病ト殺菌——本委員會ノ推薦ニ係ル殺菌案即チ加熱溫度ハ最低ヲ華氏百四十五度トシ、其ノ加熱時間ハ最小限度ヲ三十分ト爲スノ案ハ牛乳ノ食料成分ヲ破壞スルモノニアラス

紐育市衛生課カ、彼ノ小兒用牛乳貯藏所——時トシテハ、日々有二萬五千人以上ノ小兒ヲ養フヘキ殺菌乳ヲ供給ス——ノ記録ニ就キ試ミタル調査ノ結果ハ前案ノ眞實ナルコトヲ證スルカ如シ、然レトモ、現代

ニ於ケル病院ノ實驗的研究ハ、一方ニ於テハ、小兒ニシテ殺菌乳ノミヲ以テ其ノ定食ト爲サルトキハ、稍々重キ壞血病又ハ營養上ノ病氣ニ侵サルヘキコトヲ教示シ、又一方ニ於テハ是等諸病ハオレンジ汁、又ハ其ノ他ノ治壞血病用食物ヲ與フレハ、全ク之レカ豫防ヲ爲スヲ得ヘク、否更ニ進ンテ之レカ治療ヲサヘ爲シ得ヘシト教示スルノ事情アルカ故ニ小兒ノ定食トシテ殺菌乳ノミヲ用ケンニハ、其ノ中ニオレンジ汁ヲ加フヘキコトヲ委員會ハ從應ス

於此、委員會ハ市區ハ宜シク公衆衛生方法トシテ、殺菌方法ヲ採用スヘシト爲スノ說ヲ辯護スル請合ナリ製乳所牝牛ノツベルクリン検査——委員會ハツベルクリンヲ診斷ノ媒介物トシテ使用スルノ方法ハ近時大ニ進歩セルヲ指摘シ、且通常ノ皮下注射方法ニ依ル其ノ用途ヲ證明スルノ料トシテ常ニ之レカ記録ヲ繼續ス、但シ該皮下方法ハ健康診斷及合衆國畜産局ニ依リテ指定セラレタル方法ニ關スル者ノミナリトス。ツベルクリン使用ノ他ノ方法ハ未タ研究中ニ屬スルモノト認ムルヲ可トス

衛生官吏ハ須ラク、家畜數及其ノ移轉數ニ基ク實際上ノ限定及ヒ本検査ヲ使用シ得ルモノハ其ノ資格ヲ有スル獸醫ニ限ルト爲スノ定限ヲ實施シ以テ、ツベルクリン使用ヲ理想的診斷媒介物ナリトシテ之ヲ推獎シ且出來得ル限リ敏速ニ其ノ使用ヲ擴張スヘシ、然レトモ、ツベルクリン 查ハ牛乳監督ニ關スル諸問題ノ全部ヲ解決スルモノニアラスシテ、唯單ニ其ノ一問題ニ適應スルノ手段ナルコトモ亦記憶セサル可ラス

4、牛乳ノ等級

牛乳ハ總テ三階級ニ分類スルヲ要ス、而シテ其ノ階級ノ表示ニハいろは文字ヲ以テスルヲ得ヘシ、本方法採用ニ關シ最モ思考ヲ要スヘキノ箇所ハ、文字ノ記載方如何、及ヒ附箋中ニ記載スル其ノ他ノ文字ハ須ラク説明的ナルヘシトノ二點ナリトス

壘ノ頂上又ハ附箋上ニいろは文字ヲ使用スヘキハ勿論ナルモ、他ノ用語ト雖モ、詐欺ノ原因トナルニ至ラサル限り其ノ使用ヲ許容スルモ可也而シテ當該牛乳ノ生乳ナルカ、殺菌乳ナルカヲ表示スルノ文字及ヒ牛乳ノ所屬等級ヲ表示スルノ文字ハ壘ノ頂上若クハ壘ノ附箋上ニ容易ニ看別シ得ルカ如キ體形ヲ以テ記載スルヲ要ス

三等級ニ分屬スヘキ牛乳ノ要件ハ次ノ如クナルヘシ
 一 號

生乳——本乳ハ有資格獸醫ノツベルクリン検査、及ヒ生理的検査ヲ受ケ、無病ト決定セラレタル牝牛ヨリ搾取セラレ、且其ノ搾取及取扱ハ有資格醫師ノ健康診断ヲ受ケ無病ト決定セラレタル雇人ニ依リ爲サレ、其ノ細菌存在數、消費者ニ交付スルノ時、毎立方糎ニ就キ一萬ヲ超エサルカ如キ衛生的状態ノ下ニ置カルルヲ要ス、委員會ハ本乳供給源タル製乳所ハ其ノ設備成績ヲ合衆國畜産局ノカードニ少クトモ八十回記入セラルヘキコトヲ懲惡ス

殺菌乳——本乳ハ有資格獸醫ノ生理的検査ヲ受ケ無病ト決定セラレタル牝牛ヨリ搾取セラレ、且其ノ搾取及取扱ハ衛生的状態ノ下ニ爲サレタルモノニシテ其ノ細菌存在數ハ如何ナルトキモ毎立方糎ニ就キ二十萬ヲ超ユルコトナキモノナリ。本乳ハ總テ官ノ監督ノ下ニ殺菌セラレ、其ノ細菌存在數消費者ニ交付スルノ時、毎立方糎ニ就キ一萬ヲ超エサルモノタルヘシ。委員會ハ本乳ノ供給源タル製乳所ハ其ノ設備成績ヲ合衆國畜産局ノカードニ少クトモ六十五回記入セラルヘキヲ懲惡ス
 二 號

本號所屬乳ハ年一回宛行フ有資格獸醫ノ生理的検査ヲ受ケ無病ト決定セラレタル牝牛ヨリ搾取セラレ、其ノ搾取及取扱ハ衛生的状態ノ下ニ爲サレ其ノ細菌存在數ハ如何ナル時モ毎立方糎ニ就キ百萬ヲ超ユルコトナキヤウニ爲スヲ要ス、本乳ハ總テ官ノ監督ノ下ニ殺菌セラレルヲ要シ、其ノ細菌存在數ハ消費者ニ交付スルノ時、毎立方糎ニ就キ五萬ヲ超ユルコトナキモノトス、而シテ本號乳ノ供給源タル製乳所ハ其ノ設備成績ノ探點ヲ受クルヲ要ス。凡ソ之レカ監督官廳タルモノハ、衛生局タルト其ノ他如何ナルモノタルト問ハス出來得ル限り其ノ供給源ノ養成ニ努メサル可ラス
 三 號

本乳ハ生理的検査ノ結果無病ト決定セラレタル牝牛ヨリ搾取セラレ、且其ノ生産手續ハ細菌存在數毎立方糎ニ就キ百萬ヲ超エサルコトヲ要スト爲ス條件ノ下ニ於テ爲サレタル牛乳ノ總テヲ包含ス。而シテ本乳ハ總テ殺菌即チ高温度ニ熱セラルルヲ要シ、且其ノ細菌存在數ハ消費者ニ交付セラレルノ時、毎立方糎ニ就

キ五萬ヲ超ユルコトナキヲ要ス

大都市若クハ大社會ニシテ、運搬距離或ハ其ノ他特種ノ事情ノ爲メニハ號乳ノ販賣ヲ認容スルノ必要アル時ハ、必ラス其ノ需要者ヲシテ該乳ノ用途ヲ料理用及ヒ加工用ニ局限セシムルノ保證ヲ得サル可ラス。小都市及ヒ町ニ於ケル等級制度——委員會ハ次ノ理由ニ依リ小市町タル各社會ハ其ノ牛乳等級ノ標準トシテ種々ナル優良標準ヲ得ルニ好都合ナル地位ニ在リト認ム。其ノ理由トハ

- 1、氣候
- 2、社會ノ廣袤狹キコト
- 3、供給源ニ近接セルコト
- 4、運搬容易ナルコト
- 5、一般的牛乳供給改良上ノ進歩
- 6、製乳者及ヒ公衆ニ對スル教育上ノ進歩ヲ云フ

於此、委員會ハ、此ニ示ス、各號ノ所屬標準ハ最低限度ノモノナリト認メラレタキモノニシテ、從ツテ、社會事情ニシテ其ノ實行ト希望トヲ許スナラハ、其ノ等級ニ對シテハ一層高キ要件ヲ採用スヘキヲ主張ス

地方社會ニ最モ善ク適合スル等級ノ設定上、衛生官ノ指針トシテ、次ノ如キ概括の原則ヲ提案ス

- (1) 各等級ノ所屬要件ヲ設定センニハ、此ニ先チ、須ラク牛乳ノ地位ニ就キ嚴格ナル豫備の測定ヲ爲スヲ要ス
- (2) 一社會ノ一般的牛乳供給力如何ニ優良ナリトスルモ、必ラスヤ其間ニ多少ノ差異アルヘキカ故ニ優

良ナル標準一個ヲ以テシテ、能ク全供給ヲ盡スヘキニアラスシテ、實際上各社會ニハ諸種ノ等級アリ、從ツテ此等ノ等級ヲ認メテ採用スルハ常ニ有利ナリ

- (3) 凡ソ等級ハ如何ナル社會ニ於ケルモノタルヲ問ハス、彼ノ特種社會ニ於テ其ノ牛乳供給ヲ二級若クハ多クトモ三級ニ分ツヲ善シト爲スカ如ク常ニ然カク分類セサル可ラス。一般的牛乳供給ノ改良ニ就キ何等ノ施設ヲ爲ササルカ、若クハ假令爲シタリトスルモ僅々ニ過キサルノ所ニ於テハ、他日一層嚴格ナル要件ノ實施シ得ラルルニ至ルマテ、暫ク假等級ヲ採用スヘキコトノ希望ニ堪ヘス（但シ本會ノ提案ニ係ル最低要件ヲ下ラサルヲ可トス）

- (4) 凡ソ或ル社會ニシテ等級制度ノ設定ヲ爲シタルトキハ、如何ナル事情ノ下ニ在リトスルモ、既ニ實行可能ナリトシテ採用シタル最低限度ノ標準ニ達セザルノ牛乳ハ之レカ販賣ヲ認可セサルヲ要ス

- (5) 本會ノ提案ニ係ル嚴格ナル等級制限ヲ採用シ得ラレサルノ事情アリテ幾分手加減ヲ爲スノ必要アル社會ニ對シテモ猶一般的ニ應用セラルヘキモノトシテ、委員會ハ數個ノ根本の原則ヲ決定セリ、而シテ是等原則ハ假令如何ナル手加減ヲ爲スニシテモ、是レ以上ニ變更ヲ加フルヲ許ササルモノトス。是等根本の原則ハ次ノ如シ

- (a) い號乳ハ一般的ニ云ヘハ、之レ以上ノ要件ヲ以テスルモ最早ヤ實用上何等實際の利益ヲ得ル所ナキ程善質高度ナル要件ニ合スルノ牛乳ナリ。斯ルカ故ニ、本號ニ對スル標準ハ此ノ目的ヲ充分ニ達

シ得ラルル程度ニ高メサルヘカラス。然リト雖モ、之レカ爲メニ牛乳ノ供給ヲ非常ニ制限シ若クハ之レカタメニ價格ヲ不當ニ暴騰セシメ以テ著シク其ノ需要ヲ制限スルカ如キ程度ニ至ラサルヲ要ス

(b) 一ノ號乳ハ一社會ニ供給セラレタル牛乳中、い號乳ノ如ク高度ノ要件ニ合スル能ハサルモ、之ヲ殺菌セハ飲料用ニ供スルヲ得ヘキ牛乳ナリ

(c) 一號乳ハ殺菌スルモ猶飲料用要件ノ最低限度ニ達セサルモノヲ云フ。從ツテ其ノ用途ハ料理用及ヒ加工用ニ局限スルヲ要ス、委員會ハ經濟上ノ必要上、本號乳ノ認定ヲ止ムヲ得スト爲スノ社會ヲ除キテハ、一般ニハ其ノ認定ヲ欲セス

(6) 牛乳等級制度ノ根本的目的ハ

- (a) 如何ナル牛乳ハ飲料用ニ供スル爲メニ之レカ販賣ヲ許可スルモ可ナルカノ認定ヲ與ヘ以テ人類ノ牛乳消費ニ對シ安全保證ヲ爲スニアリ
- (b) 牛乳ハ等シク安全ナルモノモ、之レヲ清淨トイフ點及取扱上ノ注意如何ノ點ヨリ見レハ其ノ間白ラ優良ノ差アルカ故ニ之レニ基キ其ノ分類ヲ爲スニアリ
- 故ニ各社會ハ能ク上來説明セル概括的原則ヲ遵守シ是等ノ目的ヲ最モ善ク達スルヲ得ルカ如キ牛乳等級ノ設定ニ努メサルヘカラス

5、煉乳(クリーム)

煉乳ハ細菌要件ヲ除ク外、牛乳等級ノ各所屬要件ニ從ヒテ、牛乳ト全ク同一ナル等級ニ分類セラル、ヲ要ス而シテ脂肪分十八パーセントヲ含ム煉乳ハ同一等級ニ屬スル牛乳ノ細菌標準數ノ五倍以下タルヘシ。脂肪分ノ歩合之レト異ナル煉乳ハ其ノ脂肪含有量ノ多少ニ從ヒ前述細菌標準數ニ變更ヲ加フヘキハ之ヲ認メサル可ラス

6、牛 酪

販賣ノ爲メニ都市ノ市場ニ提供セラレタル牛酪ノ多クハ、低級ナル煉乳ヨリ製出セラレタルモノナルコト之ヲ證スルニ難カラス

今、斯ノ如キ煉乳ノ源體ヲ檢スルニ、多クノ場合、其ノ製乳ハ單ニ農家ノ副業トシテ爲サレ、從ツテ何等衛生的注意ヲ加フルノ設備ナク又其ノ清涼裝置ナキヲ常トス。而シテ又此ノ煉乳ヲ溜メ置ク場所及ヒ、之ヲ牛酪ニ製造スルノ裝置ハ多クノ場合最モ非衛生的状態ニ在リ。委員會ハ、牛酪製造上ニ於ケル衛生ハ液乳ノ製造及ヒ取扱上ニ於ケルモノニ及ハサル遠シト信スルカ故ニ、是等ニ於ケル衛生状態ノ改革ヲ行ハシカ爲メニ更ニ幾多ノ施設ヲ速ニ爲スヲ要ス、而シテ此ノ改革ヲ行ハシニハ、製品ノ優劣ヲ鑑別シ得ル標準及ヒ等級ヲ設定スルヲ最モ可也ト思惟ス

牛酪問題ニ就キテハ、委員會ハ三年ノ期間ニ亘リテ之カ審議ヲ爲シ、且牛酪製造者側ノ代表者ト協議ヲ爲シタルハ勿論、其ノ他本會ノ常任委員ノ一部ニ依リ更ニ嚴密ニ研究ヲ爲シタリ

本題ニ關スル本會ノ決議ハ次ノ如シ

定義——標準牛酪ハ其ノ製法ノ如何ニ不拘、凡テ新鮮ニシテ能ク熟セル煉乳又ハ牛乳ノ脂肪分ヲ集メ之ヲ固メテ製出シタル牛酪ニシテ清淨且酸敗セサルモノヲイフ。尤モ脂肪以外ノ牛乳成分ヲ多少包含スルハ勿論ニシテ、鹽分ハ之ヲ有スルモノト有セサルモノトアリ、或ハ無害ナル着色材ヲ加ヘタルモアリ、然レトモ、乳脂肪ノ割合八二パーセントヲ下ルヲ得ス

牛酪ノ等級ハ其ノ衛生性及其ノ賣行ニ基キテ設定セラルルヲ要ス、委員會ハ本點ニ關シ、近時「ミネソタ」州及ヒ「アイオワ」州ニ於ケル法律ニ依リテ採用セラレタル方法ヲ推薦ス、故ニ牛酪等級ヲ此ノ如キ基礎ノ上ニ設定セントスルコトハ各社會ノ自發的ニ着手スヘキ事柄ナリトス

公衆衛生上ノ利益ヲ計ランカ爲メニハ、牛酪製造ニ使用セララルル煉乳ハ其ノ使用ニ供セララルルニ先テ豫メ殺菌セラレサル可ラス

い號牛酪ハい號牛乳若クハい號煉乳ヨリ製造スルヲ要ス

ろ號牛酪ハろ號ニ屬スル牛乳又ハ煉乳ヨリ製造セサル可ラス

販賣ヲ許スヘキ牛酪ハ之ヲ次ノ如キ牛乳及ヒ煉乳ヨリ製造セラレタルモノニ局限セサルヘカラス、而シテ牛酪原料タル牛乳及ヒ煉乳ハ之ヲ單ニ牛乳又ハ煉乳トシテ販賣スルモ、新鮮ナルニ於テハ、本會ノ決定ニ係ル等級制ニ從ヒ、い號若クハろ號ニ屬スルモノトシテ認メラルル様ニ製造セラレタルモノニシテ、且之

レカ搾取及其ノ他ノ取扱ハ嚴格ナル衛生條件ノ下ニ社會的の疾病即チ傳染質疾病ナキ人ニ依リテ爲サレタルモノナルヲ要ス、等級上低級ニ屬スル牛乳若クハ煉乳ヨリ製造シタル牛酪ノ販賣ヲ認容スルノ必要アルトキハ該原料タル牛乳若クハ煉乳ハ如何ナル場合ニ於テモ、總テ殺菌セラル、ヲ要シ且其ノ牛酪ハ適當ニ附箋ヲ附スヘキナリ

若シ牛酪ニシテ、作り直シノ牛乳若クハ煉乳ヨリ製造セラレタルモノナルトキハ其ノ事實ヲ附箋上ニ記載スヘク、且斯クノ如キ牛酪ハ直シ牛酪ト同一部類ニ入レハ號牛酪トシテ分類セラルヘシ

牛酪ヲ入レテ販賣スルノ容器ニハ總テ牛酪原料ニ使用シタル牛乳又ハ煉乳ノ最低級タルコトヲ、其ノ製造裝置名、場所、製造年月日、ト共ニ之ヲ表示スヘシ

7、「アイスクリーム」

本題ニ關シテハ三年ニ亘リテ之カ審議ヲ爲シタリシカ、其ハ重ニ特別委員會ノ手ニ於テ研究セラレタリ千九百十四年ニハ幾度カ本會員タル細菌學者ニ依リテ「アイスクリーム」ノ細菌検査カ施行セラレタリシガ、其ノ情況ニ關シ本會ニ報告シタルモノノ中ニ、各自ノ住居地方ニテ採取シタル標本ヲ以テ其ノ検査ヲ爲シタルコトヲ記載セラレアリ、之等各地方ノ結果ヲ綜合スルトキハ「アイスクリーム」ノ性質如何ヲ知ルヲ得ヘシ

本題ニ關シ「ワシントン」市ニ在ル農務省及多數ノ公衆衛生當局者カ爲シタル特種ノ調査事業ハ又採リテ本

會ノ參考ト爲スヲ得ヘキモノタリ

委員會ハ純粹食料法ノ意義ニ於テハ、「アイスクリーム」ハ之ヲ糖菓トシテ認ムルヨリモ寧ロ食料品トシテ認ムルヲ可トスヘキヲ票決シタリ。委員會ハ又、「アイスクリーム」ノ製造原料タル牛乳及ヒ煉乳ハ本會ノ提案ニ係ル標準ニ合スルコトヲ要シ且是等牛乳及ヒ煉乳ハ總テ殺菌セララルヲ要スト票決セリ

「アイスクリーム」ノ定義如何ニ關シテハ、多クノ會議ニ於テ討論セラレタルカ次ノ如ク決定シタリ

「アイスクリーム」トハ殺菌煉乳ト砂糖トヨリ、若クハ殺菌煉乳ト殺菌牛乳ト砂糖トヨリ製セラレタル氷結製品ニシテ、乳脂肪八パーセント以上ヲ含ムモノヲイフ、而シテ次ニ掲クルモノハ之ヲ包含セシメス

- 1、防腐劑
 - 2、混和媒介物
 - 3、サクカリン
 - 4、直シ牛酪又ハ未成牛酪
 - 5、乳脂肪、又ハ乳成分タル油以外ノ脂肪及油
- 左ニ掲クルモノハ之ヲ包含セシムルモ可ナリ

- 1、健全ナル卵
- 2、無害ナル着色料
- 3、風味料
- 4、能ク熟シタル果實
- 5、清淨ナル饅頭菓子
- 6、クルミ

但シ其ノ濃度ハ〇・五パーセントヲ超エサルヲ可トス

「アイスクリーム」ハ氷結セル間ノミ之ヲ食用ニ供スルコトヲ得ルモノトス。合成煉乳(或ル物質ヲ乳化シテ、牛乳若クハ脱脂乳ト同質ナラシメ、之ヲ原料トシテ牛酪ヲ製シ、斯クシテ製造セラレタル牛酪ヲ以テ造ラレタル煉乳)ハ其ノ製法及ヒ製造原料ニシテ相當官憲ノ許可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ「アイスクリーム」若クハ其ノ他ノ「クリーム」製造用ニ使用スルヲ認ム可ラス

衛生官ハ宜シク上述定義ノ外、其ノ製造及ヒ取扱ハ之ヲ衛生的ニ爲スヲ要ストノ規定ヲ加ヘ、此ノ要件ヲ充タササルノ物質ヲ販賣スルニハ「アイスクリーム」ノ名ヲ以テスルヲ禁スヘキナリ、而シテ何ヲ衛生的トイフヤノ決定ハ之ヲ地方官憲ノ監督權ニ委スヘキナリ

細菌標準ノ設定ナキノ處ニ於テハ、細菌含有證書ヲ作り之ヲ衛生狀態検査ノ指針トシテ用ユルヲ要ス。乳脂肪ニアラサル、乳化脂肪ノ如キヲ煉乳ノ代用物トシテ使用スルハ、之ヲ「アイスクリーム」若クハ其ノ他ノ煉乳ノ製造用ニハ許スヘキニアラス。若シ之レニ反シテ製造セラレタル時ハ、其ノ既成品ニハ「アイスクリーム」トシテノ附箋ヲ附ス可ラス

等級制——「アイスクリーム」中ニ用ユヘキ製品ノ性質如何ニ關シテハ、委員會ハ之ヲい號及ヒラ號部類ヲ以テシタル製品ニ局限スヘキコトヲ決定セリ

い號「アイスクリーム」ハい號乳又ハい號煉乳ヨリ製造スルヲ要シ、且其ノ既成品ハ每立方糎ニ就キ十萬ヲ超エサル細菌ヲ包含スルヲ要ス

る號「アイスクリーム」ハ其號以上ノ牛乳又ハ煉乳ヨリ製スルヲ要シ、且其ノ既成品ノ細菌含有量ハ每立方
糎ニ就キ百萬ヲ超エサルコトヲ要ス

委員會ハ「アイスクリーム」製造場ノ衛生状態ニ等級ヲ附スル爲メ、適當ナル成績カードヲ使用シヘキコ
トヲ提案ス

該成績カードハ之ヲ本報告ノ附録中ニ掲ケタリ

8、「コンデンスミルク」

委員會ハ「コンデンスミルク」、蒸溜乳、粉乳、及ヒ「コンデンスミルク」製品ヲ製造スルニハ、其ノ製造原
料タル生乳ノ衛生性ハ當ニ其等ノ品質ニ影響スルノミナラス又既成品ノ安全性及ヒ適當性ニ影響スル所ア
リト認ム

「コンデンスミルク」ニハ其ノ製造原料タル液乳ノ善惡ヲ容易ニ鑑別シ得ラルルヤウニ附箋ヲ附スベシト爲
スコトハ、公衆ニトリテモ將又、本乳製造業其ノモノニトリテモ、最モ有利ナルハ明ラカナリ

於此、委員會ハ、合衆國、州、市、立法部ハ宜シク製造業者ヲシテ、其ノ製造品ハハ號乳ヨリ製シタルモ
ノナルコトヲ表示スル附箋ノ使用權ヲ得セシメ、且此ノ使用權ヲ確實ニ保護スルノ法律ヲ制定センコトヲ
希望ス

9、脱脂乳

委員會ハ會期ノ初メニ於テ、脱脂乳ニ對スル化學的標準ニ關スル決議ヲ通過シタリシガ、該決議ハ脱脂乳
中ニ包含スヘキ非脂肪固形分ハ八・五パーセントヲ下ラサルコトヲ要スト爲スモノナリ。此ノ外脱脂乳ノ食
用上ノ地位ニ關シ次ノ如ク決議セリ

イ、生活費ノ壓迫ハ敏速ニ増加シツ、アリ

ロ、滋養アリテ且利用シ易キ食品ハ今ヤ殆ト其ノ大部分ヲ消費シ盡サレントシツ、アリ

ハ、脱脂乳ノ販賣ヲ禁止スルノ法律ハ公衆衛生上何等意義ヲ有セス

トノ理由ニ基キ、委員會ハ食品トシテ脱脂乳ヲ使用スヘキヲ認メ且何處タルヲ不問、食品トシテ脱脂乳ヲ
販賣スルコトヲ禁止スルノ法規アル處ハ、須ラク之カ廢止ヲ行フヘキヲ主張ス

10、乳 酪

乳酪ニ關シテハ本會ハ會期中三回之ヲ討議シタリシカ、其ノ定限トシテ次ノ如ク提案ス
乳酪ノ販賣ハ次ノ製品ニ之ヲ限定スルヲ要ス

第一ニハ本會ノ提案ニ係カル等級制ニ從ヒ、ハ號若クハハ號ニ屬スルモノトシテ販賣スルコトヲ得ルヤウ
ニ製造セラレタル牛乳又ハ「クリーム」ヲ攪乳器ニ掛ケテ製シタルモノ

第二ニハハ號乳又ハハ號乳ヲ抄去スルカ、酸味ヲ加フルカ、若クハ其ノ他ノ方法ニ依リテ乳酪（此クノ如
キ模造品即チ人工乳酪ハ明ラカニ其ノ容器ニ其ノ性質ヲ説明スルヲ要ス）ニ酷似セシメタルモノ、但シ其

ノ製造中及製造後ノ取扱ハ總テ地方衛生官憲ノ許可ヲ得タル衛生方法ニ基キテ爲スヲ要シ、且ツ其ノ温度ハ製造ノ時ヨリ消費者ニ交付スル時マデ華氏五十度以下ニ之ヲ保持スルヲ可トス

乳糖ノ製造原料タル牛乳、煉乳、脱脂乳ニシテ、若シハ號生乳ト同一ナルコトヲ證明シ得ラレサル場合ハ總テ之ヲ殺菌スルヲ可トス

乳糖ハ總テ之ヲ壘若クハ罐ニ入レテ販賣スルヲ要シ、且其ノ壘又ハ罐ハ適當ニ封緘シ、製造装置、製造日若クハ賣出シ日附、製造原料タル牛乳ノ所屬等級、及ヒ其ノ原料ハ生乳ナルカ、殺菌乳ナルカ、其ノ製法ハ人工的ノモノナルカ、本來的ノモノナルカヲ適當ニ表示スル附箋ヲ附スルヲ要ス

II、清淨法

牛乳ノ清淨法ハ非常ニ廣ク使用セラル、ニ至リシヲ以テ、委員會ハ清淨法ノ價值ヲ認ムルノ必要アリト思惟スルモ、之ヲ標準要件トシテマテモ推奨スルノ必要アリトハ信スル能ハス

其ノ利點ト思ハルルモノハ次ノ如シ

- a、之レニ依レハ、荒塵ヲ除クコトヲ得ルコト
 - b、之レニ依レハ多クノ病原體ヲ含ムモノ、及ヒ炎症ヲ起シ得ル性質アル製品ヲ除キ得ラルルコト
 - c、之レニ依レハ一層有效ニ濾過ヲ爲シ得ルコト
- 其ノ缺點ト思ハルルモノハ次ノ如シ

a、之レニ依レハ目ニ見ユル汚物ハ之ヲ除キ得ルモ、病原體ノ總テヲ除去シ得ス、從ツテ消費者ヲシテ眞ニ清淨ナルモノト誤解セシムルニ至ルコト

b、之レニ依レハ外觀上清淨ナルカ如ク見ユルモ、尿又ハ尿ノ溶解セラレタル部分ヲ除去シ得サルコト

c、之レニ依レハ牛乳ノ取扱ニ他ノ手續ヲ要シ從ツテ其ノ製乳所ヲ混雜セシムルコト

d、之レニ依レハ善良ナル濾過法ニ依ルモノヨリモ甚シカラスト雖モ、非常ニ汚物検査ノ價值ヲ破壊スルコト

e、之レニ依レハ細菌ノ固リヲ破壊シテ牛乳中ニ散亂セシムルコト

f、之レニ依ルハ猶除去サレタル物質ノ性質ヲ充分ニ知ル能ハサルコト

之ナリ

12、純一性

牛乳及ヒ煉乳ノ純一性ノ問題ニ關スル委員會ノ態度ハ、正確ナル附箋ニ依ルヘシトスルノ主義ニ左租スルコト、セリ

牛乳或ハ煉乳ノ混合問題ニ關スル委員會ノ意見ハ、牛乳ヨリ取りタル乳脂肪以外ノ脂肪及ヒ牛乳中ニ包含セラレサル他ノ物質ヲ其ノ中ニ加フ可ラスト爲スニアリタリ

煉乳ヲ濃クスル爲メニ「コンデンスミルク」若クハ其ノ他ノ物質ヲ用フルハ、其ノ由ヲ明ラカニ符箋又ハ小

賣包紙上ニ表示スル場合ノ外ハ之ヲ許スベキニアラズ

純乳又ハ純「クリーム」ハ其ノ中ニ包含スル脂肪ノ割合ト共ニ其ノ純一ナルコトヲ表示セラルルヲ要ス

13、特許

牛乳販賣者ハ等級牛乳ノ販賣及ヒ等級附箋ノ使用ニ關シテハ、豫メ之カ許可若クハ特許ヲ受クルヲ要ス。而シテ如上ノ特許若クハ許可ハ地方衛生課ニ於テ出願人ノ販賣ニ係ル牛乳ハ正ニ出願等級ニ合セルコトヲ決定シタル後ニアラサレハ之ヲ與フヘカラス、又其ノ特許若クハ許可ヲ與ヘタル後ト雖モ、販賣者ノ標榜スル牛乳ニシテ當該等級又ハ部類ニ屬セサルコト決定セラレタルトキハ、之レカ取消ヲ爲スヲ要シ且附箋ノ使用ヲ禁スヘキナリ

14、附箋

牛乳ニハ總テ附箋ヲ附シ、其ノ販賣等級ヲ表示スルコトヲ要ス、日附ヲ附スルニハ各級一樣ニ爲スヘキナリ。等級ヲ表示スルノ文字及ヒ生乳ナルカ殺菌乳ナルカヲ表示スルノ語句ノ外、該牛乳ノ出所、及ヒ製造日、壘詰日、殺菌日ヲ證スルニ足ル説明ヲ加ヘサル可ラス。但シ官ノ設定ニ係ル等級ヲ表示スル文字ノ外該牛乳ノ品質ヲ表示スル述語ノ使用ハ、其意義ニシテ既ニ一般のニ知レ渡リ居ルモノニアラサル限り之ヲ許スヘキニアラス。牛乳ニ日附ヲ附スルニ關シ一樣ニ爲スヘシトスルノ方法ハ、生乳及ヒ殺菌乳ノ各等級ヲ通シテ之ヲ採用スヘク且其ノ記載方ハ週名若クハ月日ヲ以テスヘキナリ

不正ノ附箋又ハ烙印ヲ施シテ牛乳ヲ販賣シタル者ハ、其ノ特許ヲ取消スカ、其ノ販賣ニ係ル牛乳ノ等級ヲ下スカ、過科ヲ課スカ、又ハ相當刑罰ヲ加フルカニ依リテ之ヲ罰セサル可ラス

附錄

牛乳衛生性ノ監督上製乳所作業ノ實施ニ關シ最モ重要ナル要件

委員會ハ前號報告ニ於テ、製乳所及ヒ牛乳溜所ニ於ケル衛生狀態ノ監督ニ關スル細則ヲ其ノ附録中ニ掲載シタルカ。同號所載ノ諸規則カ牛乳ノ品質ヲ監督スル上ニ於テ有スル價值ハ尙幾多ノ變更ヲ來タスノ餘地アルヘシ、其ノ多クハ生産費ノ増加ヲ來タシ、甚タシキニ至リテハ、製乳所ノ外觀的設備ヲ改良進歩セシムヘキモ、牛乳ノ品質ニ關シテハ何等重要ナル影響ヲ及ボサ、ルモノアリ

等級制度ハ主トシテ製品ノ品質ニ交渉アルヲ要スヘク、且製乳者ハ製品ノ品質ヲ最モ實效ニ改良スルヲ得ルカ如キ要因ニ特ニ注意ヲ拂ハサル可ラス。從ツテ又製乳所検査官ハ須ラク牛乳ノ品質ニ最モ大ナル影響ヲ與フルノ要因ニ其ノ力ヲ注カサル可ラス。於此、委員會ハ衛生官吏及ヒ製乳者ハ宜シク最モ重要ナル要因ト比較的重要ナラサル要因トヲ鑑別セラレンコトヲ主張ス

委員會ノ意向ハ次ノ説明ニ依レハ、他所ニ於テ採用シタルモノニシテ、其ノ制定ニ一層意ヲ用井タルノ規則ヲ採リテ前號所載ノ規則ニ換ヘントスルニ在ラスシテ、其ノ力ヲ何處ニ注クヘキカヲ示シ、且牛乳品質ノ監督上最モ重要ナル手段ト比較的重要ナラサルモノトヲ區別セントスルニ在ルコトヲ注意スヘシ

附隨の事項トシテハ、他ノ標準規則ヲ採用スルコト、及ヒ牛乳ハ罹病牛タルコトヲ明ラカナルカ、又ハ乳房ニ腫物ヲ有スル牝牛ヨリ搾取セラレタルモノニアラサルコト、及ヒ、牛乳ハ傳染病ニ罹レルカ、又ハ病芽攜帶者タル雇人ニ依リテ取扱ハレタルモノニアラサルコト等ノ規定ヲ設クヘシト假定セリ

牛乳ヲ生ノ儘ニテ販賣スルノ處ニ於テハ、牝牛ハ總テ獸醫ノ監督ノ下ニ置カレ、且年一回ツベルクリン検査ヲ受クルヲ要シ、又製乳所ノ雇人ハ規則正シキ醫術的検査ヲ受クルヲ要スト假定セリ

委員會ノ意見トシテハ、是等ノ狀態ノ下ニ於テハ、次ノ如キ要因ハ清淨ニシテ且細菌含有數低度ナル市場乳(販賣乳)ヲ鼓舞スルニ最モ重要ナリト思惟ス

一、財政上ノ刺戟

本要因ハ他ノ總テノ要因ノ上位ニ在ルモノトス

若シ夫レ製乳者ニシテ、清淨ナル牛乳ヲ生産スルハ、自己自身ノ財政上ノ利益ニ關スルモノナリト思惟スルニ非ラスンハ、法ノ規定ヲ以テシテ、牛乳供給ヲ清淨ナラシメントスルノ企圖ハ多クハ畫餅ニ歸スヘシ。而シテ此クノ如キ財政上ノ刺戟ヲ作出センカ爲メニハ、公衆ヲシテ、全然信頼シ得ヘカラシムル牛乳等級ノ或ル方式ヲ必要トス

其ノ方式ハ次ノ如キモノヲ含ム

(a) 衛生官吏——牛乳ハ相當官憲ニ依リテ等級ヲ附セラレサル可ラス。而シテ此ニ等級ヲ附スルノ事務

中ニハ各製産者ヨリ等級附ケノ爲メニ提供スル牛乳ノ細菌學的検査ヲ絶ヘス施行スルコトヲ包含ス

(b) 販賣人——牛乳ノ仕入レヲ爲スニ當リ、販賣人ノ支拂フヘキ價格ハ牛乳ノ等級ニ應ジテ高下アラサル可ラス。而シテ仕入價格カ、他ノ要件外細菌含有數ヲ加ヘテ之ヲ尺度トシ測定セラル、ニ於テハ清淨及ヒ衛生性ノ範圍ニ於テハ最モ有効ナル結果ヲ得ヘシ。販賣人ハ又牛乳容器ヲ再度ノ使用ニ供センタメ、製乳者ニ歸ヘス前ニ、蒸氣ヲ以テ之ヲ消毒シ細菌ヲ死滅セシメサルヘカラス

紛擾ノ一大原因カ、販賣人ニ於テ、罐ヲ消毒セサルノミナラス、時トシテハ、清潔ニ洗フコトスラ爲サスシテ之ヲ製乳者ニ返還スルノ事實ニ在ルコトハ既ニ知ラレタル事柄ナリ。此クノ如キ罐ニ入レテシテ、以テ善良ナル牛乳ヲ供給シ得ルノ生産者ハ蓋シ之レアラサルヘシ。然レトモ一狀態ニ對シ販賣人ノミ獨リ全責任ヲ負フヘシト爲スハ、生産者ニトリテ恥辱タルヘキハ勿論ナリト云ハサル可ラス

二、い號乳及ヒろ號乳ノ製造上、清淨ナルコト、及ヒ細菌含有數ヲ監督センカ爲メニハ、次ノ如キ要件カ最モ効果アルモノナリ

(a) 搾乳——牝牛ノ乳房ハ清潔ナルヲ要ス、搾乳人ノ手ハ清潔ニシテ且乾燥シ居ラサルヘカラス。頂ノツボメル桶ヲ使用スルヲ要ス。清潔方法トシテハ濾過器ハ之ヲ必要トセス、然レトモ若シ使用スルトナラハ煮沸シテ殺菌セラレタル布(乾酪布)ヲ用フルヲ可トス。朝ノ搾乳ニ使用シタル同一ノ布ハ之ヲ

再ヒ夕ノ搾乳ニ使用セサルヲ肝要トス。此ノ場合ニハ二個ノ濾布ヲ煮沸シ置キ一ヲ朝ニ使用シ、他ヲ夕ニ使用スヘキナリ

(b) 消毒——牛乳溜器ハ總テ、刷毛ト洗濯曹達トヲ以テ洗フカ、又ハアルカリ粉末ニ水ヲ加ヘタルモノヲ以テ清水中ニテ之ヲ洗ヒ以テ消毒スルヲ要ス

自身ノ勢ニヨリ噴出セル蒸氣カ、若クハ壓力ヲ加ヘラル、ニ依リテ噴出セル蒸氣カノ何レカヲ利用シ得ルノ場所ニ於テハ、此ヲ必ラス消毒用ニ使用セサル可ラス

(c) 冷却——牛乳ハ冷却装置ノ力ノ及フ丈ケ低度ニ其ノ溫度ヲ直ニ冷却セラレサルヘカラス。水槽中ニテ冷却ヲ行ヒ、且其ノ手續ヲ容易ナラシムル爲メ牛乳ヲ攪拌スルノ必要アル處ハ金屬製攪拌器ヲ用フヘク、木ノ椀ハ如何ナル種類ノモノモ用フヘカラス。而シテ該攪拌器ハ完全ニ洗ヒテ毎日熱湯ヲ以テ殺菌セサル可ラス

牛乳ニハ冷却限度アルモ、ソレマテハ、溫度ヲ低クスレハ低クスルタケ細菌含有數ノ低度ナルモノヲ製出スルニ便宜ナリ。

製乳上ニ於テハ、他ノ要件モ亦各々勢力ヲ有スヘキモ、細菌含有數高度ナルモノノ九十パーセント前述ノ要件ヲ等閑ニ附セルニ基因セルモノナルコトヲ廣範ナル検査ノ結果知ルヲ得タリ

前述セル衛生方法ハ製乳農業ノ製乳手續中ニ於テ、牛乳ノ衛生性ヲ維持スルニ特別ノ關係アルモノニシテ

是等ノ要件ニ加ヘテ牛乳工場、汽船停留場鐵道、及ヒ市ノ物貨交通場ニ於テハ別ニ豫防的手段ヲ觀察スルヲ可トス。而シテ此ノ豫防中最モ困難ナリト思ハル、モノハ、牛乳カ其ノ製産場ヲ離レタル後ニアリ牛乳ヲ運搬スル上ニ於テ、其ノ到達地ニ至ルマテノ間ニ、其ノ品質ヲ左右スルモノハ時間、溫度、及ヒ器物ノ清潔ノ三要件ナリトス

牛乳カ製乳場ヲ離レテヨリ、汽船停留場、汽車、及ヒ市ノ物貨交通場ヲ通過シ行クノ行程中終始完全ニ清涼セラル、コトハ細菌ノ増加ヲ防遏スル要素ナリ

若シ第一級衛生状態ヲ有スル製乳場ヲ離レタルヘシト思ハル、牛乳ノ衛生性ヲ容易ニ破壊スルノ力アル染汚ニシテ防遏シ得ラルヘキモノナリトセハ、牛乳容器及ヒ牛乳ノ接觸スルニ至ル總テノ装置ヲ洗濯シ若シクハ殺菌スルコトハ重要ナルモノナリ

若シ販賣人ノ手中ニ在ル牛乳ニシテ、適當ニ清涼セラレ且衛生的方法ニ從ツテ取扱ハル、コトナクンハ、製乳者ニ依ル衛生的方法ノ實行ハ甚タ其ノ價值僅少ナルモノ也

アイスクリーム製造装置ノ成績カード

置キ場所	完	全	認	定	點
		15			

1 図 1

構内高キコト	5		
周囲ノ汚物ニ汚染セサルコト(悪シキトキハ成績ナシ)	3		
街塵ニ對スル防備	3		
他家トハ無聯絡ナルコト	2		
同一建物中ニテ他ノ事務ヲ爲サルコト	2		
構造			
明キコト(自然的ニ)	2		
通風ヨキコト	1		
完全ニ圍ハル、コト	2		
便所ハ直接ニ建物ニ向ツテ開放セラレサルコト	2		
洗器室ハ室ヲ別ニスルコト	2		
床ハ滑ラカニシテ水漏ラス且排水ヨキコト	4		
壁、天井ハ滑ラカニシテ密ナルコト	2		
装置			30
始終蒸氣ヲ通スルコト	5		
始終湯ヲ通スルコト(奔流スルモノニテラサレハ不可)	3		
器物ノ消毒	3		
消毒装置ト連絡スルコト	2		

殺菌			
保持機	4		
自動記録機	1		
清涼、機械(相當氷箱、1)	2		
結水器、型、連絡器等	2		
洗盆ト布巾	1		
衛生的導管	2		
什器：			
状態	1		
役務完備	1		
役務缺如	1		
雇人：			
健康保證	1		
清潔ナル衣服ヲ着スルコト	1		
方法		40	
無蠅ナルコト	2		
材料ノ保護：			
製造前	3		

製造中	3		
製造後	3		
器具及装置ノ消毒(湯中ニテ洗フコト、1)	3		
清潔:			
床			
窓			
装置			
壁及天井			
器具			
雇人			
使用材料ノ品質			
い號ノ牛乳及クリーム(ろ號4、は號1)	6		
コンデンスミルク、卵、等	2		
濃クヌル材料ヲ用非サルコト	1		
人工的着色物ヲ用非サルコト	1		
仕上リ製品ノ清涼程度	2		
計		100	

附録二

紐育牛乳委員會ニ依リテ選任セラレタル牛乳ノ標準ニ關スル委員會ノ沿革

委員會組織以前ニ於ケル牛乳等級制

千九百〇七年、ワシントン市ニ於テ、同市ノ牛乳供給ノ狀況ヲ報告スルノ目的ヲ以テ、コロンビア郡委員ノ召集シタル牛乳會議開カレタリ

本會議ニ於テ、エー・デー・メルビン博士ハ、牛乳ハ之ヲ三階級ニ分ツヘシトノ決議案ヲ提出シタリ

一等乳——請合乳

二等乳——検査乳

三等乳——殺菌乳

初メノ二階級ハ、牝牛ノツベルクリン検査ヲ受クルコト及ヒ牛乳ノ細菌含有數標準數ニ合致スヘキコトノ要件ヲ課セラレタリ

該提案ハツベルクリン検査ヲ受ケタル牝牛ヨリ搾取セラレタル牛乳ニシテ衛生的狀態ノ下ニ製出セラレタルモノヲ除ク外、總テノ牛乳ノ殺菌ヲ規定セルヲ以テ有名ナリ

千九百〇八年ニハ紐育市衛生課ハ次ノ如キ牛乳等級制ヲ採用シタリ

第一類(普通ノ販賣乳タル生乳又ハ殺菌乳)

第二類 選擇乳

- 第三類 検査乳
- 第四類 保證乳
- 第五類 請合乳

第一類ニハ牛乳ノ供給量ノミヲ表示シ、殺菌及ヒ細菌標準ヲ要スヘキノ規定ヲ設ケス

牛乳ノ標準ニ關スル委員會ノ組織

千九百十年十二月ノ二日及ヒ三日ニ、紐育牛乳委員會ハ、米國ニ於ケル主要ナル牛乳官憲ノ牛乳問題ニ關シ打合會議ヲ開催シ以テ次ノ決議案ヲ可決セリ

紐育牛乳委員會ノ牛乳問題ニ關スル打合會ハ、國民標準ノ採用問題ヲ未決ノ儘ニ殘シ、合衆國農務省畜産局長ユー・デー・メルビン氏ノ提案ニ係リ、千九百七年ニ、コロンビア郡ノ牛乳會議ニ於テ賛成セラレ、且畜産局ノ回章第四百十四號及ヒ合衆國公衆衛生公報第四十一號、第五十六號及ヒ海上病院部公報中ニ發表セラレタル牛乳分類案ニ賛成スト決議セリ

(該分類案ハ請合乳、検査乳、殺菌乳ノ三種類也)

本會ハ又次ノ決議案ヲ通過シタリ

疾病ノ豫防及ヒ保健ノ目的ヲ達スル爲メ、製乳製品ノ製造及ヒ取扱ヲ取締マランガ爲メニハ、須ラタ一定ノ標準ト規則トヲ採用スヘシト爲スハ、紐育牛乳委員會ノ召待會ノ時ノ討論及新聞紙ニ依リテ命令的ノモ

ノタルヘシト爲サレタルカ故ニ、紐育牛乳委員會ヲシテ十二名乃至二十名ノ牛乳問題ニ就キ熟達者ト認めラル、者ヲ招聘セシメ、牛乳法規制定上、議會及ヒ州機關カ依ルヘキ適當ノ牛乳標準ヲ提案スルノ會議ヲ開カシメ以テ其ノ滿場一致ノ報告ヲ爲サシメンコトヲ要求スルコト

該決議ニ從ヒ、千九百十一年三月ニハ、紐育市ノ牛乳供給ノ改良及ヒ小兒死亡率ノ減退ヲ期スルノ目的ヲ以テ、自發的ニ組織セル牛乳委員會ハ、牛乳ノ標準ニ關スル委員會會員ニ選任センカ爲メニ二十名ノ熟達者ヲ招聘シタリ。而シテ是等ノ人々ハ、藥學、衛生學、公衆衛生及ヒ検査事業ニ關シ卓名アル者テ二百人以上ヲ記載セル名簿中ヨリ選出シタルモノニシテ、又牛乳問題ノ泰斗ト認めラル、モノナリ

現在ニ於ケル該委員名ハ次ノ如シ

合衆國農務省化學局長、博士 カール、エル、アルスバーク

(コロンビア州、ワシントン市住)

博士 デヨン、エフ、アングーソン

(ニュー、ヂァーシイ州、ニユーブルンスウイック)

州細菌検査官、博士 ビー、エル、アーム

(アラバマ州、モントゴマリイ住)

州衛生課検査所長、教授 エッチ、ダブリユー、コン

(コン州、ミッドルタフン住)

ナウスウエスターン大學、豫防藥科、博士 ダブリユー、エー、エバンス

(シカゴ住)

衛生醫官、チアーレス、ヂエー、ハスチングス

(カナダ、トロント)

州衛生課書記官、ヂエー、エヌ、ハーチイ

(インヂアナ州、インヂアナボリス)

衛生官、ヂエー、エツチ、ランヂス

(オヒヲ州、シンシンナチ)

衛生官、博士 イー、シー、レビイ

(バーヂニア州、リツチモンド)

合衆國農務省畜産局長、博士 エー、デー、メルビン

(コロンビア州、ワシントン市)

博士 チエー、エヌ、ネツフ

(ペンシルバニア州、ナーバース)

博士 チアーレス、イー、ナウス

(紐育市、チアーチ街、三〇)

衛生省検査所長、博士 ウイリアム、エツチ、パーク

(紐育市)

農學校長 アール、エー、ピアソン

(アイオーワ州、アメス)

ミヅリー大學、豫防藥科、博士 エム、ビー、ラベネル

(ミヅリー州、コロンビア)

ハーバード大學、豫防藥科、教授 エム、ヂエー、ロセイ

(マサチユージェツツ州、ケンブリツチ)

コロンビア大學、化學科、教授 エツチ、シー、シアーマン

(紐育市)

農業試験所、博士 エル、エル、バン、スライク

(紐育州、ゼネバ)

衛生官、シー、エツチ、ウエルス

(ニュー、デアーシイ州、モントクレア)

衛生官、博士 ウイリアム、シー、ウツドワード

(コロンビア州、ワシントン)

前記名簿中ニハ、公衆衛生官九名、細菌學者七名、化學者三名、農業熟達者二名、アリ
全數中十三名ハ醫學研究者、二名ハ牛乳製造業ニ永年ノ經驗ヲ有スル者、七名ハ請合乳ノ製造及ヒ監督
ニ關係シ來リタル者ナリ

目的

本委員會ハ紐育牛乳委員會ニ依リテ組織セラレ且其ノ費用ハ同會ノ負擔スル所ナルモ、單ニ紐育市ノ牛乳
問題ヲノミ其ノ研究事項ト爲サ、ルヘカラスト爲スハ其ノ意向ニアラスシテ、合衆國或ハカナダノ如何ナ
ル市、町ニ於テモ、採用シ得ラル、カ如キ牛乳ノ標準及ヒ牛乳立法ニ關シテ提案ヲ爲サシムルコトニアル
ナリ

會議

委員會ノ第一回會議ハ千九百十一年ノ五月廿二日ニ、紐育醫學校内ニ開催セラレタリ。同會議ニ於ケル討
論ノ題目ハ、牛乳ニ關スル細菌標準、化學的標準、等級制、及ヒ其ノ分類ヲ包含セリ。上述討論ノ外、次
回ニ於テ、報告ノ任ニ當ラシムル爲メニ數名ノ委員ヲ指名シタリ

同會第二回會議ハ、千九百十一年十月五日及ヒ六日ニ、紐育醫學校ニ於テ開催セラレタリ

該會議ニ於テハ、常任委員ノ報告ヲ聽取シ、牛乳ノ細菌標準、化學標準、等級制及ヒ分類ニ關スル決議ヲ
爲シ、又特種事項ヲ研究スル爲メ特別委員ヲ指名セリ

委員會ハ牛乳ハ須ラク次ノ如ク分類スヘキヲ試驗的ニ提案シタリ

證明乳、検査乳、販賣乳、料理用乳

各々細菌標準ニ從フヲ要シ、且最後ノ二類ハ殺菌スルヲ要ス

千九百十二年一月四日ニハ、紐育衛生省ハ次ノ如キ牛乳ノ新分類ヲ規定シ以テ其ノ衛生法典ノ改正ヲ爲シ
タリ

一等乳、嬰兒及ヒ小兒用、(請合乳、保證乳、検査乳(生乳)及ヒ精選乳(殺菌セルモノ)ヲ含ム)

二等乳、大人用、(精選乳(生乳、殺菌乳)ヲ含ム)

三等乳、料理用、(生乳及ヒ殺菌乳ノ兩者ヲ含ム)

本等級制カ、二、三等乳ニハ何等細菌標準ヲ附セサリシコト、及ヒ各級ヲ通シテ生乳又ハ未殺菌乳ノ販賣
ヲ許容セルコトヲ除キテハ、牛乳ノ標準ニ關スル委員會ノ提案ニ幾分ノ參考ト爲レルコトハ看過スヘカラ
サル事柄ナリ。加之、紐育市ノ此ノ行動ハ牛乳問題上ニ於ケル長足ノ進歩ヲ語ルモノニシテ、且委員會ノ
事業カ實行上有望トナレルノ表示ナリト認メラレタリ

第一回報告

委員會ノ第三回會議ハ千九百十二年一月二十五日ヨリ二十七日マテ三日間開カレタリシカ其ノ會場ハ二十五日ニハ紐育市ホーマー、ニシテ、二十六、二十七ノ兩日ハ紐育醫學校ナリキ

該會議ニ於テハ、比較的重要ナラサル事項ヲ票決シ、且委員會ノ事業ニ關スル報告ヲ公表スル爲メノ準備ヲ爲シタリ

第一回報告ハ合衆國公衆衛生部ノ公衆衛生公報(千九百十二年五月十日發行第二十七卷第十九號)中ニ登載シ、七萬部ヲ頒布シタリ

委員會ノ第四回會議ハ千九百十二年十月二十九、卅、ノ兩日、即チ國民牛乳博覽會ノ當日ニシカゴ市ニ於テ開催セラレタリ。該會議ノ時ハ、國際牛乳商協會ノ年會ニ出席シ、合衆國及ヒカナタニ於ケル製乳者ノ代表者ト共ニ、牛乳ノ分類、及牛乳ノ標準ニ關スル討論ニ加入セリ

委員會ノ第五回會議ハ千九百十三年五月ノ二日及三日ノ兩日ニ、バーヂニア州リッチモンド市ニ開催セラレタリ。本會議ノ時マデニハ、既ニ第一回ノ假報告ノ公表アリタルカ故ニ、之ニ對スル幾多ノ批評及ヒ忠告ヲ得ルヲ得タリ、依ツテ本時ニ於テハ是等ヲ參考トスル便宜アリタリ

本會議ニ於テハ、牛乳ノ標準及ヒ等級ニ關シ次ノ如ク、幾分根本ニ觸レタル變更ヲ爲シタリ

一、牛乳ノ分類ニ關シテハ、其ノ等級ハ、一、二、三、ハ、文字ノミニテ之ヲ表示シ、請合、検査、精選等ノ

言葉ヲ用井ス

二、分類ハ次ノ如キ三級ノミニ變更セラレタリ

一號——二級ヨリ成ル、一ハツベルクリン検査ヲ受ケタル牝牛ヨリ、醫術的検査ヲ受ケタル雇人ニ依リテ搾取セラレタルモノニシテ、每立方糎十萬ノ細菌標準數ヲ有スル生乳ヲイヒ、他ハ殺菌乳ニシテ、其ノ殺菌前ニハ每立方糎十萬、殺菌後ニハ每立方糎一萬細菌標準數ヲ有スルモノヲイフ

二號——一級ヨリ成ル、其ノ殺菌前ニハ每立方糎ニ就キ百萬、殺菌後ニハ每立方糎五萬ノ細菌標準數ヲ有スルモノナリ

三號——一級ヨリ成ル、其ノ殺菌前ニハ每立方糎ニ就キ百萬以上、殺菌後ニハ每立方糎ニ就キ五萬ノ細菌標準數ヲ有スルモノトス

第二回報告

牛乳ノ標準ニ關スル委員會ノ第二回報告ハ、千九百十三年八月二十二日發行ノ合衆國公衆衛生部公衆衛生公報中ニ掲載シテ公表シタルカ、其ノ中ニハ上述ノ等級新制度モ含メリ。而シテ該報告ハ、千九百十三年ノ九月九日ヨリ同月十三日ニ至ル間、コロラド、スプリングスニ於テ開催セラレタル、亞米利加公衆衛生協會ノ年會ニ於テ是認セラレタリ

(千九百十四年一月一日ニハ、紐育市衛生課ハ其ノ等級制度ニ改正ヲ加ヘ、牛乳ノ標準ニ關スル委員會ノ

推薦ニ係ル新等級制度ニ大體ニ於テ一致スル様ニ爲セリ。本改正ニ尋テ、紐育州衛生省カ其ノ州ニ於ケル市、町ニ施行スルノ目的ヲ以テ等級制度ヲ制定スルノ舉アリ、是ヨリ稍後レテ、ニュー、デアーシイ州ノネワーク市、及デアーシイ市、バージニア州ノリッチモンド市、ミズリー州ノカンザス市、モ亦、全ク同一制度ニハアラサリシモ、等級制度ノ採用アリタリ。現今ニ於テハ、牛乳ノ等級制度ニ關シテハ州ノ衛生當局カ研究シツ、アルカ如ク、他ノ市區ニ於ケル公衆衛生當局モ亦之レカ研究ヲ爲シツ、アリ。

委員會ノ第六回會議ハ千九百十四年四月十三日ニ、紐育醫學校ニ開催セラレタリ。本會議ノ時ハ、「アイスクリーム」及ヒ牛酪ノ衛生性並細菌狀況ニ關シ、委員會自身カ、合衆國及ヒカナダノ諸方面ニ於テ、觀察シタル結果ニ關スル報告及ヒ其ノ時ノ製乳品ノ發表アリタルニヨリ特ニ法意ヲ喚起シタリ。

第七回會議ハ千九百十五年五月七日及ヒ八日ノ兩日ニ。ビルトモア旅館及ヒ紐育醫學校内ニ開催セラレタリ。此ノ時ハ、委員會ハ國民「アイスクリーム」商協會、國民煉乳及ヒ牛酪製造業者協會、國際牛乳販賣者協會ヲ含ム商業組織委員タル官吏ト會合セリ。本時ノ審議題目ハ、主トシテ牛酪、「アイスクリーム」及ヒ其ノ他ノ乳製品ニ關スルモノナリシガ、又保證乳及製乳検査所ノ監督ニ關スル問題ニ就キテモ審議シタリ。

本委員會ノ指名ニ係カル特別委員會ハ千九百十六年一月十七日ニ合衆國農務省化學局ニ依リテ選任セラレタル牛乳ノ定限及ヒ標準ニ關スル聯合委員會ト會合シタリシカ、其ノ目的ハ、牛乳ノ標準ニ關スル委員會

ノ事業ノ結果ヲ報告セシメ、以テ、各州ニ於ケル食料品委員、牛乳委員、農業化學者及ヒ合衆國農務省ノ各々ヲ代表セル牛乳ノ定限及標準ニ關スル聯合委員會ヲシテ、各州ヲ通シテ統一セル牛乳標準、細菌検査並ニ牛乳ノ衛生性ニ基ク等級制度ノ採用ニ賛成セシメントスルニ在リタリ。

第八回會議ハ千九百十六年五月十九、二十ノ兩日ニ、紐育醫學校内ニ開催セラレタリ。本會議ハ殊ニ有效ナルモノナリキ、何トナレハ、本委員會指名ノ常任委員カ、總會ニ先チ數週間、合衆國ノ諸方面ニ於テ、獨立ニ會議ヲ開キ非常ニ大ナル事業ヲ爲シタリ、而シテ此ノ準備的の事業ノ結果トシテ、各常任委員ハ其ノ研究項目ニ關スル最モ完全且廣範ナル報告ヲ齎シタレバナリ。

是等ノ研究項目ハ次ノ如キモノ包含ス

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1、「アイスクリーム」 | 2、牛酪 |
| 3、「コンデンスミルク」 | 4、小社會ニ對スル牛乳標準 |
| 5、細菌存在數ノ意義 | 6、製乳場設備成績表ノ要素 |
| 7、調和乳 | 8、清淨方法 |
| 9、殺菌 | 10、ツベルクリン検査 |
| 11、其ノ他比較的重要ナラサル事項 | |

本報告ハ全會期中ニ於テ委員會ノ決定シタル略式決議ニシテ、前回報告ニ代ハルヘキモノナリ

○市俄古市ノ公衆衛生行政

市俄古市衛生局ノ組織及行政ニ就テノ研究

合衆國ノ公衆衛生課ノ上席醫師

ゼー、シー、ペーリー氏述

市俄古市ノ文官委員會ノ有力ナル分課ハ衛生委員會ノ要求ニ應シテ、近頃當市衛生部ニ關スル大切ナル研究ヲ開始シタリ、而シテ此研究事業ノ尙ホ未タ左マテ進行セサルニ先ンシテ、衛生課ノ専門事業ト多少ノ關係ヲ有スルモノ、補助ヲ仰クコトノ必要ヲ感スルニ至レリ、乃チ合衆國公衆衛生課ニ向ツテ其補助ヲ受ケンコトヲ乞フコト、ナレリ、而シテ此委員會ノ事業ヲ補助センコトヲ申シ出テタル當局者ハ、之カ研究ニ従事スルコト四ヶ月間ノ長キニ亘リ、當ニ衛生課ノ種々ナル職責ヲ概括的ニ研究シタルノミナラス、各部局ニ於テ仕途ケラレタル職責如何ヲモ仔細ニ調査シタリシナリ

市俄古ノ衛生事業タルヤ衛生局ニ於テ之ヲ取り扱フコトナルカ、所謂ル一般ノ衛生行政ナルモノハ毫モ政事上ノ影響ヲ蒙ラサルナリ、而シテ衛生局ノ重モナル役員及其他同局ノ役員トシテ奉職スルモノハ、所謂ル文官トシテ任用セラル、モノ是レナリ、然レトモ茲ニ一ノ除外例ナクンハアラス、即チ衛生局ノ委員ナルモノ是レナリ、此委員ナルモノハ市會ノ助言及協賛ヲ得テ知事之ヲ任命シ、其任期ハ四ケ年ナリトス、

衛生局ハ其事務ヲ敏活ニ取り扱ヒ且ツ其範圍内ニ於テ諸種ノ職務ヲ充分ニ仕途ケシメンカ爲メニ左ノ數課ニ分チタリ

委員課

醫事視察課

病院、浴場及下宿屋取締課

衛生狀態視察課

生命統計課

實驗課

飲食物視察課

當市ハ其施政ノ行動ヲ敏活ナラシメンカ爲メニ之ヲ分割シテ左ノ區畫トナセリ

學校區

醫事視察區

海港檢疫官區

醫事監督視察區

飲食視察區

- 市牛乳視察區
- 料理店視察區
- 麵麩製造視察區
- 鉛業視察區
- 工場視察區
- 空氣流通視察區
- 告發區

委員課

衛生委員

職責ニ關スル命令 衛生委員ナルモノハ衛生局ノ責任アル長官ニシテ其報告スヘキ箇所ハ僅カニ知事アルノミ、而シテ衛生局ノ行動ニ就テハ最モ廣キ權能ヲ與ヘラレ、且ツ衛生事務ヲ料理センカ爲メニ發セラレタル命令ヲ實行スルニ就テハ充分ナル權能ヲ有スルモノナリ、抑モ衛生委員ノ重モナル職責如何ト云フニ衛生ニ關スル法令條規ヲ編成スルコト是レナリ、今マ其職責ノ重モナルモノ、其主トシテ司トル所ノ業務ノ概要ヲ舉クレハ左ノ如シ

衛生行政部即チ衛生局ヲ設立スル事、衛生委員ニ關スル規定ノ事、衛生委員ナルモノハ其地位局長タル

ヘキ事、醫事ヲ實行スルニ足ルヘキ正當ノ免狀ヲ有スル所ノ醫師タラサルヘカラス、而シテ市會ノ助言ト協賛トヲ經テ知事之ヲ任命センコトヲ要ス

此委員ナルモノハ市ノ衛生狀態ニ關スル監督ノ全權ヲ有シ、衛生局ヨリ發スル法令條規ハ皆ナ是レ其名ヲ以テセンコトヲ要ス

此委員ハ助手委員、書記、諸ロノ課長及其他必要ナル雇員ヲ任命スルコトヲ得ヘシ、蓋シ助手委員以下ノ役員ハ州ノ法律、市ノ條例等ニ依リテ定メラレタル職責ヲ實行スルノ任ニ當ルモノト知ルヘシ

市ノ衛生狀態ニ關スル法律條例及衛生局ヨリ發セラレタル規則ヲ實行セシムルハ皆是レ此委員ノ職責ナリトス

此委員ハ衛生狀態ヲ視察センカ爲メニハ何レノ時ト雖モ、或ル家屋内若クハ商店等ヘ入り込シテ差シ支ヘナキモノトス

彼レハ公衆衛生事務ニ關シテ知事及市會ヘ對シテ助言ヲ與ヘ且ツ報告ヲ爲シ、又タ傳染病發生ノ徑路ヲ調査シ其蔓延ヲ防止スルノ策ヲ取ランコトヲ要ス

彼レハ市立離隔病院ヲ管理シ又タ自カラ必要ト思惟シタランニハ、或ル疾病ノ豫防撲滅ニ關スル規則ヲ編成センコトヲ要ス

彼レハ年々市會ニ對シテ報告ヲ爲サンコトヲ要ス、所謂ル此報告ナルモノハ前年度中ニ於ケル衛生局ノ

事業成績はレナリ、之ニ加フルニ衛生局ノ行動ニシテ報告スルヲ適當ナリト思惟シタランニハ之ヲモ併セテ報告センコトヲ要ス、尙ホ其外社會一般ノ衛生状態ニ關シ或ハ疾病ノ豫防若クハ治療ニ關スル方策ニ就テ統計表及報告類ヲ公然出版スルノ權能ヲ有スルモノトス

而シテ此委員ノ職責トスル所ハ其性質二重ト云フヘキモノナリ、即チ(イ)直接ニ衛生局ノ行政上ニ關スル職責、(ロ)衛生局ト密接ノ關係ヲ有スル他ノ部局ノ委員ノ活動ニ關スル職責是レナリ

衛生機關ノ部員タルコト、今日ノ委員ナルモノハ市立結核療養所管理局ノ書記ニシテ、其療養所ノ建築設備、市俄古市ノ結核退治團體トハ最モ親密ノ關係ヲ有スルモノナリ、尙ホ此外此委員ノ協力補助スヘキ任務アリ、嬰兒健康保護局ノ一員トシテ行動スヘキコト是レナリ、又州ノ法律ニ從ツテ權能ヲ與ヘラレタル鉛工試験委員長ノ任務ヲ帶ヘリ、尙ホ市ノ塵芥取締局長ノ任務モ此委員ノ兼スル所タリ、蓋シ此塵芥取締局ナルモノハ總テ市ノ塵芥問題ニ關スル事柄ヲ研究調査シテ夫々適當ノ處分ヲ爲スヘキ所ナリ

風紀取締委員會々長モ亦是レ此委員ノ兼スル所タリ、抑モ此風紀取締委員會ナルモノハ社會ノ公德調査ト最モ密接ナル關係ヲ有スルモノニシテ、彼ノ舞踏所取締規則等ノ編成ハ皆ナ是レ此委員會ノ司トル所タラスンハアラス、又空氣交換視察委員會々長ノ任務モ此委員ノ負擔スル所タリ、而シテ此空氣交換視察委員會ハ如何ニシテ組織セラル、ヤト云フニ、其性質タルヤ半官半民トモ云フヘキモノニシテ、衛生局員、教育局員及專門協會々員等ヨリ組織セラル、モノトス、彼レハ亦ミシガン湖水委員會々長タリ、抑モ此湖水

委員會ナルモノハイリノ井ス、インジアナ、ウキスコンシン、ミシガン等ノ諸州及市俄古、ミルウォーキー一及グラント、ラピット等ノ諸市ヨリ派出シタル代表者ヨリ組織セラル、モノトス、而シテ此委員會ナルモノハ如何ナル事ヲ司トルヘキヤト云フニ、ミシガン湖ヨリ水ヲ引イテ諸州ノ州及市ニ供給スル事ニ就テ研究調査ヲ遂ケ、且ツ此給水ト關聯セル下水處分ノ當否ヲ講究スルコト是レナリ、尙ホ衛生委員ハ調理的郡病院顧問課等ノ一員タルヘキナリ

衛生委員ハ右ニ述ヘタルカ如ク諸州ノ團體ノ一員ナルカ故ニ、公私ヲ問ハス他ノ衛生團體ノ事業ト最モ親密ナル關係ヲ有シ、從ツテ社會ノ公衆衛生ヲ發達進歩セシムルニ益々都合宜シカルヘキナリ

助手衛生委員ノ事

助手衛生委員ナルモノハ文官ニシテ年俸四千五百弗ヲ給與セラル、モノトス
助手衛生委員ノ職責トスル所如何ト云フニ、概ネ左ノ如シ、曰ク衛生局ノ成シタル事業ニシテ其都度帳簿上ニ一々記載セラレタルヤ否ナヤヲ視察スル事、衛生委員ノ不在ナル時若クハ知事ヨリ命セラレタランニハ、自カラ衛生委員ノ職責ヲ遂行スルコトヲ得ヘシ

右ノ外衛生委員ヨリ衛生局全般ノ行政的職責ヲ帶ハシムルモノトス、衛生局全般ノ雇員ヲ監督シ、雇員ニ對シテ定マリタル休暇及疾病休暇ヲ與フル事、諸州ノ部課ヨリ要求シ來レル事ヲ検査シ或ハ其要求ヲ拒絕スル事、買入品ノ受領證ニ對シテ之カ代價ヲ仕拂フ事、他ト契約ヲ爲ス事、財産ノ管理ヲ爲ス事、衛生局

雇員ノ進退ニ關スル帳簿管理ノ事、學校及其他各種ノ團體ニ於テ衛生上ノ講話ヲ爲ス等是レナリ

書記

此書記ノ職責タルヤ社會ノ健康ヲ保持センカ爲メニ公衆ヲ教育シ、衛生局ニ於ル一週間ノ成績ヲ告示スル事、衛生事業ヲ日々新聞ニ記載スヘキ材料ヲ蒐集スル事、其他衛生ニ關スル事柄ヲ一枚摺若クハ一覽表トシテ之ヲ廣ク一般ニ知ラシムル等是レナリ

教育及公共事業

學問ヲ獎勵シテ一般ノ生活狀態ヲ改良シ衛生事業ヲ鼓吹シテ社會ノ有様ヲ進歩セシムル方法手段ハ蓋シ一ニシテ足ラサルナリ、幻燈映畫活動寫真等ヲ以テ人類ノ生活上衛生ノ如何ニ必要ナルカヲ示シ、而シテ一々精密ニ之カ説明ノ勞ヲ取リ、何人カ此説明ノ勞ヲ取レルヤト云フニ衛生委員、助手衛生委員、書記其他諸ロノ課長部長等其任ニ當レリ、之ニ加フルニ衛生展覽會ナルモノヲ開催シテ改良サレタル家屋ノ構造ヨリ飲食物ノ適否等ニ至ルマテ目前ニ容易ク理解セラル、樣設備整フテ個人衛生及公衆衛生ヲ進歩發達セシムヘキ方法手段ヲ取レリ

而シテ右ノ如キ展覽會ハ概ネ公立小學校内ニ開催シテ普ネク公衆ノ耳目ニ觸レンコトヲ勤メ、且ツ此學校ヨリ彼ノ學校ト其展覽場ヲ移轉シテ市内到ル所ノ人民ニ廣ク觀覽セシムルコト、セリ

衛生事項講習學校

此種ノ學校ノ創設セラレタルハ一千九百十七年ナリシカ、後漸次ニ進歩發達シテ一千九百十五年一月一日ヨリ大ナル規模ヲ以テ此學校ヲ開始スルニ至レリ、而シテ其學期ハ年二回之ヲ開始スルコト、セリ、即チ一八年ノ一月ニ開始シ今一ハ同シク七月ニ開始スルモノ是レナリ

凡ソ衛生局ノ見習生タラント欲スルモノハ衛生局ノ命令規定スル所ノ科目ヲ講習センコトヲ要ス、今マ其數者ヲ掲ケンニ衛生局ノ職務章程、其重モナル法令成規、衛生法違犯事項、斯ル違犯事項ヲ報告スルノ手續、傳染病取締法等是レナリ

又斯ル見習生タランモノハ衛生局ノ事業ヲ實地ニ適用スルノ方法ヲ取ラサルヘカラス、今マ其方法如何ト云フニ化學的及細菌學的標本ヲ蒐集シ以テ各種ノ建物ヲ造設シ、離隔所ノ適當ナル設備ヲ爲シ、或ル箇所ノ消毒法ヲ施行スルノ基礎ヲ定ムルカ如キ事是レナリ

衛生局ノ雇員タランモノハ其勤務上ノ行動ヲ取ルノ外或ル格段ナル技術ヲ研究シ、其研究シタル技術ニ就テ適當ナル試験ヲ受ケ、此試験ニ及第シタランニハ之カ免狀ヲ授與セラレ、モノトス

醫學生、看護人等ノ限ラレタル團體ニ對シテ公衆衛生事業中ノ或ル部分ヲ講習セシムヘキ設備ノアルアリ其科目ノ大要ヲ舉クレハ左ノ如シ

- (イ) 傳染病ノ管理法、之ヲ視察シ之ヲ報告シ之ヲ消毒スル事ヲモ此内ニ含マレタルモノト知ルヘシ
(ロ) 就學幼童ニ就テ醫學的視察ヲ爲ス事、實際ノ學修ノ有様、傳染病ノ存否ヲ視察スル事、身體上ノ缺

點如何ヲ視察スル等皆此内ニ含まレタルモノト知ルヘシ

- (ハ) 學童養育法 衛生視察官ヲ幫助スルニ就テノ職責、皮膚病ノ看護、學童外科的小負傷ノ注意、家庭訪問、適當ナル家庭ノ心得ニ就テ父兄ニ訓諭スルコト、學童ノ身體上違和ヲ生シタル場合之カ手當ヲ爲ス等ノ事モ此内ニ含まレタルモノト知ルヘシ

- (ニ) 傳染病 實布埤利亞、猩紅熱ニ罹リタルモノヲ看護スル事

- (ホ) 牛乳及水ノ検査ニ關スル實際ノ研究方法及臨床的診察法ニ就テノ訓誨

- (ヘ) 食物視察ノ事 肉類視察、牛乳製造所視察、殺菌裝置視察、化學的及細菌的標本蒐集ノ事等ヲモ此内ニ含まレタルモノト知ルヘシ

- (ト) 衛生的建築物視察ノ事 建物設計、鉛業、換氣法等ノ試驗ニ要スル建物等此内ニ含まレタルモノト知ルヘシ

- (チ) 死亡數ヲ蒐集シ之カ表ヲ調製スルニ就キ訓誨

尙ホ其他教授セラルヘキ科目ヲ舉レハ左ノ如シ、曰ク市立下宿屋、同公浴場ノ建設、取締等、塵芥處分ニ關スル總則及塵芥ヲ減少セシムヘキ計畫實行等はレナリ

右ノ外牛乳製造業者ニ對シテ一種ノ訓誨ヲ與ヘ、一般ノ教育ヲ熾ンナラシメテ以テ衛生狀態ヲ改良シ及人ノ健康ヲ保全センカ爲メニ或ハ講習ヲ爲シ或ハ展覽會ヲ開カン事ヲ要ス

衛生局ノ書記

此書記ノ身分ナルモノハ實際衛生局ノ事務取扱人ニ外ナラサルナリ、今マ其取扱フヘキ事務ノ重モナルモノヲ舉ケンニ、所要ノ物品ヲ適當ニ買ヒ整ヘ助手委員ノ調印シタル仕拂命令書ニ對シテ之ヲ仕拂フ事、時ニ或ハ仕拂命令書ヲ拒絕スルコトアリ、契約書ヲ保有シ或ハ何レカノ部局ヨリ要求ノ物品ヲ購入シテ夫々分配スルコト、履書記ヲ監督シテ適當ニ事務ヲ執ラシムル事、且ツ衛生局ノ事務ヲシテ一層正シクシテ敏活ニ取り扱ハシメント欲セハ各種ノ部課ヲ設ケテ夫々長官ヲ置キ其業務ヲ分擔セシメントヲ要ス

要求品 或ル部局ニ於テ或ル物品ノ必要ヲ感スル場合ニハ之ニ關スル正副二通ノ書面ヲ作り、其本書ヲ手元ニ留メ置キ副本ノ方ヲ助手委員ノ方ヘ回送センコトヲ要ス、助手委員之ヲ受ケタランニハ篤ト之ヲ調査シテ其品目數量ニ就テ何等カノ變更ヲ生スルヲ適當ト思惟シタランニハ、之ヲ變更シタル上ニテ矢張り正副二通ヲ認メ、其一ヲ物品購買掛ノ方ヘ廻送シ他ノ一ヲ要求シ來レル部局ヘ差シ戻サンコトヲ要ス、此場合ニハ勿論其變更シタルコトヲモ併セテ通知スヘキモノトス

物品購買ノ事 市ノ物品購買掛ハ各部局ヨリノ物品要求ヲ一纏メニシテ、金額五百弗以内ノ物品ヲ買入ル、コトヲ得ヘシ、若シ此金額以外ニ登ルト雖モ規定上買入ルヘキモノナランニハ、競争入札トシテ契約締結ノ上購入セサルヘカラス、又タ衛生委員ハ代價二百五十弗ヲ踰ヘサル程度ニテ痘苗及消毒藥ノ如キモノヲ購入スヘキ權能アルモノトス

商人及契約人ヨリ納付シタル物品ハ、皆是レヲ充分ニ検査センコトヲ要ス、若シ此検査ノ結果トシテ疑ハシキ點アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其物品ニ不都合ナル所ナシト證明セラル、マテ其支拂ヲ停止センコトヲ要ス、而シテ此等ノ物品ノ要求ヲ爲シタル部局ノ書記タランモノハ、彼ノ物品要求ノ副本ノ方ヘ物品ヲ受領シタルコトヲ證明センコトヲ要ス

時間證明ノ事 他ノ部局ニテ衛生局ノ仕事ヲ爲シタル場合アランニハ、之ニ從事シタル時間ヲ正確ニ證明シテ差シ出サンコトヲ要ス、又衛生局ノ雇員タランモノハ日々勤務シタル時間ノ幾干ナルヤヲ備付ノ帳簿ニ記入センコトヲ要ス、五日間内ニ此時間ニ就テ異論ナキ場合ハ正確ナルモノトス

俸給支拂簿 各部局ニ夫々俸給支拂簿ナルモノアリ、從前ハ衛生局全般ヲ通シテ只タ一冊ノ俸給支拂簿ナリシカ、僅カニ其一部分ニ誤謬アルモ一時全般ノ支拂ヲ中止スルノ不便之レアルコリ各部ニ於テ之ヲ備ヘ付ケルコト、ナレリ

而シテ此俸給支拂簿ナルモノハ局ノ書記ノ手元ニテ缺勤ノ有無如何ヲ取り調ヘタル結果、要求額ヲ正當ナルモノト見定メタランニハ、助手委員ニ於テ此支拂簿ノ副本ノ方ヘ調印センコトヲ要ス、而シテ一ノ謄本ハ文官委員會ノ方ヘ、他ノ一ハ會計検査官ノ方ヘ廻送スヘキモノトス、斯クテ支拂方ハ俸給受取ニ來ル個人ニ拂ヒ渡スヘク、其拂渡一ヶ月ニ二回ナリトス

資産ノ事 各部ノ長官タルモノハ其管理内ナル資産ニ對シテ自カ責任ヲ有スルモノニシテ、年四回其資産

ノ現在高ヲ其筋ヘ報告センコトヲ要ス、且ツ資産ノ増減ニ就テハ一々帳簿ニ記載スヘク、其報告シタル資産額ニ關シテハ適當ナル検査之レナキモノトス

然レトモ委員局ノ書記ハ諸ロノ部局ヨリ報告シ來レル資産額ノ正確ナルヤ否ナヤヲ調査スヘク、且ツ各部局ノ資産目錄ヲ作成スヘキモノナリ、又各部局ヨリノ物品要求、其購買方及夫々之ヲ分配スル等一々之ヲ帳簿ニ記載スヘキモノトス

書類綴込ノ事 委員局ニハ衛生局全般ニ關スル書類ノ綴込ナルモノアリ、之ヲ名ケテ中央書類綴込ト云フ時日ノ順序ニ從ツテ整頓シ置クヘキモノトス

訴訟ノ事 委員局ノ書記タランモノハ訴訟事件ニ就テ自カラ責任ヲ有スルモノトス、此訴訟事件ト云ヘルハ法令ニ違犯シタル者アルノ場合ニ於テ之ヲ裁判所ヘ提起スルモノ是レナリ、今其訴訟事件ノ取扱法如何ト云フニ各部局ノ爲メニ訴訟「カード」ヲ作成シ置キテ、事件ノ起リタル毎ニ正副二様ノ謄本ヲ作り其正本ノ方ニ或ル部局ノ番號ヲ付シテ、訴訟提起ノ爲メ助手辯護士ノ許ヘ送付シ、副本ノ方ハ特別ナル綴込ヘ綴リ込ムヘキモノトス、既ニシテ其訴訟事件カ裁判所ニ於テ審問セラル、ニ至リタランニハ、其審問ノ日時ト番號トヲ委員局ヘ通知センコトヲ要ス、委員局ノ書記之ヲ受ケタランニハ夫々「カード」ニ記入シテ一日瞭然タラシムヘキモノトス、此外委員局ノ書記ハ醫事視察局ノ行動ニ關スル違法事件ノ取調及證據收拾ヲ爲サン事ヲ要ス、斯クテ訴訟事件終結ヲ告ケタランニハ書記ハ其事件ノ概要ヲ記入シ置カンコトヲ要ス即

テ原告ノ申分相立ストカ或ハ爾カノノ罰金ニ處セラレタル如キ是レナリ、斯クノ如ク爲シ置キタランニハ訴訟事件ノ顛末一目ノ下ニ判然スヘキナリ

訴訟事件ノ起リシヨリ終結ニ至ルマテノ日子從來ハ甚タ多カリシモ、次第二改良シテ著シク減少スルニ至レリ、今マ實例ヲ擧ケテ之ヲ證センニ一千九百十二年始ノ於テハ、訴訟事件ノ起リシヨリ其終結(棄却若クハ罰金處分)ニ至ルマテノ日子平均二百二十二日ナリシナリ、訴訟事件ニ斯ル多クノ日子ヲ費シテハ其不便少ナカラサルヲ以テ之ヲ矯正スルノ方法ヲ案出スルニ至レリ、此ニ於テカ其日子大ニ減少スルコトヲ得タリ、一千九百十三年ニ至リテハ其平均日數減少シテ百二十二日トナリ、一千九百十四年ニ至リテハ訴訟事件ノ方法手續ヲ大ニ改良シタル結果トシテ尙ホ一層減少シテ九十一日トナレリ、抑モ衛生局ヨリ提起スル訴訟ノ件數ハ甚タ多キカ故ニ、其終結スルマテノ日數ヲ益々短縮スルノ必要ナル事ハ今更ニ云フヲ要サス、之ヲ短縮センニハ時ニ此訴訟事件ヲ受ケ負ハシムヘキ助手辯護士ニ依頼センコト然ルヘキナリ、斯ク爲シタランニハ訴訟事件ヲ一層早く終結セシムヘキ德義心ヲ養フノ一助トモナルヘキナリ

賜休ノ事 雇員ハ規則上一ヶ年間ニ二十四日ノ休日ト疾病ノ爲メ十五日ノ休日ヲ與ヘラル、モノトス、但シ病氣長引キタランニハ之カ爲メ二十九日(二者ヲ合セタルモノ)休日スルモ妨ケナキモノトス、缺勤僅ニ三日間ニ過キササルカ、若クハ疾病ノ爲メヨリ短カキ時日缺勤スル場合アラシカ、斯ル場合ニ於テハ何等ノ書面ヲ出スヲ要セス、毎朝電話ニテ疾病ノ爲メ本日出勤致シ難キ旨届ケ出レハ足ランノミ、然レトモ其病氣

缺勤カ三日以上ナランニハ凡ソ幾日位ニテ平癒スヘキカヲ證明スヘキ醫師ノ診斷書ヲ差シ出サ、ルヘカラス

三日間ノ疾病缺勤ト云ヘル内ニハ其實ノ疾病ニアラス畢竟スルニ口實ニ過キササルモノアリ、然レトモ其眞僞ヲ判別スルコト甚タ困難ナリ、各局部ノ長官ハ三日間ノ疾病ニ罹ル雇員ヲ白紙ニテ助手委員ニ報告スヘキナリ、今マ疾病届出ノ書類ヲ調査スルニ三日間ノ疾病ニ罹ルモノ甚タ多キコトヲ見出セリ、即チ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ缺勤届ヲ出セル一人ニ對シテ三日間ノ疾病ニ罹ルモノ八人ノ割合ニ當レリ、而シテ疾病缺勤届書ハ適當ノ様式アリ、醫師ノ診斷書ハ黄色ノ紙ニ認ムルコト、定メ、且ツ處分スヘキ事柄ヲ早ク判明セシメンカ爲メニ種々色變リノ紙ヲ用フルコト、シタリ、且ツ醫師ノ診斷書ハ毎日書キ替ヘルヘキモノニアラス、其平癒時期ノ如キハ患者自カラ定メテ報告スルカ如キコト往々ニシテ之レアリ、雇員中同時ニ疾病ニ罹ルモノ左マテ多カラサルヘケレハ、衛生局ノ職員ヲシテ雇員ノ疾病ニ罹ルモノヲ回診セシムルコト、センカ、右ノ如キ弊害ハ自カラ減少スヘキナリ

雇員ノ疾病報告ニ就テハ「カード」索引ノ設ケアリテ其報告アル毎ニ之ニ記入スルコト、ナリ居レリ、故ニ之ヲ見レハ規則上疾病缺勤ヲ許ル、日數ト其實際疾病缺勤報告ヲナシタル日數トヲ對照スルコトヲ得ヘキナリ、而シテ其缺勤報告日數ノ方カ規則上許サレタル日數ヨリ超過シタリトセンカ、此超過日數ニ對シテハ俸給ヲ支拂ハサルモノトス、又タ雇員ニシテ何等カノ變災ニ罹リテ負傷シタル場合アリトセンカ、斯ル

場合ハ於テハ其部局ノ長官ヨリ直チニ其旨報告センコトヲ要ス、其報告スヘキ要點ハ其時日、負傷ノ性質、其業務從事スルコト能ハサル豫定ノ期間等是レナリ
 任、務、ニ、堪、フ、ヘ、キ、資、格、報、告、ノ、事、新、タ、ニ、雇、員、タ、ラ、ン、ト、欲、ス、ル、モ、ノ、ハ、六、ヶ、月、間、見、習、生、ト、シ、テ、其、業、務、ニ、從、事、セ、シ、メ、ン、コ、ト、ヲ、要、ス、各、部、局、ノ、長、官、タ、ル、モ、ノ、ハ、毎、月、其、見、習、生、ノ、成、績、如、何、ヲ、視、察、ス、ヘ、キ、モ、ノ、ト、ス、而、シ、テ、其、見、習、生、ノ、成、績、ヲ、報、告、セ、ン、ニ、ハ、左、ノ、如、キ、科、目、ヲ、必、要、ナ、リ、ト、ス、曰、ク、衛、生、事、務、全、般、ニ、對、ス、ル、注、意、ノ、事、規、則、法、令、ニ、注、意、ス、ル、事、敏、活、精、勵、謹、直、正、實、其、他、衛、生、事、務、ノ、概、括、若、ク、ハ、特、種、ノ、技、能、及、疾、病、缺、勤、日、數、等、是、レ、ナ、リ、又、新、雇、員、ノ、見、習、期、間、中、ハ、衛、生、事、務、講、修、學、校、ニ、於、テ、規、定、ノ、科、目、ヲ、講、習、シ、其、科、目、ニ、就、テ、ハ、充、分、ノ、試、驗、ヲ、受、ケ、サ、ル、ヘ、カ、ラ、ス、而、シ、テ、永、久、ニ、衛、生、局、ニ、勤、務、セ、ン、ト、欲、ス、ル、モ、ノ、ハ、其、試、驗、成、績、各、科、目、ニ、就、テ、八、〇、%、ノ、得、點、ナ、カ、ル、ヘ、カ、ラ、ス

若シ右ノ試験成績不十分ナランニハ採用スルノ限リニアラス、然レトモ其成績良好ニシテ一タヒ任命サレタランニハ、何等カノ原因アルニアラサレハ免職ノ憂ヒナキモノトス

各部局ノ長官タルモノハ毎月報告書ヲ呈出センコトヲ要ス、今其報告書中ニ記載スヘキ重モナル事項ヲ舉ケンニ、部署ニ於ル雇員ノ概括的能力是レナリ、勿論特別ナル分科ノ職責ニ對スル能力ノ平均點モ此内ニ加ハルヘキモノト知ルヘシ

助手委員ノ許ニハ雇員ニ關スル「カード」索引ナルモノ備ヘ付ケアリテ其能力等一々記入セラル、モノナリ

苟クモ衛生局ニ勤績セント欲スルモノハ此「カード」索引ニ記載セラル、能力平均點八〇%ナランコトヲ要ス

委員局ノ組織ハ完全セルモノニシテ其執務上秩序能ク立ち居レリ

文 庫

委員局ト相關聯シタル一ノ貸出文庫ナルモノアリ、其藏書殆ント一千卷ニ達シ、尙ホ其外醫事及衛生ニ關スル定期刊行ノ雜誌四十種ニ及ヘリ、衛生局ノ雇員ニシテ其特別ノ職務上參考トシテ右文庫ノ或ル書籍若クハ雜誌ヲ閱覽セント欲スル場合ニハ之ヲ借り受ルコトヲ得ヘシ、但シ之ヲ借覽センニハ借受「カード」ニ調印スヘク、既ニ調印シテ借受ケタル以上ハ其書籍ノ紛失等ノ場合ニハ相當代價ヲ辨償センコトヲ要ス又各部局ノ長官及衛生局構内ニ住居スル其他ノモノモ所要ノ雜誌ヲ借覽スルコトヲ得ヘク、借覽スル場合ニハ前同様借受「カード」ニ調印セン事ヲ要ス

月次會ノ事 衛生委員及助手委員ハ部局ノ長官ト共ニ月次會ナルモノヲ開催スヘキモノトス、蓋シ月次會ハ其名ノ如ク毎月開クヘキモノニシテ其議題トスル所ハ衛生局ノ利害得失ニ關スル時事問題ヲ討論商議スルコト是レナリ、而シテ各部局ノ長官ハ斯ル問題ニ關スル意見ノ概要ヲ書面ニ認メテ此席上ニテ朗讀スヘキモノトス

會計上ノ表示

一千九百十四年ノ經費

委員局、俸給

三萬二千六百二十弗

醫事視察局、俸給

三十二萬一千九百四十弗

病院、浴場及下宿屋取締局

行政部ノ俸給

八千三百四十弗

傳染病院ノ俸給

四萬五千四百四十二弗

修繕及改良費

二千四百弗

隔離病院費

六千八百二十弗

イロキニイラス紀念病院費

六千五百四十弗

市立下宿屋俸給、(物品供給及修繕二千弗ヲ含ム)

一萬五千四百六十弗

公浴場費

三萬六千二百五十六弗

總計

十二萬一千二百五十八弗

人命統計局費

二萬三千百五十五弗

食物視察局費

十三萬四千四百六十弗

衛生狀態視察局費

十五萬八千五百六十四弗

研究室費

三萬四千百五十五弗

物品供給費等

十七萬八千五百弗

衛生局本部總費額

九十九萬七千二弗

試驗局ノ俸給

八千五百九十二弗

廢棄物處分ニ關スルモノ

四萬三千弗

市街改良、俸給、物品供給費

三十五萬弗

塵芥減少計畫、第三十九街ノ購入額

十八萬五千弗

修繕費

二十七萬六千四百四十二弗、五〇

行動及維持費

二百萬弗

三種ノ追加計畫、敷地ノ買入及建築費

百〇五萬四千四百四十二弗、五〇

小計

二百〇五萬四千七百三十六弗、五〇

合計

建築ニ就テ

〔衛生局建築公債ノ中ヨリ仕拂フヘキモノ〕

	一千九百十四年	一千九百十五年
第十六區ノ浴場費……………	四千七百八十八弗、九八	十五弗、二五
知事ノ浴場費……………	九千五百一十一弗、一六	三千四百十九弗、九六
第十九區ノ浴場及設備費……………	二萬弗	五萬弗
第十五區ノ浴場費……………	一萬七千五百弗	四萬弗
第五區ノ浴場費……………	二萬三千二百五十弗、九七	六千七百廿四弗、六二
傳染病院費……………	二十九萬二千七百廿四弗、八四	五十六萬一千三百五十三弗、八五
第十二區ノ浴場費……………	……………	三萬五千弗
南市俄古ノ浴場費……………	……………	三萬五千弗
市立下宿屋費……………	……………	十二萬三千九百廿三弗、八五
總計	三十六萬七千七百七十五弗、九五	八十五萬五千四百卅七弗、五四

一千九百十五年ノ經費

委員局ノ俸給

五萬九百二十弗

醫事視察局ノ俸給

三十四萬一千四百四十弗

病院、浴場、下宿屋取締局

行政部ノ俸給

九千六十弗

傳染病院ノ俸給

四萬四千七百二十四弗

隔離病院費

六千九百二十弗

イロキョヲイス紀念病院

七千四百八十弗

市立下宿屋

俸給

九千八十弗

諸雜費

二萬二千四百弗

公浴場費

三萬七千五百七十六弗

人命統計局費

二萬四千二百二十弗

食物視察局費

十四萬三百四十弗

衛生狀態視察局費

十六萬四千八百六十四弗

研究室費

三萬九千三百六十弗

物品供給費

十六萬三百弗

一七八

衛生局本部總費額

百五萬八千六百八十四弗

倫理委員會、俸給雜費

八千六百八十弗

塵芥處分課

行政部俸給

一萬四千八百五十弗

實務部諸費

一萬弗

塵芥減少部

俸給

廿一萬八千九百七十弗

物品購入費

十二萬二百弗

改築及設備

卅八萬五千五百弗

運送及處分ニ就テノ設備

七萬五千弗

火葬場、第九十五街

俸給

三萬二千七百五十四弗、六七

物品購入費

一萬二百弗

建築及設備費

十七萬弗

未拂手形

八千四百五十五弗、一七

ブース、ア井ランド火葬場建設費

七萬五千弗

ブラ井ドウエル火葬場修繕、未拂手形

五千六百六弗、二五

合計

二百十八萬九千四百六十弗、〇九

手形ヨリ拂ヒ戻サルヘキ金額

七十萬弗

總計

百四十八萬九千四百弗、〇九

醫事視察局

本局ノ職責トスル所ハ市衛生局ノ職責中恐ラクハ最モ重要ナルモノナラン、而シテ衛生局ノ第一ノ官能如何ト云フニ、傳染病ノ取締即チ傳染病ヲ撲滅シ、其蔓延ヲ豫防スルカ如キコト是レナリ、事既ニ斯クノ如クナルカ故ニ衛生局ノ行動ハ一般公衆ト最モ親密ナル關係ヲ有シ且ツ斯ル病魔退治ニ就テ奮闘スル熟練ト迅速トハ最モ世人ノ重キヲ置ク所ナリ

抑モ醫事視察局ナルモノハ人員ノ點ニ於テモ經費ノ點ニ於テモ衛生局中最モ大ナルモノナリ、醫事視察ノ

業務タルヤ日々全市ニ亘ルヘキモノナルカ故ニ其雇人ノ如キモ亦從ツテ多カラサルヘカラス
 組織 本局ノ業務ヲ適當ニ實行シ且ツ其行政ヲ圓滑ニ進行セシメンカ爲メニ自カラ分課ノ必要ナクンバア
 ラス、乃チ局務ヲ分チテ三課トナスヘキナリ、曰ク傳染病課、書記課、小兒衛生課是レナリ、而シテ當醫
 事視察局ハ局長ノ監督ノ下ニアルヘク、書記課ハ書記長之ヲ監督シ他ノ二課ハ局長助手ノ任務ニ屬スヘキ
 モノトス

今簡單ニ之ヲ言ハンニ本局ヨリ發スル所ノ命令條件殊ニ傳染病ノ報告及取締法ノ概要ヲ舉クレハ左ノ如
 シ

衛生委員ナルモノハ左記ノ如キ事柄ニ最モ注意ヲ拂ハンコトヲ要ス、曰ク傳染病患者ト報告セラレタル
 者ハ適當ニ検査サレ且ツ適當ナル病院ニ送致サレタルヤ、適當ナル看護婦及醫師ノ診療等能ク行届キ居
 ルヤ否ヤニ注意スル事是レナリ

衛生委員ハ此外斯ル患者ヲ離隔シテ検査法ヲ嚴重ニ遵守シタルカヲ視察シ、患者發生ノ家屋ニ其發生シ
 タル事ヲ標榜スヘク、此標榜ヲ取り去リタルモノハ罰金ニ處センコトヲ要ス

醫師ニシテ左ニ記載セル疾病ニ罹レル者ヲ診斷シタル場合ニハ、一々二十四時間以内ニ衛生委員ノ許ヘ
 届ケ出テサルヘカラス、曰ク虎列拉、黃熱、猩紅熱、實布埤里亞、痘瘡、實布斯熱、腸實布斯、麻疹、
 耳腺炎、日耳曼麻疹、小兒麻痺症、腦脊髓膜炎、肺病、結核病、丹毒、眼炎、狂犬病、產褥敗血病等是

レナリ

生兒若クハ生後一週間ノ嬰兒ニ關係スル各醫師、産婆、看護婦タランモノ其嬰兒ノ眼病ニ罹レルコトヲ
 見出シタランニハ、二十四時間以内ニ委員ノ許ヘ届出テン事ヲ要ス

獸醫若クハ其他ノ者カ犬或ハ其他ノ動物ノ狂水病ニ罹レルコトヲ見出シタランニハ、其犬ノ居所及免許
 番號等ト共ニ直チニ其旨委員ノ許ヘ届ケ出テサルヘカラス

何人ニ限ラス傳染病ニ罹レル者アルヲ知リタランニハ直チニ其旨委員ノ許ヘ届出テサルヘカラス、殊ニ
 公立ト私立トヲ問ハス旅館、下宿屋等ノ管理人ニ對シテ斯ル患者ノ發生シタル場合必ラス之カ届出ヲ怠
 ルヘカラサル旨命令セン事ヲ要ス

市内居住ノ者ハ何人ト雖モ委員ノ許可ナキ以上ハ傳染病患者ヲ他ヘ移スコトヲ得ス、又タ精神病ニ罹レ
 ル者ハ市、郡若クハ州ノ掛官ノ手ヲ經ルニアラスンハ之ヲ他ニ移スコトヲ得ス

傳染病毒ニ感染シ家什器具等ハ之ヲ消毒セサレハ之ヲ他ニ移ス事ヲ得ス

委員若クハ其筋ヨリ任命サレタル衛生掛官等ハ痘瘡流行ニ際シテ種痘ヲ爲スノ目的ヲ以テ、或ル下宿屋、
 寄宿舎、工場若クハ學校等ヘ入り込ムヘキ權能ヲ有スルモノトス

委員ハ種痘ヲ願ヒ出ル者ニ夫々種痘ヲ施サンカ爲メニ兼テ充分ノ痘苗ヲ貯ヘ置カンコトヲ要ス

委員ハ傳染病患者ノ發生シタル家屋ヲ消毒セシムヘク、又タ交通ヲ遮斷スヘキ權能ヲ有ス

傳染病ノ視察調査(此内ニハ個人ノ患者及檢疫本部等ヲモ含ム)ヲ最モ迅速ニ爲サンカ爲メニ、全市ヲ左ノ如ク區分セリ、曰ク衛生官視察區五十ヶ所、監督醫師視察區八ヶ所、檢疫官視察區二十五ヶ所是レナリ、斯ク夫々區分セラレタル管轄區ニ使用セラレ、役員ノ職責任務ナルモノハ、衛生局ノ諸規則定例綴込ノ内ニ明記シアルモノト知ルヘシ

衛生官

衛生官視察區ノ役員ハ總計五十五名アリ、是レハ視察區五十ヶ所ニ就テ一ヶ所ニ一人ツ、ノ割合トシテ、外ニ臨時用務ヲ見越シテ更ニ五名ヲ加ヘタルモノナリ、而シテ此等ノ役員ハ終日視察ニ従事スヘキモノニアラス、即チ一日ニ就テ三時間若クハヨリ以上ノ時間ヲ要セラル、コトアリ、又彼等ハ常ニ衛生局ト聯絡ヲ保タサルヘカラス、又臨時或ル時間ニ呼ヒ出サレテ或ル任務ニ就クコトアリ、此等ノ役員ハ無論其管轄區内ニ於ル傳染病視察ニ關スル責任アルモノト知ルヘシ

此等ノ役員ノ通常ノ職責ハ二重ナルモノナリ、醫師ヨリ報告シタル傳染病患者ヲ視察スル事、檢疫機關及其他ノモノヨリ報告シタル類似患者ヲ調査スル事、斯ル患者ヲ適當ニ隔離スル事、此等ノ患者ニ看護人ヲ附スル事、斯ル患者ノ家族ニ對シテ病毒蔓延ノ豫防法其他患者ノ排泄物ノ消毒處分法ニ關シテ適當ノ注意

ヲ與フル事、檢疫官ニ向ツテ訓諭「カード」ヲ與フル事、傳染病流行ニ際シテ小學校及日曜學校等ヘ休校スヘキ主意ヲ説明スヘキ事、牛乳屋ニ注意スル事、實布埤里亞、猩紅熱、室扶斯熱、小兒麻痺症等ノ發生スル場合ニハ、斯ル疾病ニ關スル心得書ナルモノヲ調製シテ之ヲ流行區域ノ戸毎ニ配賦スヘキ事、此外實布埤里亞、猩紅熱、麻疹、百日咳等ノ内何レカ一ツ發生シタランニハ、同シク之カ心得書ナルモノヲ配付スル等皆ナ是レ衛生官ノ司トルヘキモノトス

檢疫規則

痘瘡患者ハ隔離病院ヘ送ラサルヘカラス、又實布埤里亞及猩紅熱ニ罹リタルモノニシテ其家庭内ニ於テ隔離スルコト能ハサル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ出來得ヘクンハ此等ノ患者ヲ收容スヘキ病院ニ送付センコトヲ要ス

所謂隔離處分ナルモノハ「公衆ヲ外ニシ」、「患者ヲ内ニス」ノ意義ニ外ナラサルナリ、茲ニ衛生局ハ一千九百十四年ニ於テ檢疫處分法ヲ分チテ、イ、ロ、ハノ三種トセリ、左ノ如シ

イ、熱、練、セル、附、添、人、ト、共、ニ、隔、隔、ス、ル、事、一室内若クハヨリ多クノ室内ニ患者及附添人ヲ隔離スルノ設備充分ニ整頓シ、患者及附添人ニ供給スヘキ食物其他ノ必要品カ、附添人ノ手ヲ煩ハサスシテ他ヨリ供給セラレ、且ツ其室内ノ器具其他ノ物品ハ消毒セラル、ニアラスンハ室外ニ運ヒ出サ、ル様ニナリ居ルトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其患者ノ家族ハ何タル制裁ナク自由ニ出入スルコトヲ得ヘキナ

リ、又一旦幼童ニシテ隔離サレタランニハ小學校、日曜學校、其他ノ集會所へ行クコトヲ得ス、其他交通機關ヲ利用スルコト能ハサルモノトス、又小學校ノ教師及牛乳取扱人ハ右ノ如キ隔離所ニ入り込ムコトヲ得ス

患者及附添人ノ爲メニ設ケラレタル隔離所ノ入口ニハ『患者及附添人ノ外入ルヲ禁ス』ノ張紙ヲ爲シ置カンコトヲ要ス、又其附添人カ其室ヲ立チ去ラントスル場合ニハ其顔ト手トヲ能ク洗ヒ其上衣ヲ脱カサルヘカラス

ロ、家族中ノ或ルモノ若クハ附添人タル其他ノモノト共ニ隔離セラレ、事 或ル事情ノ爲メ若クハ會計上ノ爲メ特ニ熟練ナル附添人ヲ得ルコト能ハサル場合アラシカ、斯ル場合ニ於テハ家族中ノ或ルモノヲ附添人ト定メテ患者ト共ニ設ケラレタル隔離室ニ在ランコトヲ要ス、而シテ此等ノ附添人タルモノハイナル檢疫法ノ下ニ特記セラレタル隔離上ニ關スル諸規則ヲ遵守セサルヘカラス、又タ家族中ノ其他ノモノト雖モ此等ノ諸規則ヲ遵守シタランニハ患者ヲ音信ル、コトヲ許サルヘシ、然レトモ苟クモ附添人タランモノハイナル檢疫法ヲ堅ク遵守シタル上ニテ、衛生局ヨリ特ニ許可セラレサル以上ハ隔離室ヲ立チ去ルコトヲ得ス

ハ、隔離シ難キ場合ノ事 或ル室ヲ患者ノ専用トシテ隔離スルコト能ハサル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ出來得ヘキ丈ケ病院ノ組織ニ近キ様諸設備ヲ爲サンコトヲ要ス、若シ又斯ル設備ノ實行

スルコト能ハサル場合ニハ、斯ル家屋ノ交通ヲ遮斷セサルヘカラス、即チ此家屋内ニ居ルモノハ外出シテ他ノ人ニ接スルコトヲ得ス、又他ヨリ此家屋内ニ音信レ來ルコトヲ得サル是レナリ、而シテ斯ル状態ハ傳染病ノ全ク終熄スルマテ繼續スルモノト知ルヘシ、然レトモ患者ノ居室カ全ク封鎖セラレテ其家族ノモノト接觸スルコト曾テ之レナシトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其家族中働キテ賃銀ヲ取ルモノハ他ト交通ヲ許サル、モノトス

苟クモ衛生官ニシテ檢疫隔離法ヲ設ケタランニハ左ノ如キ行動ヲ取ランコトヲ要ス、曰ク隔離サレタル患者ノ附添人若クハ隔離法ノ行ハレサル場合ニ於テ患者ノ家族中責任アルモノニ對シテ、檢疫隔離法ニ關スル訓諭書ヲ與フルコト是レナリ、今此訓諭書ノ内容如何ト云フニ消毒法、患者ノ排泄物處分法、患者ノ使用ニ供シタル器物、患者ノ居室ニ在ル所ノ諸物品ノ處分法、其他病毒傳播ノ豫防法ニ必要ナル注意等ニ關スルモノト知ルヘシ、尙ホ此外衛生官ハ最モ注意ヲ密ニシテ附添人ニ訓諭スル所アルヘク、又患者看護ノ勞ニ服スル家族中ノ或ル者ニ對シテ病毒蔓延ノ危険ヲナルヘク減少セシムルノ方法等ヲ教諭センコトヲ要ス

衛生官カハナル檢疫法ニ就テ報告ヲ爲サント欲スル場合ニハ、成ルヘク詳カニ實際ノ有様ヲ報告セシムルコトヲ要ス、例之ヘハ實布埜里亞、猩紅熱、痘瘡、室布斯熱等ノ發生シタル場合ニ於テ牛乳屋ヨリ供給スル牛乳ノ良否、患者ノ就學セル學校等ニ關スル調査ノ如キモノ是レナリ

傳染病ニ關スル檢疫離隔法ヲ秩序的ニ且ツ充分ニ監督センカ爲メニ、市俄古市ヲ二十五ノ檢疫官管轄區ニ分チテ一區ニ就キテ一名ツ、ノ檢疫官ヲ置クコト、セリ

凡ソ檢疫離隔ノ事ヲ司トル所ノ役員ノ職責トスル所如何ト云フニ、衛生官ノ編成シタル檢疫法ニ從ツテ諸種ノ傳染病ヲ視察監督スルコト是レナリ、今其職責中ノ重モナルモノヲ掲ゲンニ(イ)項ノ規則ニ從ツテハ發病當時最初ノ視察ヲ爲サンコトヲ要シ、其他ノ檢疫規則ニ從フ時ハ出來得ヘクンハ日々視察スヘク、若クハ其職責ノ許ス限リ數々視察センコトヲ要ス、而シテ其視察ニ際シテハ主トシテ如何ナルコトニ注目スヘキヤト云フニ、患者ノ排泄物ノ消毒處分及患者ノ使用シタル物品器什等ノ消毒法如何、其他室内ヲ清潔ナラシムルニ熱湯石鹼等ヲ用ヒテ能ク行キ届キ居ルヤ、空氣ノ流通日光ノ射入等果シテ適當ナルヤ否ナヤヲ視察スル事是レナリ、中ニ就テ檢疫官ノ最深ク注意ヲ要スヘキ事項ハ消毒法是レナリ
檢疫官專ラ其事務ニ從ヒ他ノ業務ニ從事スルヲ許サス

醫 事 監 督 官

醫事監督官ノ管轄區ハ八區ヨリ成レルモノナリ、即チ全市ヲ八管轄區ニ分チタルモノ是レナリ、而シテ一監督官ノ下ニ六名ノ衛生官ト三名ノ檢疫官隸屬セリ、而シテ此等ノ役員ハ其受持區内ニ於テ傳染病ノ發生

スルト均シク仔細ニ之ヲ調査シテ其筋へ報告シ、且ツ成規ノ行動ヲ取ランコトヲ要ス、抑モ醫事監督官ハ總數九名アリテ概ネ皆ナ醫事監督ヲ專業トナシ他ノ業ニ從事スルヲ許サス、其受持ノ區域ニ關シテ自カラ責任ナクンハアルヘカラス、而シテ第九ニ當レル監督官ハ日々時間ノ全部ヲ提供シテ其事務ヲ取ルヘキモノニアラス、一日ノ中僅カニ幾時間カ事務所ニ在リテ其業務ニ從フヘキモノトス、然レトモ常ニ其事務所ト管轄區トノ間ノ絡聯ヲ保チ何等カ或ル格段ナル調査事件ヲ擔任シ、其調査シタル結果ヲ直チニ報告スルカ如キハ其重モニ司トル所ナリト知ルヘシ

醫事監督官ハ衛生官及檢疫官ノ行動如何ヲ視察シ、且ツ其部下ノ者ノ勤惰如何ヲ調査スル任務ヲ帶ヘルモノナルカ、尙ホ其外左ノ如キ事ヲモ調査スヘキ任務アルモノトス、曰ク痘瘡ノ疑ハシキモノヲ調査スル事診斷上彼レ此レ爭論ノ起リタル疾病ノ再調査ヲ行フコト、窒扶斯熱、實布埤里亞及猩紅熱等ノ地方流行病ノ原因ヲ調査スル事、老練ナル智識ヲ要スヘキ傳染病ニ關スル特別ノ調査ヲ爲ス事、插管法ヲ行フ事、其部下ニ屬スル衛生官及種痘醫等ニ對シテ訓諭ヲ與フル事等是レナリ

醫事視察官タルモノハ其管轄區内ニアルノ場合ハ常ニ衛生局ト聯絡ヲ保チテ、二時間毎ニ電話ニテ新タニ調査スヘキ事件ノアリヤナシヤヲ問ヒ合センコトヲ要ス、彼等ハ晝夜ヲ論セス何レノ時ト雖モ召喚ニ應ゼサルヘカラス、又ターケ月間ニ一回各種ノ物品調達所ヲ視察シテ報告「カード」、培養管等不足ナク調達シアルヤ否ナヤヲ見届ケル事、其他少ナクモ一ヶ月間ニ一回警察署ノ解剖器カ充分ニ行動シ居ルヤ否ナヤヲ

視察セシコトヲ要ス

死亡取扱ニ關スル檢疫法

傳染病患者ノ死亡シタル場合ニ於テ之ヲ取扱フヘキ方法ハ豫防法上最モ大切ノ事ト云ハサルヘカラス、是レ他ナシ若シ其方法宜シキヲ得ザランカ、其病毒傳播ノ虞ナクンハアラス、故ニ其病毒ノ傳播セサル様深ク注意スル所ナカルヘカラス、殊ニ其死亡患者ニ接近シタル者ハ其病毒ニ感染シ易キヲ以テ其死者取扱ノ場合ニ於テ注意ヲ怠ルヘカラス

一千九百十四年ニ於テ衛生局ヨリ發布シタル三項ノ檢疫法ハ最モ有益ナルモノナリ、殊ニ(い)項及(ろ)項ノ規定ニ至リテハ至レリト謂フヘキナリ、此寬嚴其宜シキヲ得タル檢疫法實行上ヨリ生シタル結果ヲ調査シ、而シテ委員ハ近キ頃此主意ニ關スル統計表ヲ發表シタリ、今マ左ニ掲クル所ノ表ハ右委員ノ發表シタル事實及衛生局カ一千九百十五年一月末マテニ調査シタル他ノ事柄ヲモ追加セルモノ是レナリ、此表ハ適當ナル離隔法ヲ要スヘキ最モ重要ナル二種ノ傳染病ヲ含メルモノト知ルヘシ

猩 紅 熱

檢疫法『い』	患者	感受者	觸接患者	百分比例
--------	----	-----	------	------

一千九百十五年一月一日ヨリ以前
一千九百十五年一月

共 計

檢疫法『ろ』

一千九百十五年一月一日ヨリ以前
一千九百十五年一月

共 計

檢疫法『は』

一千九百十五年一月一日ヨリ以前
一千九百十五年一月

共 計

入院法、一

一千九百十五年一月一日ヨリ以前
一千九百十五年一月

共 計

一千九百十五年一月一日ヨリ以前	一一七	一九八	一	〇・八五
一千九百十五年一月	三二二	七一	一	〇・六七
共 計	一四九	二六九	一	
檢疫法『ろ』	三六五	四四五	一六	四・三八
一千九百十五年一月一日ヨリ以前	三一	六一	一	
一千九百十五年一月	三九六	五〇六	一六	四・二六
共 計	三九六	五〇六	一六	
檢疫法『は』	一、一八九	一、九五二	七一	五・九六
一千九百十五年一月一日ヨリ以前	一一二	一八二	一〇	八・二
一千九百十五年一月	一、三一一	二、一三四	八一	六一七
共 計	一、三一一	二、一三四	八一	
入院法、一	四六〇	四一七	一〇	二・三九
一千九百十五年一月一日ヨリ以前	四七	七一	一	
一千九百十五年一月	五〇七	四八八	一〇	一・九七
共 計	五〇七	四八八	一〇	

實布埤里亞

検査法『い』		検査法『ろ』		検査法『は』		入院シタル者		共計	
一千九百十五年一月一日ヨリ以前	二〇四	七九二	二、二七九	六、二七九	〇・九一	一千九百十五年一月一日ヨリ以前	二、二七九	六、二七九	〇・九一
一千九百十五年一月	三八	六七	六八	六八	〇・八六	一千九百十五年一月一日ヨリ以前	二、三三七	六、三三七	〇・八六
共計	二四二	八五九	六八	六八	〇・八六	共計	二、三三七	六、三三七	〇・八六
検査法『ろ』	六五五	二、二七九	六八	六八	〇・九一	検査法『は』	六九四	二、三三七	〇・八六
一千九百十五年一月一日ヨリ以前	三九	六八	六八	六八	〇・九一	一千九百十五年一月一日ヨリ以前	二、三三七	六、三三七	〇・八六
一千九百十五年一月	三九	六八	六八	六八	〇・九一	共計	二、三三七	六、三三七	〇・八六
共計	六九四	二、三三七	六八	六八	〇・八六	共計	二、三三七	六、三三七	〇・八六
検査法『は』	二、九九四	一一、六二七	一一、二七	一一、二七	四・二四	入院シタル者	七一一	二、一一六	〇・一四
一千九百十五年一月一日ヨリ以前	三四一	六二六	一九	一九	五・五七	一千九百十五年一月一日ヨリ以前	七三	二六	〇・一四
一千九百十五年一月	三、三三五	一一、二五三	一九	一九	五・五七	共計	七三	二六	〇・一四
共計	三、三三五	一一、二五三	一九	一九	五・五七	共計	七三	二六	〇・一四
共計	七八四	二、三三七	一九	一九	〇・一三	共計	七八四	二、三三七	〇・一三

患者ノ減少、右ニ掲ケタル表ニ據レハ患者ノ數ノ著シク減少シタルヲ見ルヘキナリ

一、(い)項ノ検査法ハ傳染病蔓延ヲ豫防スルノ効果最モ著シキ結果ヲ生セシメタルモノナリ、乃チ傳染病患者ノ入院費用嵩ムト云ヘル異論ヲ打チ消スニ足ルヘキナリ

二、(ろ)項ノ検査法ハ爾カノノ結果アルヘシト豫想サレタルヨリ以上ノ好結果ヲ示シタルモノナリ、蓋シ衛生官及検査官ノ教育的訓諭ノ結果ニ外ナラサルナリ、而シテ猩紅熱ノ接觸的患者ノ百分比例ヲ調査セシニ左ノ如キ事實ヲ見ルヘキナリ、曰ク此検査法施行ノ當初ニ於テハ斯ル患者ノ發生スルコト甚ハタ多カリシモ、最近三ヶ月ニ於テハ更ニ斯ル患者發生セサリシナリ、斯ル好結果ヲ得タルハ果シテ何ニ原因スルヤト云フニ衛生官及検査官ノ下ニ使役セラル、者ノ不馴ナルモノニ對シテ最モ注意ヲ加ヘテ訓諭ヲ加ヘタル結果ニ外ナラス

三、(は)項ノ検査法ノ結果如何ト云フニ掛官ノ訓諭アリタルカ爲メ接觸的患者ノ數減少シタル事ハ亦タ疑フヘカラスト雖モ其結果ハ充分ナリト云フヲ得ズ、又タ斯ル患者ハ固ヨリ入院セシムヘキモノナレトモ、今日ノ病院ノ有様ニテハ其設備不十分ニシテ數多ノ斯ル患者ヲ收容スルニ足ラサルナリ

病院ノ設備

衛生局ハ傳染病看護ノ爲メニ左記ノ如キ病院ノ設備ヲ爲セリ、曰ク痘瘡ノ離隔病院寢臺三十五、實布埤里亞傳染病院寢臺六十五、郡立猩紅熱病院寢臺百二十五、實布埤里亞及猩紅熱ジウランド病院寢臺若干ニシ